

K-125

天童市埋蔵文化財調査報告書第32集

# 天童市西沼田遺跡

—第一回発掘調査報告書—

平成18年3月

天童市教育委員会

# **天童市西沼田遺跡**

**—第Ⅱ次発掘調査報告書—**

**平成18年3月**

**天童市教育委員会**

## 序 文

西沼田遺跡は、沼田という地名からもわかるとおり、非常に地下水位の高いところであります。

そうした環境の中、土中に眠る木製の遺物が良好に保存されてきました。建物の柱、その他の部材が多く残っていることから、建物の構造等について明らかになりつつあります。また、集落のみならず、周辺で営まれていたであろう水田等についてもこれまでの調査で徐々にではありますが判明しつつあります。

本報告書は、史跡指定地北側で確認された河川跡や遺構、遺物についてまとめたものです。河川跡については、この調査をきっかけに、これに継続する調査によって遺跡東側を巡るものであることが判明しました。また、遺構、遺物の出土状況から、集落の北限を明らかにすることができました。

本書を今後の調査研究、あるいは埋蔵文化財に対する普及啓発の一助となるように御活用いただければ幸いに存じます。

最後に、発掘調査のために御指導、御協力いただきました地元の方々、発掘作業員のみなさまをはじめとする関係諸機関、諸氏に厚くお礼を申し上げます。

今後とも適切な御助言、御指導を賜りますようお願い申し上げ、ごあいさつといたします。

平成18年3月

天童市教育委員会

教育長 酒井順一

## 例　　言

- 1 本書は、国史跡・西沼田遺跡の整備に係る第Ⅱ次発掘調査の報告書である。
- 2 本書に収録した内容は、『西沼田遺跡－第Ⅱ次発掘調査概報一』(1999)において概要を報告している。なお、本報告書において、一部訂正を行っているので御了承いただきたい。
- 3 発掘調査は、天童市教育委員会が実施した。
- 4 調査要項は、下記のとおりである。

遺跡名　西沼田遺跡

所在地　山形県天童市大字矢野目3295番地ほか

遺跡番号　山形県遺跡番号344（天童市遺跡番号114）

調査期間

発掘調査　平成10年6月15日～平成10年8月12日

整理作業　平成16年4月1日～平成18年3月31日

調査担当

発掘調査　押野　一貴（社会教育課主事）

岡崎　友美（社会教育課文化財専門員）

整理作業　押野　一貴（文化振興課主事）

岡崎　友美（文化振興課主事）

山澤　護（文化振興課臨時職員）

事務局　深瀬　正人（社会教育課長・平成10年度）

今川　文俊（文化振興課長・平成16・17年度）

高橋　秀司（社会教育課副主幹兼文化係長・平成10年度）

長谷川義昭（文化振興課課長補佐兼文化財係長・平成16・17年度）

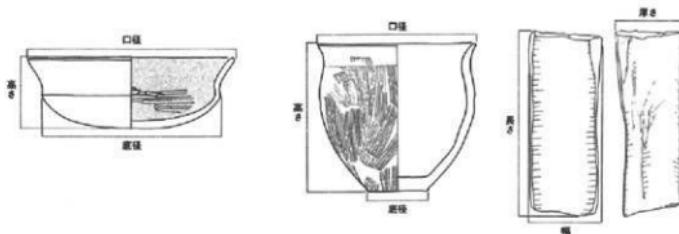
押野　一貴

岡崎　友美

- 5 本書の執筆は、第Ⅰ、第Ⅲ章第2節3-(2)、第Ⅳ章を岡崎友美が、第Ⅱ章、第Ⅲ章第1節・第2節1・2・3-(1)を押野一貴が執筆した。
- 6 木製品の樹種分析は、吉田生物研究所に委託した。
- 7 発掘調査から本書の刊行に至るまで、文化庁、山形県教育庁社会教育課文化財保護室、  
（財）山形県埋蔵文化財センター、三郷堰土地改良区、西沼田遺跡整備検討委員会等の諸機  
関から御指導、御協力をいただいた。記して謝意を表する。
- 8 本調査で出土した資料は、天童市教育委員会で一括保管する。

## 凡　　例

- 1 土層の色調の記載は、1996年版農林水産省水産技術会議事務局監修の『新版標準土色帖』によった。
- 2 土層断面図における■は黄褐色砂層、■は赤褐色砂層、■は灰褐色砂層を、遺構平面図における■は杭、■は茎状遺構、■は木製品を、遺物実測図における■は内面黒色處理、2色刷は朱彩を、■は炭化を示す。
- 3 遺物分布図掲載の出土遺物番号と遺物実測図中の番号は、遺物実測図の番号で統一している。
- 4 出土遺物の計測方法は、下記のとおりである。



- 5 諸観察表中の（ ）内の数値は、推定値である。
- 6 図版掲載遺物写真右下の数字は、遺物番号を示す。

## 目 次

第Ⅰ章 序.....	1
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 遺跡の立地と環境.....	1
第3節 周辺遺跡と歴史的環境.....	3
第Ⅱ章 調査の概要.....	7
第1節 調査の方法と経過.....	7
第2節 基本層序.....	8
第Ⅲ章 遺構と遺物.....	10
第1節 トレンチ調査.....	10
第2節 拡張区.....	10
1 概要.....	10
2 遺構.....	14
3 遺物.....	22
(1) 分布.....	22
(2) 遺物.....	23
第Ⅳ章 まとめ.....	74
抄録	

## 挿図目次

第1図 周辺地形図.....	2	第12図 C 1 - h 9 ~ C 2 - i 1 遺構図.....	18
第2図 周辺の遺跡.....	4	第13図 C 1 - j 9 ~ D 2 - a 1 遺構図.....	19
第3図 グリッド設定図.....	7	第14図 D 1 - b 9 ~ D 2 - c 1 遺構図.....	20
第4図 基本層序.....	8	第15図 D 1 - d 9 ~ D 2 - e 1 遺構図.....	21
第5図 発掘区設定図.....	9	第16図 C 1 - f 9 ~ C 2 - h 1 遺物分布及び出土遺物(1).....	24
第6図 トレンチ実測図(1).....	11	第17図 C 1 - f 9 ~ C 2 - h 1 遺物分布及び出土遺物(2).....	25
第7図 トレンチ実測図(2).....	12	第18図 C 1 - i 9 ~ D 1 - a 10 遺物	
第8図 トレンチ実測図(3).....	13		
第9図 遺構図.....	15		
第10図 遺物分布図.....	15		
第11図 C 1 - f 9 ~ C 2 - h 1 遺構図.....	17		

	分布及び出土遺物(1).....	26		第34図 出土遺物(3).....	45
第19図	C 1 - i 9 ~ D 1 - a 10 遺物			第35図 出土遺物(4).....	46
	分布及び出土遺物(2).....	27		第36図 出土遺物(5).....	47
第20図	C 2 - i 1 ~ C 2 - j 1 遺物			第37図 出土遺物(6).....	48
	分布及び出土遺物.....	28		第38図 出土遺物(7).....	49
第21図	D 1 - b 9 ~ D 1 - c 10 遺物			第39図 出土遺物(8).....	50
	分布及び出土遺物(1).....	30		第40図 出土遺物(9).....	51
第22図	D 1 - b 9 ~ D 1 - c 10 遺物			第41図 出土遺物(10).....	52
	分布及び出土遺物(2).....	31		第42図 出土遺物(11).....	53
第23図	D 1 - d 9 ~ D 1 - e 10 遺物			第43図 出土遺物(12).....	54
	分布及び出土遺物.....	32		第44図 出土遺物(13).....	55
第24図	D 2 - a 1 遺物分布			第45図 出土遺物(14).....	56
	及び出土遺物(1).....	34		第46図 出土遺物(15).....	57
第25図	D 2 - a 1 遺物分布			第47図 出土遺物(16).....	58
	及び出土遺物(2).....	35		第48図 出土遺物(17).....	59
第26図	D 2 - b 1 遺物分布			第49図 出土遺物(18).....	60
	及び出土遺物(1).....	36		第50図 出土遺物(19).....	61
第27図	D 2 - b 1 遺物分布			第51図 出土遺物(20).....	62
	及び出土遺物(2).....	37		第52図 出土遺物(21).....	63
第28図	D 2 - c 1 遺物分布			第53図 出土遺物(22).....	64
	及び出土遺物.....	38		第54図 出土遺物(23).....	65
第29図	D 2 - d 1 遺物分布			第55図 出土遺物(24).....	66
	及び出土遺物.....	39		第56図 出土遺物(25).....	67
第30図	D 2 - e 1 遺物分布			第57図 出土遺物(26).....	68
	及び出土遺物(1).....	40		第58図 出土遺物(27).....	69
第31図	D 2 - e 1 遺物分布			第59図 出土遺物(28).....	70
	及び出土遺物(2).....	41		第60図 出土遺物(29).....	71
第32図	出土遺物(1).....	43		第61図 出土遺物(30).....	72
第33図	出土遺物(2).....	44		第62図 出土遺物(31).....	73

## 表 目 次

第1表 土器観察表.....	76	第4表 石器観察表.....	92
第2表 土・石製品観察表.....	90	第5表 木製品観察表.....	92
第3表 須恵器観察表.....	91		

## 図版目次

図版 1 拡張区全景	図版30 出土遺物(16)
図版 2 拡張区 (C 1 - f 9 ~ C 2 - j 1 区)	図版31 出土遺物(17)
図版 3 拡張区 (D 1 - a 9 ~ D 2 - e 1 区)	図版32 出土遺物(18)
図版 4 作業風景 C 2 - f 1 · D 1 - a 9 区出土状況	図版33 出土遺物(19)
図版 5 坏出土状況	図版34 出土遺物(20)
図版 6 高坏出土状況	図版35 出土遺物(21)
図版 7 D 2 - d 1 区、甕・土玉出土状況	図版36 出土遺物(22)
図版 8 甕・瓶・須恵器出土状況	図版37 出土遺物(23)
図版 9 甕出土状況	図版38 出土遺物(24)
図版10 杭材・堅杵出土状況	図版39 出土遺物(25)
図版11 堅杵出土状況	図版40 出土遺物(26)
図版12 堅杵出土状況	図版41 出土遺物(27)
図版13 堅杵・木製品・たたり出土状況	図版42 出土遺物(28)
図版14 土器・皮状製品出土状況	図版43 出土遺物(29)
図版15 出土遺物(1)	図版44 出土遺物(30)
図版16 出土遺物(2)	図版45 出土遺物(31)
図版17 出土遺物(3)	図版46 出土遺物(32)
図版18 出土遺物(4)	図版47 出土遺物(33)
図版19 出土遺物(5)	図版48 出土遺物(34)
図版20 出土遺物(6)	図版49 出土遺物(35)
図版21 出土遺物(7)	図版50 出土遺物(36)
図版22 出土遺物(8)	図版51 出土遺物(37)
図版23 出土遺物(9)	図版52 出土遺物(38)
図版24 出土遺物(10)	図版53 出土遺物(39)
図版25 出土遺物(11)	図版54 出土遺物(40)
図版26 出土遺物(12)	図版55 出土遺物(41)
図版27 出土遺物(13)	図版56 出土遺物(42)
図版28 出土遺物(14)	図版57 出土遺物(43)
図版29 出土遺物(15)	

# 第Ⅰ章 序

## 第1節 調査に至る経緯

西沼田遺跡は、昭和60年度に山形県営圃場整備事業の事前調査として、山形県教育委員会によって発掘調査が行われ、出土した土器や木製品等の遺物、掘立柱建物等の遺構は、6世紀を中心とする古墳時代後期の大変貴重な資料であることがわかった。このため圃場整備の中止、遺跡の保存が決定された。

これを受けて天童市では、昭和61年7月に国指定申請を行い、翌昭和62年1月26日に国史跡「西沼田遺跡」として指定され、併せて、遺跡範囲約33,000m<sup>2</sup>を公有化し、保存・活用を図ることにした。

昭和63年から、西沼田遺跡の保存・整備・活用に関して、有識者による「西沼田遺跡整備懇談会」が行われ、平成5年には「西沼田遺跡整備検討委員会」に改組され、年1~2度の割合で検討を行ってきた。そこでさまざまな検討が行われた結果、平成12年1月25日には中間答申とでも言うべき経過報告が市に対して提出された。

この検討委員会において、昭和60年度の調査で埋め戻した建築部材等の木材の遺存状況の確認、遺跡の詳細な範囲の確認、田や畑等の生産遺構の確認等が課題として提出された。

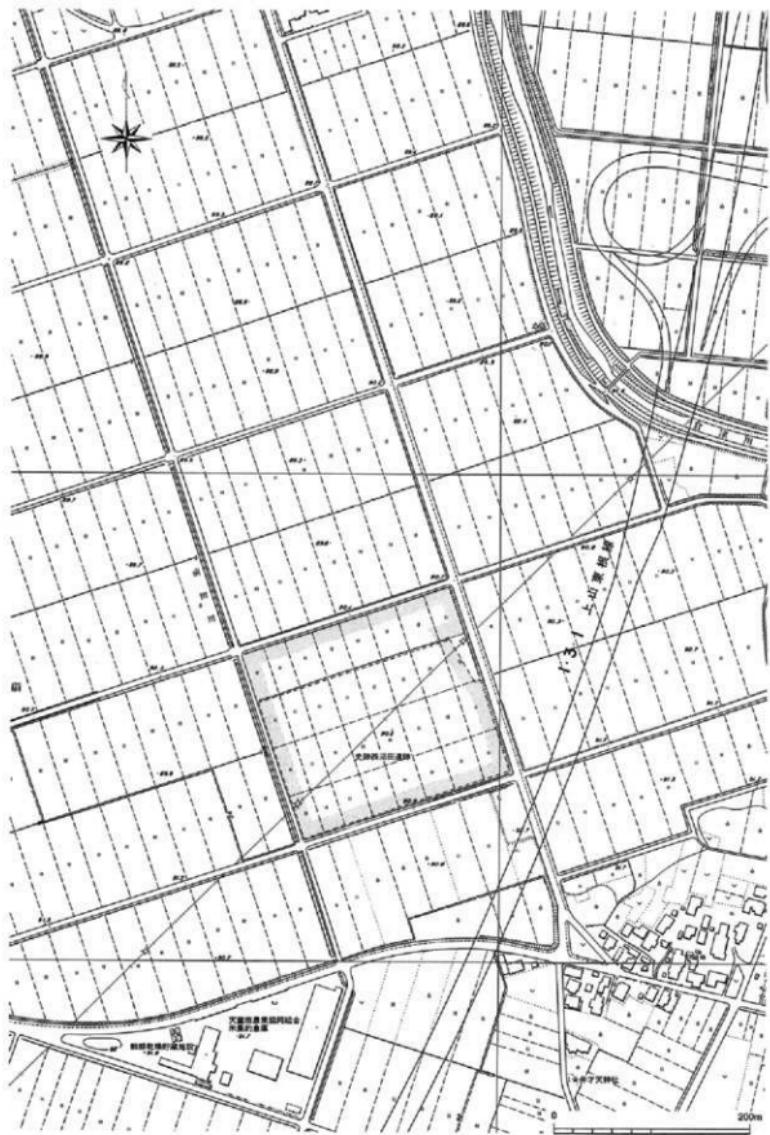
天童市教育委員会では、これらの課題をふまえて、平成6年度から国庫補助事業として発掘調査を実施している。平成9年度から平成16年度にかけては（平成14年度を除く）、史跡整備に係る調査を実施し、平成15年度には、北側に隣接する区域約12,000m<sup>2</sup>が国指定史跡として追加指定を受けている。今回の報告は、平成10年度に実施した史跡指定地（当時）北側区域の確認調査の報告書である。

## 第2節 遺跡の立地と環境（第1図）

西沼田遺跡は、天童市大字矢野目字西沼田地内に所在し、天童市街地の中心部から西方約3km、主要地方道天童大江線（県道23号線）の南側に位置している。北緯38°21'、東經140°20'、標高は約90mを測る。

山形盆地は、山形県内のほぼ中心部に位置し、県内を縦貫する最上川は、盆地の西寄りを北流している。天童市は、この盆地の中央部に位置し、東は脊梁山脈である奥羽山脈、西は最上川、南は立谷川、北は乱川によって画されている。

立谷川、乱川はそれぞれ水源を奥羽山脈に発し、西方の最上川に流れ込み、増水時の土砂の流出により立谷川扇状地、乱川扇状地を形成している。立谷川扇状地は、高瀬川との複合扇状地であり、当該地の北半分が天童市域に入り、乱川扇状地も複数の支流との複合扇状地であり、半径が約11kmに及び、南半分が天童市域に入っている。これらの扇状地の扇端部には、豊富な湧泉があり、古くから人々の生活と密接な関わりを持ってきている。



第1図 周辺地形図 (S = 1 : 5,000)

また、天童市の西方を流れる最上川の右岸には、氾濫原によって形成された、幅1km程の帯状の微高地が続き、立谷川、乱川の両扇状地に囲まれた天童市西城平野部の三角形状の地域には、天童低地と呼ばれる後背湿地が広がっている。西沼田遺跡はこの天童低地の中の微高地上に立地している。

西沼田遺跡の周辺は、遺跡の東側を流れる倉津川や、南東から北西方向にかけて流れの確認されている旧前田川によって自然堤防状の微高地が形成されている。また、沖積平野の特徴をよく示し平坦であるが、東から西に低く、南から北に低い傾斜を示している。

西沼田遺跡周辺の土壤は、黒泥土壌が主体であり、現在も広範囲に水田耕作の土地利用が図られている。地層は、シルト及び粘土の土質によって形成されているが、その基盤は、第4期完新世の個体結堆積物である礫及び砂の層から成り立っている。

乱川扇状地扇端部の湧水帶付近や、本遺跡周辺の微高地には、縄文時代から中世にかけての遺跡が数多く分布している。比較的乾燥した微高地と、周りに広がる湿潤な低地は、水稻農耕の発達と、その後に続く集落の人々の生活を支える上で、非常に適した環境であったといえよう。

### 第3節 周辺遺跡と歴史的環境（第2図）

西沼田遺跡の周辺では、近年、東北自動車道相馬・尾花沢線の建設に伴い、県埋蔵文化財センターによって発掘調査が実施され、各時代の様相について明らかになりつつある。ここでは、これまでに調査が実施された遺跡を中心に西沼田遺跡周辺の遺跡について概観しておきたい。

天童市内において、旧石器時代の遺跡はまだ確認されていないが、縄文時代前期の遺跡として、上荒谷（2）、柏木（3）、地図外であるが、かくまくぼ遺跡等が確認されている。

上荒谷遺跡は、立谷川扇状地の扇頂部に位置し、出土した土器片や、石鏸、土偶などから縄文時代前期初頭の遺跡と考えられる。ここで出土した土偶は高さ7.5cmで、頭部と両腕を胴体部に含めた素朴なもので、県内最古の土偶の一つである。

中期から後期前半にかけては、伝覚平（4）、上貫津（5）のように山麓の湧水地または小河川の付近や、清池（6）のように扇状地の湧水地に多くの分布が見られる。平成10年度に県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した板橋1遺跡（8）においては、中期前葉の大木7a式と後期中葉の土器の2つの時期の遺物が出土し、県内の出土例が少ないとことから、貴重な調査例として注目されるところである。

後期後半から晩期にかけては遺跡数が増加し、高木石田（9）、白山堂（10）、毘沙門寺（11）、綿掛B（12）等、扇状地扇端部の湧水帶や後背湿地の微高地に遺跡の分布がみられるようになる。西沼田遺跡周辺の矢野目地区では、遺跡の南に位置する矢口遺跡（13）から、竪穴住居跡と土器や石器等が、西側の願正塙遺跡（14）からも少量ではあるが縄文土器等が出土している。



第2図 周辺の遺跡 (S = 1 : 50,000)

- 4 -

また、立谷川扇状地の扇央部側縁に位置する宮田遺跡（15）からは、多くの土器や石鎚、石鏟、石匙、凹石、土製品が出土している。

後期後半から晩期、弥生時代にかけての遺跡は乱川扇状地の扇端部付近である成生地区の微高地に多く、地蔵池A（16）、金谷（17）、熊野堂前（18）、瓜小屋（19）等が挙げられる。なかでも地蔵池A遺跡からは、炉と思われる集石構造を伴った住居跡の一部が検出されたほか、やや離れた地点より埋甕の遺構も検出されている。

また、立谷川扇状地の前縁部に位置する砂子田遺跡（20）からも、縄文時代後期の集落跡が検出され、その西側から、埋甕と思われる深鉢が大量に出土している。

古墳時代の遺跡は、扇状地の扇端部から天童低地まで、最上川の氾濫原の東端に沿って広く分布している。

古墳時代前期の遺跡としては、塙野目A（21）、高木原口（22）、板橋2（23）、中期では同じく板橋2、的場（24）、蔵増押切（25）、後期では、願正塙、鍋田（26）等が挙げられる。

なお、板橋1・2、的場、蔵増押切、砂子田遺跡は、県埋蔵文化財センターにより、東北自動車道相馬・尾花沢線の建設事業に伴って発掘調査された遺跡である。

板橋2遺跡からは、第2次調査において、西沼田遺跡よりも古い古墳時代前期塙釜式の土師器が竪穴住居跡より出土し、また第3次調査においては、古墳時代中期南小泉式の土師器が炉跡を伴った竪穴住居跡より出土している。

的場遺跡からも、同じく古墳時代中期の土師器が炉跡を持つ竪穴住居跡から出土しているが、板橋2遺跡より時代は新しいようである。

蔵増押切遺跡では、古墳時代中期の竪穴住居跡が河川跡を挟んで帯状にのびている様子をみることができる。

古墳に関しては、原形をとどめているものはほとんどなく、高擣地区の上遠矢塙古墳（27）がわずかに墳丘の面影を残している。

この古墳の西側には、下遠矢塙古墳（28）があったといわれているが、明治35年の高擣小学校建設の際に、土砂として利用され失われてしまった。

ほかに、遠矢塙古墳の南、清池八幡神社の近くにも火矢塙1号（29）、2号（30）が並んでいたといわれているが、昭和27年頃の圃場整備により崩壊し、明治初年の地籍図にその存在を確認するのみとなっている。1号墳からは、割竹形木棺が出土したといわれているが定かではない。

上遠矢塙古墳は、昭和50年から51年にかけて天童市史編さん室によって発掘調査が行われているが、その結果、径24m前後の円墳で、外周には幅5m前後、深さ0.5mから1.2mほどの周濠が巡っていたこと、墳丘の崩れを防ぐため版築で土を盛り固めた後、墳丘の下部と上部の墳頂を囲むように幅約1mの礫石帯が葺石状に張り付けられていたことが明らかになった。

ただ、明治12年の県道改修の際に行われた発掘調査で出土した、甲冑、刀剣、頸蓋骨、歯骨、甕等の遺物は、現在全く所在不明であり、当事の村役人から天童警察分署へ提出された書類の中にみえるのみである。

古墳時代も終わりにさしかかると、鎌田や高木原口、願正塙遺跡など、低湿地への進出が進むほか、山麓や河川の谷奥部に至るまで遺跡の分布がみられるようになる。

古墳の形態も、八幡山古墳（31）や成生古墳群（32）にみられるような群集墳がつくられはじめる。

奈良時代にはいると、律令体制の整備に伴い条里制が施行されるが、天童市内においても8世紀後半には施行されていたと推測される。二条条里遺構（33）や千刈条里遺構（34）にその名残を認めることができるほか、明治初年の地籍図などで、高擡地区、成生地区、貴津地区などに広くその痕跡をみることができる。

集落跡は、老野森の光戒塙遺跡（35）や温泉の北側にある千刈（36）、糠塚を含む一帯と、清池の西側の礼井戸（37）、芳賀の東の桜段（38）、岡屋敷（39）、芳賀古屋敷（40）、現長岡団地の中里B（41）などの立谷川扇状地の扇央部や、中袋（42）、塚野目B（43）、小矢野目（44）、地蔵池B（45）、藏増北B（46）などの扇状地扇端部に遺跡が多く分布している。

同じ時代の窯跡は、市内では、石倉窯跡（47）、貴津御阿弥陀窯跡（48）、二子沢窯跡群（49）、原崎古窯跡群（50）、瀬戸山古窯跡（51）、荒井原窯跡（52）、谷地中窯跡（53）等が確認されており、需給関係等の解明が待たれる。

中世においては、藏増押切、二階堂（54）、高野坊（55）など、成生庄関係の遺跡が目立つ。成生庄は現在の天童市のほぼ全域を含み、安元2年（1167）「八条院目録」に「出羽国大山成生」として記載されていることから、12世紀頃には成立していたと考えられる。

二階堂遺跡は、大清水の北に位置する、一辺120m、つまり方一町を幅約12mの空塹で囲まれた一画である。「二階堂」や「二階堂池」などの地名から、鎌倉幕府の地頭二階堂氏の館、もしくは、成生庄を管轄する政庁跡ではないかと考えられている。

また、この遺跡のすぐそばには高野坊遺跡があり、平成8年度に天童市教育委員会が実施した調査において、成生庄や時宗の動向を示す墨書きが大量に出土し、当事の様相が明らかになりつつある。また、藏増押切遺跡からは古墳時代の遺物・遺構が出土した範囲よりもさらに南側の地区から、掘立柱建物跡、井戸跡などが検出され、有力豪族の屋敷跡ではないかと推測され、注目されるところである。

## 第Ⅱ章 調査の概要

### 第1節 調査の方法と経過

発掘調査は、平成10年度に実施した。本調査の目的は、史跡指定地北側区域（当時）における遺構・遺物の分布状況及び水田等の生産遺構の有無の確認を目的としたものである。

グリッド設定は、史跡指定範囲及び北側水田域に対して40m方眼の大グリッドを設定し、東西方向にアルファベット（大文字）を、南北方向に数字を付した。また、それぞれの大グリッドに4m方眼の少グリッドを設定し、東西方向にアルファベット（小文字）、南北方向に数字を付して呼称している（第3図）。

A										
a1	b1	c1	d1	e1	f1	g1	h1	i1	j1	p1
a2	b2									
a3		c3								
a4			d4							
a5				e5						
a6					f6					
a7						g7				
a8							h8			
a9								i9		
a10									j10	

第3図 グリッド設定図

上記の目的から、C 1～F 1 区に調査区を設定した（第5図）。

はじめに、C 1-a 10区～F 1-j 10区にかけて、2m幅のトレーナーを設け、遺構・遺物の分布状況の確認を行った。

土層を確認したところⅡ b 層もしくはⅢ層上に3枚の砂層が確認されたことから、遺跡は数度にわたって河川の氾濫を受けたことが想定される。

F 1-i 10区で河川跡が確認された。この河川跡については、南北に伸びることが想定されたことから、平成11・12年度に流路の確認を目的とした調査を実施し、遺跡中央の集落跡の南側から東を迂回し、北側に流れる一連の河川であることが判明している<sup>31)</sup>。

また、C・D 1 区は、木材、遺物が濃密に分布していたことから、この範囲を中心として拡張区を設け、精査を行った。範囲は、C 1-f 9～D 1-e 2 区で、東西40m、南北12m、面積480m<sup>2</sup>である。

遺構・遺物の分布状況は、遺物及び杭材が重なり合うように拡張区南側に集中して見られるのに対して、建築材が主に北側から多く出土するというような特徴がみられた。

なお、遺物の取り上げは、できる限り番号を付して取り上げたが、1番号=1点というわけではなく、一定のまとまりに対して番号を付した。そのため、図上では1点の遺物が2つ以上の接合関係を有するかのようになっている。

## 第2節 基本層序（第4図）

基本的な堆積状況は、第Ⅰ層2.5Y 4/2 黒色土、第Ⅱ層5Y 2/1 黒色粘質土、黄褐色砂層、赤褐色砂層、灰褐色砂層、第Ⅲ層7.5Y 2/1 黒色土、第Ⅳ層7.5Y 3/2 オリーブ黒色土、第Ⅴ層7.5Y 5/1 灰色粘土である。第Ⅱ層については、分層可能なところのみa、b層に分層している。

第Ⅰ層が表土、第Ⅱ層が奈良・平安時代、第Ⅲ層が古墳時代の遺物包含層である。平成12年度の調査の際、テフラ分析を行ったところ、第Ⅱ層中に十和田aテフラ（915年）が堆積していることがわかっている。また、第Ⅲ層中からもテフラが検出され、榛名二ツ岳伊香保テフラ（6世紀中葉）の可能性が指摘されている<sup>12</sup>。第Ⅴ層は地山である。

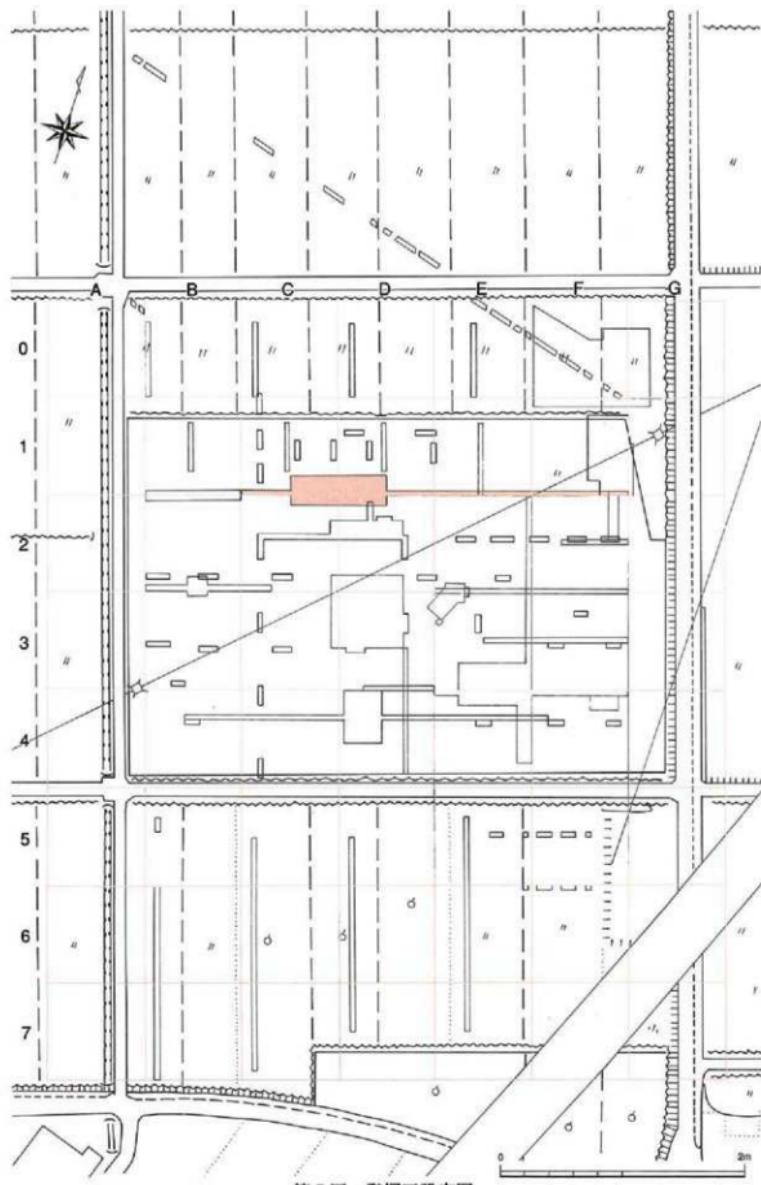
なお、平成11年度から平成13年度にかけて実施した追加指定地の調査の際、層序区分をアラビア数字で1～17層に分層しているが、既指定地との対比は下記のとおりである。

註1 天童市教育委員会2002『天童市西沼田遺跡一周辺発掘調査報告書一』天童市埋蔵文化財調査報告書第28集

註2 輸古環境研究所2002『西沼田遺跡の自然化学分析』『天童市西沼田遺跡一周辺発掘調査報告書一』天童市埋蔵文化財調査報告書第28集

2.5Y4/2 黒色土	第 I 層	第 1 層	10YR2/3 黒褐色砂質土
5Y2/1 黒色粘質土	第 II a層	第 2 層	10YR2/1 黒色砂質土
5Y2/1 黒色粘質土	第 II b層	第 3 層	10YR2/3 黑褐色粘質土
7.5Y2/1 黒色土	第 III 層	第 4 層	2.5Y4/1 黄灰色砂質土
7.5Y3/2 オリーブ黒色粘質土	第 IV 层	第 5 层	2.5Y4/1 黄灰色砂質土
7.5Y5/1 灰色粘土	第 V 层	第 6 层	10YR4/1 暗褐色砂質土
10YR1.7/1 黒色粘土	第 VI 层	第 7 层	5Y3/1 オリーブ黒色粘質土
		第 8 层	2.5Y2/1 黒色粘土
		第 9 层	10YR3/2 黑褐色粘質土
		第 10 a層	10YR4/1 暗褐色粘質土
		第 10 b層	5Y5/1 灰色粘土
		第 10 c層	10YR4/1 暗褐色粘土
		第 10 d層	5Y5/1 灰色粘土
		第 11 层	2.5Y3/1 黑褐色粘土
		第 12 层	10YR2/1 黑色粘土
		第 13 层	2.5Y2/1 黑色粘土
		第 14 层	2.5Y3/1 黑褐色粘土
		第 15 层	5Y2/1 黑色粘土
		第 16 层	10YR1.7/1 黑色粘土
		第 17 层	5BG5/1 青灰色シルト

第4図 基本層序



第5図 発掘区設定図

### 第三章 遺構と遺物

#### 第1節 トレンチ調査（第6～8図）

土層断面の観察から、D 1 - d 10区～F 1 - d 10区にかけて砂層の堆積がみられる。下から灰褐色砂層、黄褐色砂層の順に堆積がみられる。また、灰褐色砂層中に、一部赤褐色砂層があり込む形で堆積している。いずれの砂層も粒子が粗く、洪水による堆積と考えられる。

基本層序との関係では、第II b層が見られない場合、第III層上に堆積し、第II b層が見られる場合、第II a層と第II b層の間に堆積していることから、第II b層堆積後に砂層が堆積したと想定される。したがって、堆積年代は西沼田遺跡の廃絶後、奈良・平安時代であろうか。

F 1 - d - e 10区で河川跡が確認された（第8図）。幅約290cm、確認面からの深さ約64cmである。覆土はやや粘性の低い黒色土である。

D 1 - f 10～C 1 - C 10区あたりにかけて木材が出土している。自然木もみられるが、建築材と想定されるものも多くみられた。

遺物は、E 1 - d 10区から木製品が出土している（第7図387・388）。たたりの台部と軸部が組み合わされた状態で出土している。

#### 第2節 拡張区

##### 1 概要（第9・10図）

拡張区からは多くの木材と遺物が出土した。

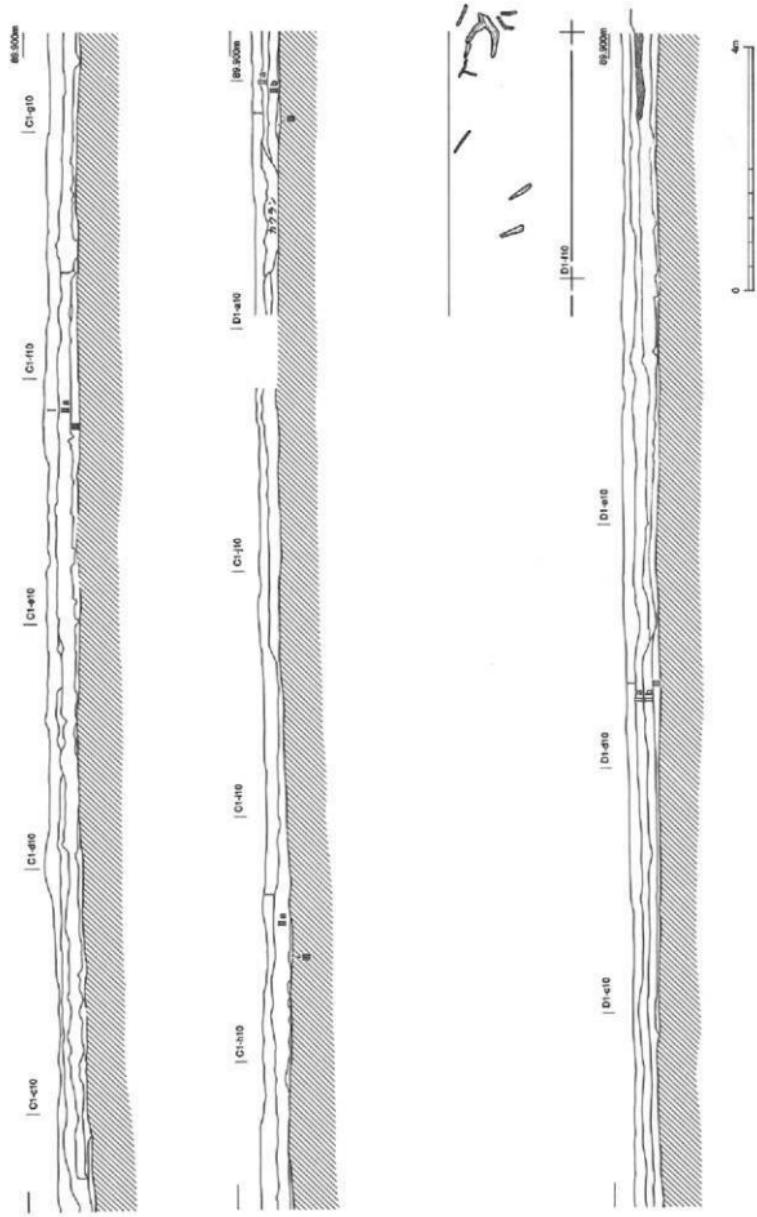
木材は明らかな仕事のあとが認められるものは少ないが、樹皮がないことや、比較的大型のものは半割材等が多いことなどから、ほとんどが建築材と想定される。一部樹根等、自然木も確認される。

分布状況は、杭材が拡張区南側からの出土が多く、北側からの出土はほとんどみられない。それに対して棒材、板材等の上物に係る材は拡張区北側から多く出土している。

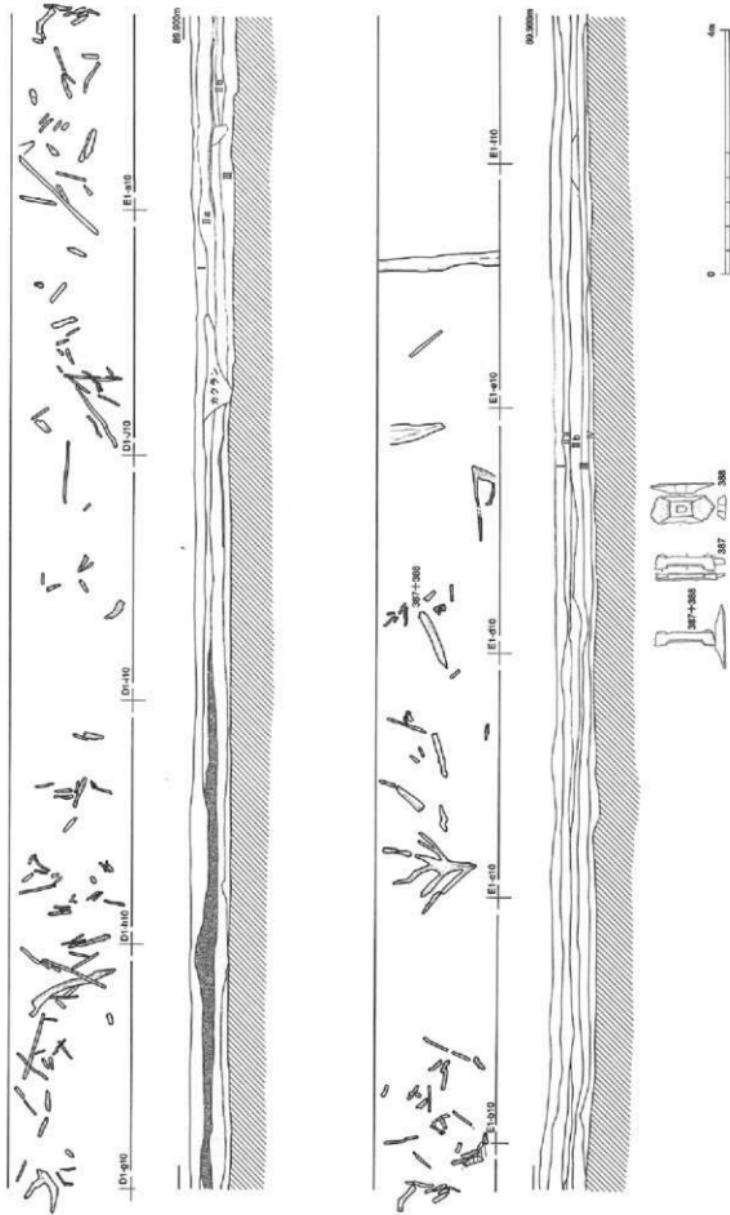
これら杭材や棒材等の木材が建物を構成するものであったと想定すると、本来的には、杭材の位置に建てられていたと想定される。したがって、杭材の位置とずれる板材、棒材等は、冠水等により本来の位置より北側に流されたものであろうか。

遺物は、杭材の出土状況同様、南側から多く出土している。いくつかの集中したまとまりが認められ、C 2 - f 1区付近、C 1 - h 10～C 2 - j 1区の横に広がる一群、D 2 - a - b 1区、D 2 - d - e 1区の一群等である。

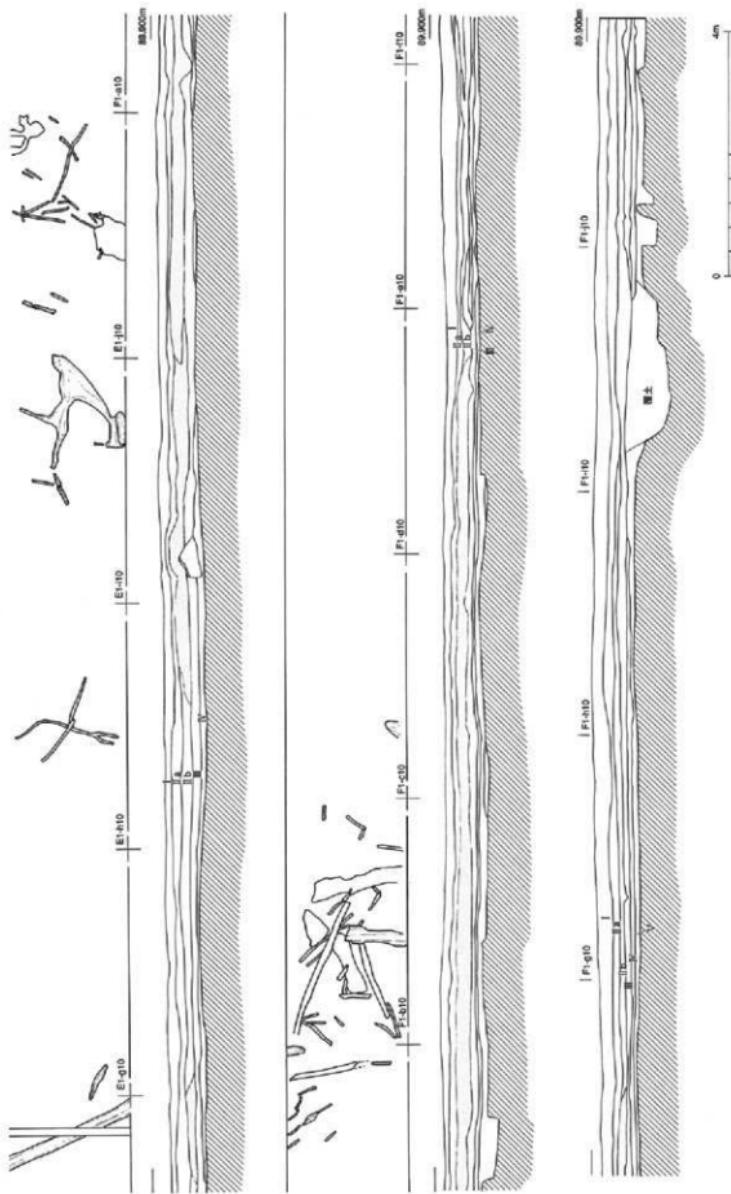
これらの遺物分布は、杭材の分布と非常によく整合しており、遺物は本来の位置からそれほど移動していないことが想定される。



第6図 トレンチ実測図(1)



第7図 トレンチ実測図(2)



第8図 トレンチ実測図(3)

器種構成は、すべての土器類を復元整理できたわけではないので、本報告書掲載の遺物からの推測にとどまるが、壺、高壺等の供膳具が189点、甕、瓶等の貯蔵・煮炊具が140点で、前者が約60%、後者が約40%を占める。第I次調査の遺物集中区では、これも復元されたものの割合でしかないが、供膳具92点、貯蔵・煮炊具31点であり、前者が約75%、後者が約25%であったのと比較して、貯蔵・煮炊具の割合が多いことが特徴的である。調査の段階でも、貯蔵・煮炊具が非常に多い印象を受けた。

土器以外では、木製品が、堅杵5点、槌1点等が出土している。いずれも生産に関わるものであり、土器群の貯蔵・煮炊具が卓越することと併せて考えると、この区域は、遺跡内において、生産・貯蔵に係る機能を有していたとの想定も可能であろうか。

## 2 遺構（第11～15図）

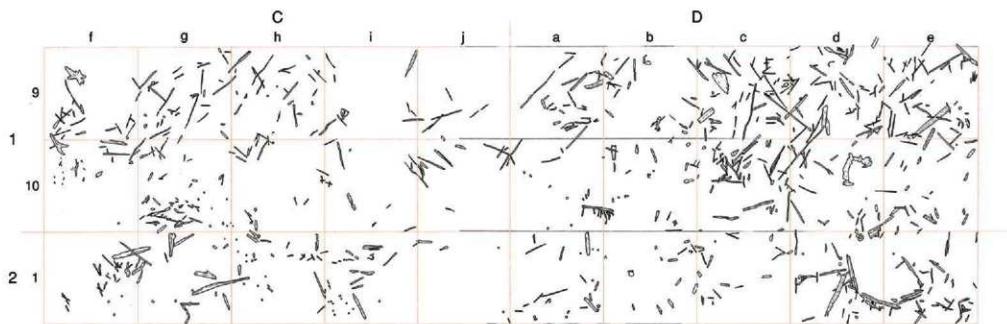
分布状況は、C 1 - f 9～C 1 - h 9区、C 2 - f 1～C 2 - i 1区、D 1 - c 9～D 1 - e 9区に比較的まとまった分布が認められるが、杭材、遺物等の分布と離れており、本来の位置ではない可能性があること、集中する部分とそれ以外のところの分布が、散漫ではあるが連続しており、区分することが困難であることから、遺構図は、小区画6区画ごとに機械的に区切って掲載している。

C 1 - f 9～C 2 - f 1区からは、杭材が11本、その他建築材、堅杵が出土している（第11図）。C 2 - g 1区を中心に杭材がまとまっており、径約10cmのものが多い。また、同区域からは、比較的大型の材が出土している。大きなもので幅約20cm、長さ約170cmを測る。一方で、細い棒材は幅5cm程度のものが多くみられる。C 1 - f 10区では、二又材が出土している。柱材であろうか。また、堅杵が1点出土している。

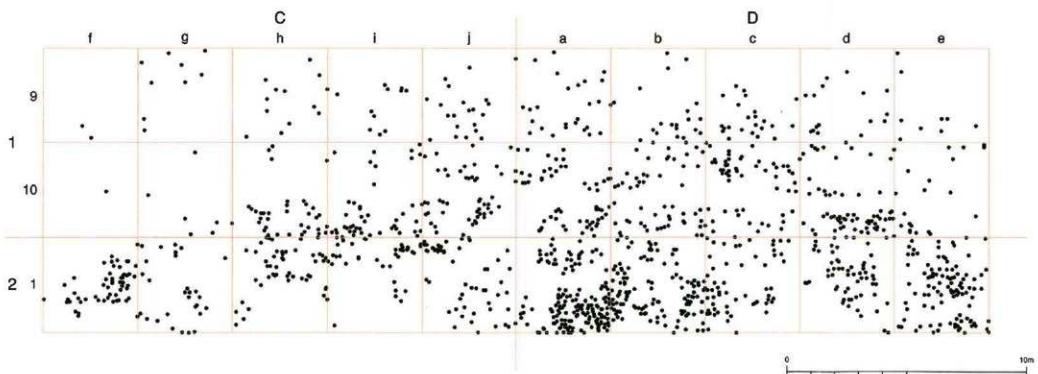
C 1 - h 9～C 2 - i 1区からは、杭材11点、棒材、丸太材、板材が出土している（第12図）。杭材は、C 2 - h - i 1区からまとまって検出されている。径6cm前後のものが多い。同区域からは比較的大型の丸太材が多く出土しており、また、茎状の遺構が検出された。C 1 - h 9区で検出された棒材は、ほぼ同一方向を向いて出土している。軸方位は、およそN-26°-Eである。また、C 1 - h 10・C 2 - h 1区、C 1 - i 10・C 2 - i 1区の杭材は、C 1 - h 9区で検出された棒材と同一の軸方位に並ぶ傾向がみられる。

C 1 - j 9～D 2 - a 1区にかけては、杭材12点、細い棒材、丸太材等が出土している（第13図）。杭材は、径約10cmのものや、約4cmの細いものの2種が認められる。D 1 - a 10・D 2 - a 1区からまとまって出土している。D 1 - a 9区の棒材は、N-34°-Eと、C 1 - h 9区のものとほぼ同一方向を指向している。

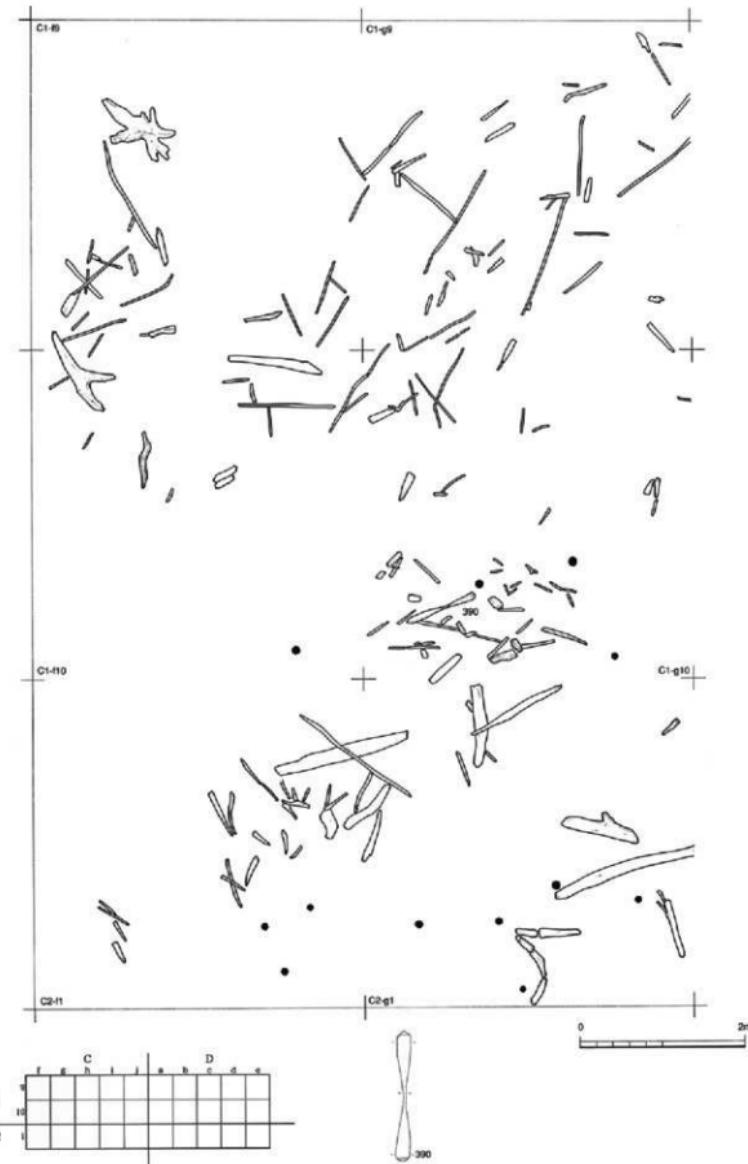
D 1 - b 9～D 2 - c 1区からは、杭材15点、丸太材、棒材、板材が出土している（第14図）。杭材は、D 1 - b - c 10区付近からまとまって検出された。太いもので径約11cm、細いもので約5cmである。D 1 - c 10区に杭材、丸太材、棒材等の集中がみられ、また、炭化した堅杵が3点出土している。D 2 - c 1区からは槌が出土している。堅杵周辺の細



第9図 遺構図

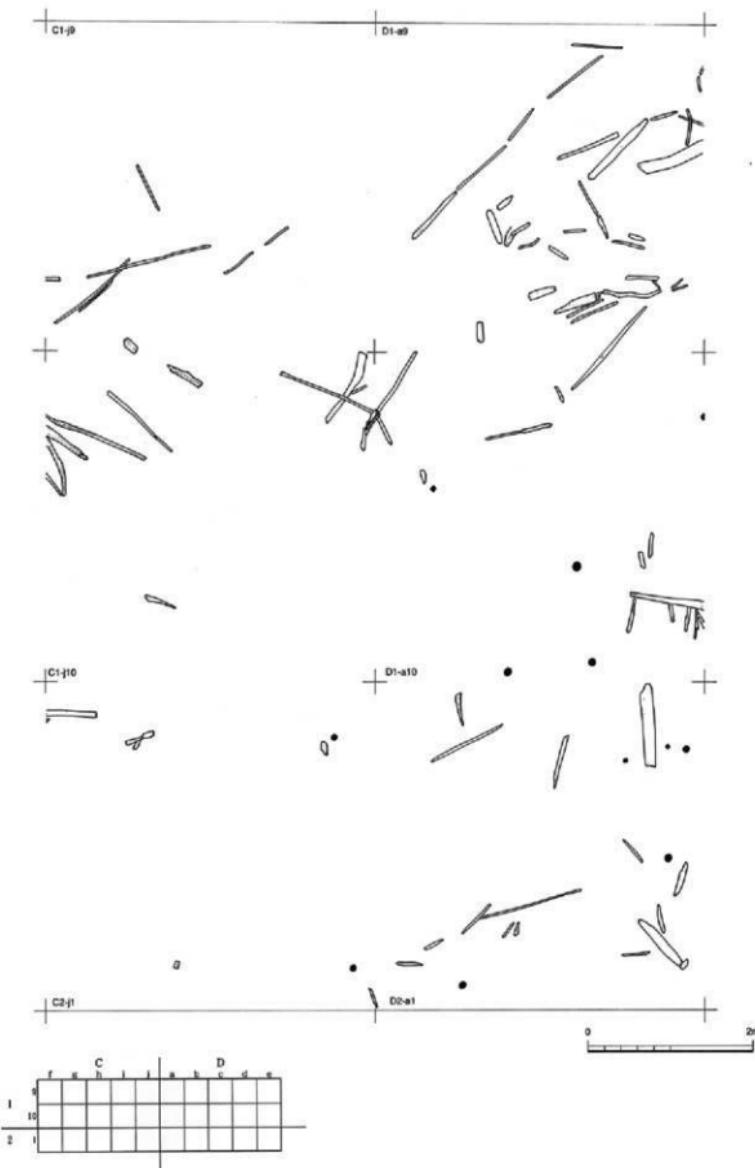


第10図 遺物分布図



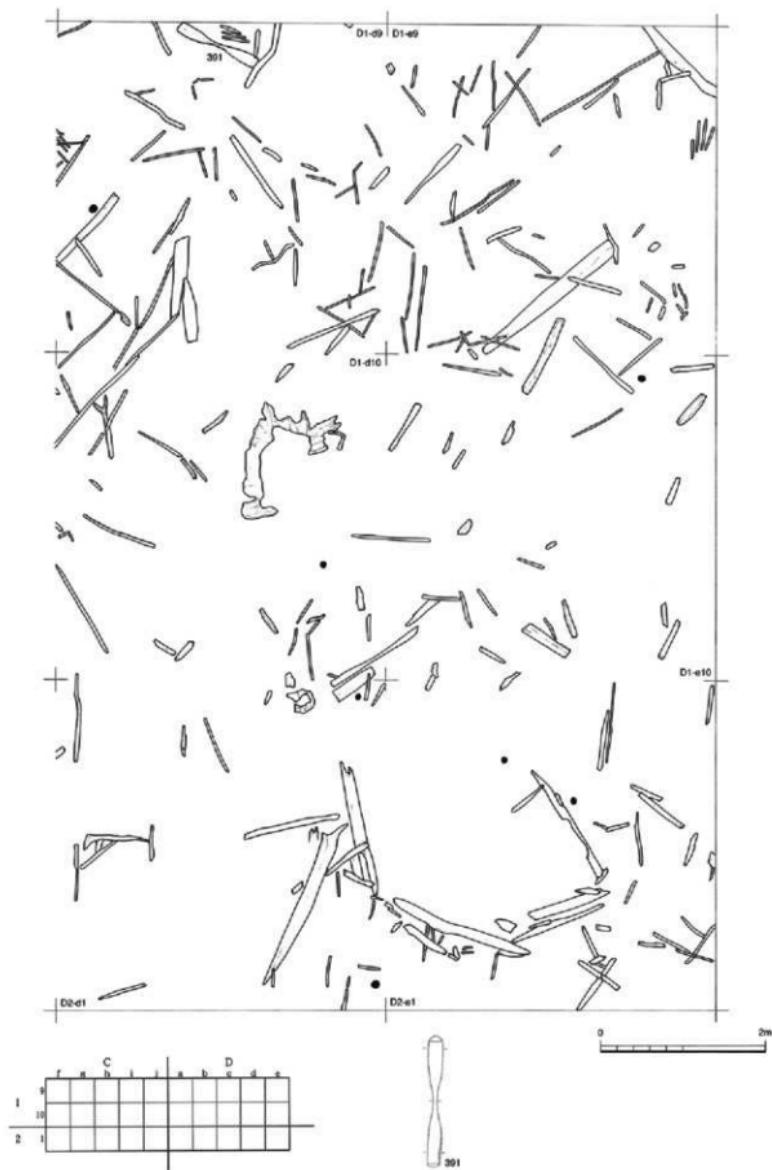
第11図 C1-f9～C2-h1遺構図





第13図 C 1 - j 9 ~ D 2 - a 1 遺構図





第15図 D1-d9 ~ D2-e1 遺構図

い材は、C 1 - h 9、D 1 - a 9区で出土した材同様、軸方向がN-39°-Eを向き、D 1 - c 9区出土の材はそれらと直行する方位に向いて出土する傾向がみられる。

D 1 - d 9～D 2 - e 1区からは杭材7本、丸太材、板材、棒材が検出された(第15図)。木材の出土がもっとも密である。また、杭材の分布が集中せず、散漫である。丸太材等の比較的大型の木材が多く出土している。D 1 - e 9区のもので幅20cm、長さ205cm、D 2 - d 1区のものは幅18cm、長さ220cmを測る。

D 1 - d 10区からは樹根が検出された。また、D 1 - d 9区からは堅杵が出土している。

### 3 遺物

#### (1) 分布(第16～31図)

遺物分布状況は、先述のとおりいくつかのまとまった範囲を想定することが可能であるが、まとまりごとが連続しており、はっきりと区切ることができないことから、任意に区切って掲載している。また、点上げ以外にも、グリッド一括で取上げたものが大量にある。

全体的な特徴として、比較的器種ごとにまとまり、また、器形的に類似したタイプのものが近接して出土する傾向がみられる。

C 2 - f 1区からは、甕(205・214・231・256・257・270・287)、甑(299・303・311・322)がまとまって出土した(第16・17図)。256・257は器形がよく似る。甑も小型の299・302が、また、広口で頸部のしまりが弱いタイプのものが近接して出土している。

C 1 - h 10～C 2 - j 1区では、やや広い範囲ではあるが、甕類(194・198・201・208・209・220・225・238・244・252・260・263・271・272・280・289・292)がまとまって出土している(第18～22図)。小型のものから球胴型、長胴型までバリエーションが豊富であるが、ほとんどが外面にハケ目痕の残るものである。また、近接するC 1 - j 10区から同タイプの長胴型の甕同士(273・274)と球胴型で体部のやや上位に最大径を持つ甕同士(224・237)が隣接して出土している。

また、C 1 - j 9区で石斧素材と砥石2点(375・382・383)、C 1 - i - j 10区で砥石3点(377・380・381)がまとまって出土している(第18図)。また、坏(82・89)に関しても、近接して出土しているものについては、同タイプである傾向がみられる(第18図)。

D 1 - b 9～D 1 - c 10区では、散漫な分布状況を示すが、ここでも同タイプの坏(33・35)が近接して出土している。

D 1 - d 9～D 1 - e 10区にかけては、高坏(120・133・145・169・173)、甑(300・309・313・317)がまとまって出土している(第23図)。高坏は120のみ脚部に直立した部分を有するが、その他のものは脚部が短く、裾が八の字状に開く。また、坏部内面に黒色処理が施されている点で共通する。甑は、小型のもの1点と大型のもの3点である。309は頸部のしまりが弱く、317は口縁部と体部の境に稜を有するなど、その特徴を若干異なる。

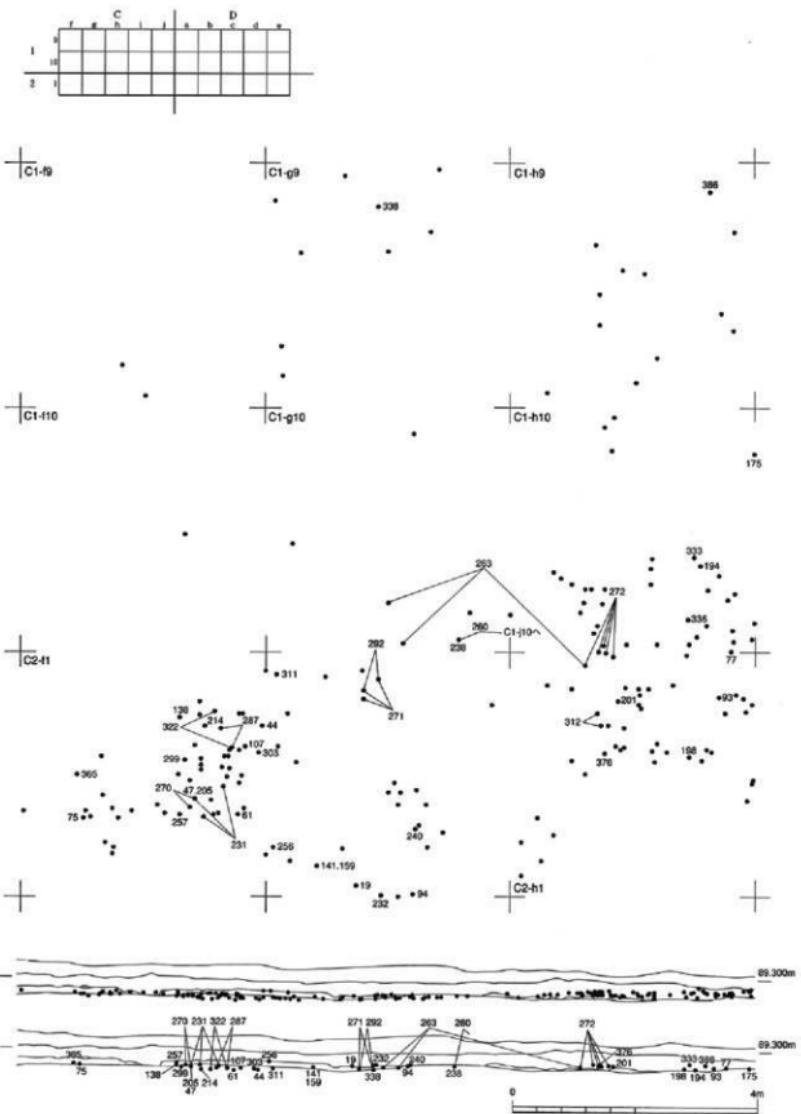
D 2-a・b 1区及びD 2-b 2区は出土量が多い（第24～27図）。坏は同一地点から3点まとめて出土したほか（32・109・112）、D 2-b 2区でまとめて出土している（17・20・36・46・60）。後者は、外面に稜を有するもの（17・20・60）、丸底で口縁部が短く外反するタイプである（36・46）。また、同じ範囲から高坏が集中して出土している（125・131・150・176）。いずれも脚部の直立部分が短く、裾が八の字状に開く。また、坏部内面に黒色処理が施されていない点でも共通する。150は、かなり大型のものであり、内外面に朱彩が施されている。甕はD 2-a・b 1区の境界付近にまとめて出土している（216・230・250・255・275・279）。小型のものから、鉢状のもの、長胴型のものとタイプがある。

D 2-d 1区では、甕（263）が、丸太材の上につぶれた状態で出土し、その周りを取り囲むようにして土玉が12点（341・343・345～352・354・355）出土している（第29図）。土玉は、円形に近い状態に並ぶようであり、本来紐か何かでつながっていた可能性が高い（図版7）。また、甕類（206・217・227・235・236・241・281・283）が比較的まとめて出土している。

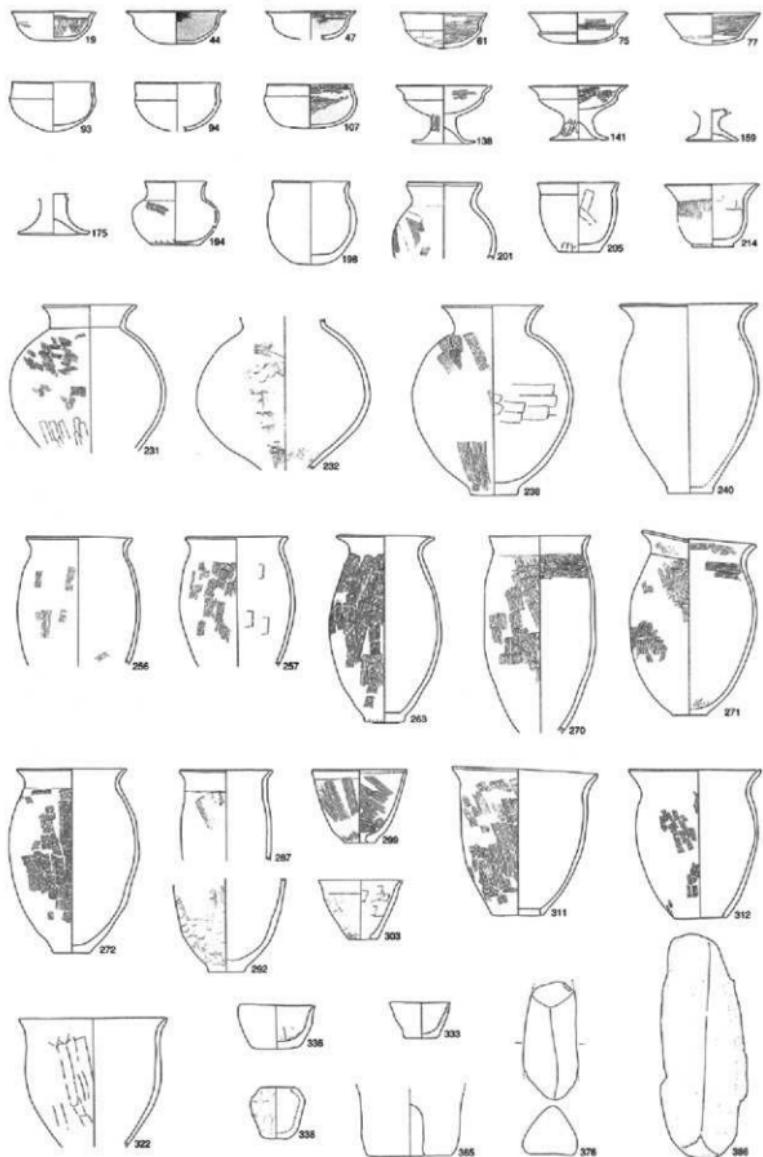
D 2-e 1区では、高坏（120・123・127・137・168）がかなり密に集中して出土している（第30・31図）。脚部の直立部分が比較的長い傾向がみられ、坏部はいずれも外面に稜を有する。120以外は坏部内面に黒色処理が施されている。また、若干距離があるが、121・124など、直立部分の長い脚部を持つタイプが出土している。高坏ほどではないが、甕（193・211・222・246・262・265・266）、甑（302・305・315）が比較的まとまる。甕、甑ともに器形的なバリエーションがみられる。

## （2）遺物（第32～62図）

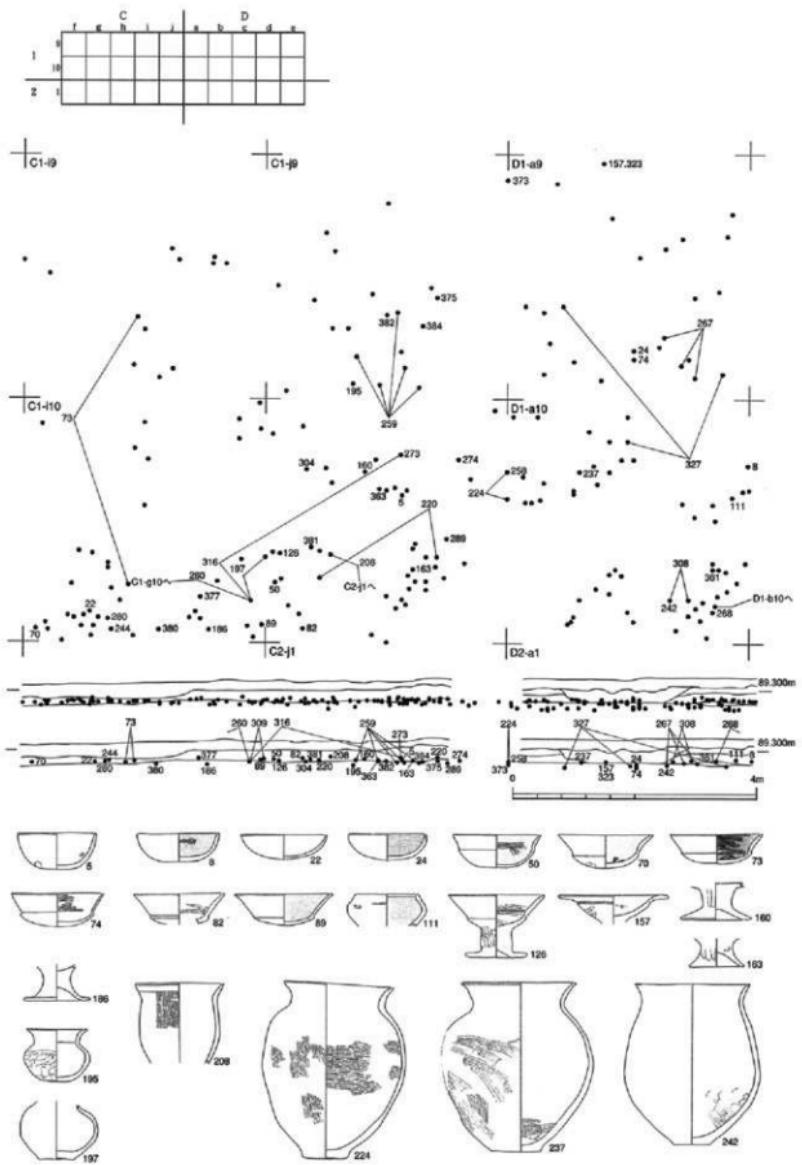
1～113は坏である。1～21は、平底の底部を有する。1～11・13は、体部が内湾して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。3・7・8は体部がより直線的に立ち上がる。2・4・9・11・13は口縁端部が短くつまみ出されている。12は、口縁部が外反している。16は、体部が内湾気味に緩やかに立ち上がり、口縁部が外反している。15は、底部から体部にかけて緩やかに内湾して立ち上がり、内面に緩やかな稜を形成し口縁部が短く外反する。18・19は、内面の口縁部と体部の境に明瞭な稜を形成し、口縁部が短く外反する。14は、体部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり外面に緩やかに稜を形成している。17は、体部中位外面に段を有し、口縁部は短く外反する。20・21は、体部外面の高い位置に段を有し、20は口縁部が内傾して立ち上がるのに対し、21は、口縁部が直立し口縁端部が短くつまみ出されている。22～92は、底部が丸底の一群である。22～25は、体部が緩やかに内湾しながら立ち上がり、そのまま口縁部に至る。26～28は、体部が内湾気味に立ち上がり、28は口縁部が短くつまみ出されている。29～44は、体部が内湾しながら立ち上がり口縁部が外反する。45・46は、内面の口縁と体部の境に明瞭な稜を形成する。47も45・46同様の



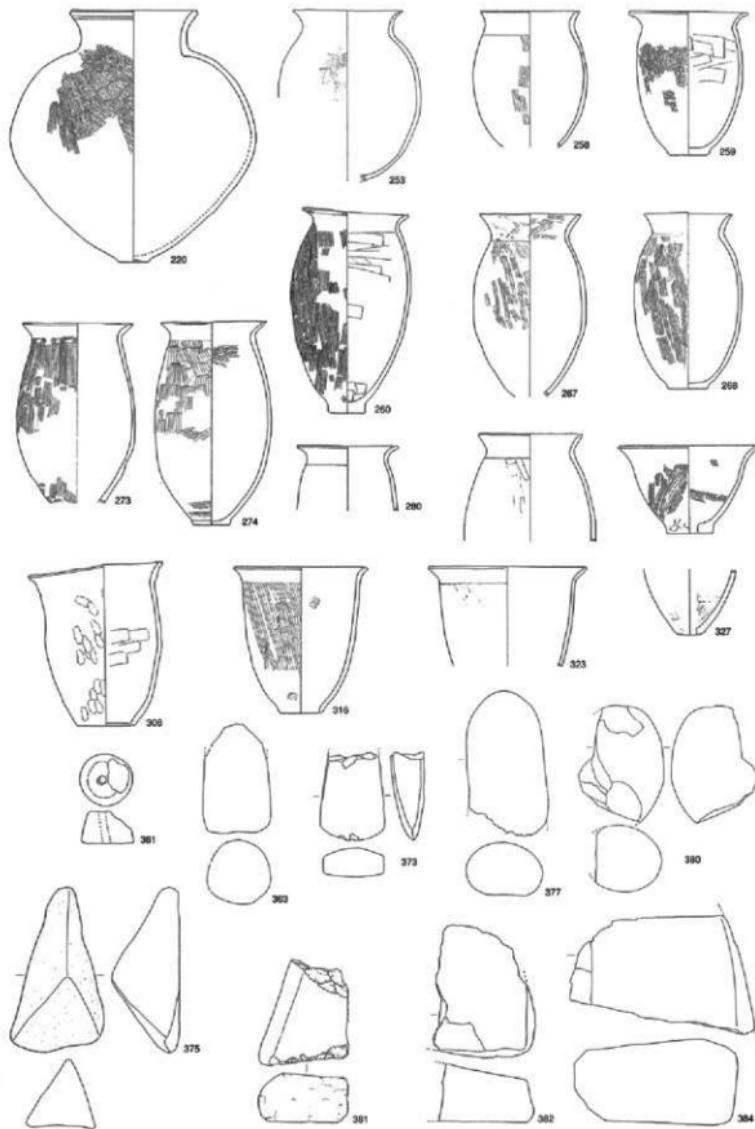
第16図 C 1 - f 9 ~ C 2 - h 1 遺物分布及び出土遺物(1)



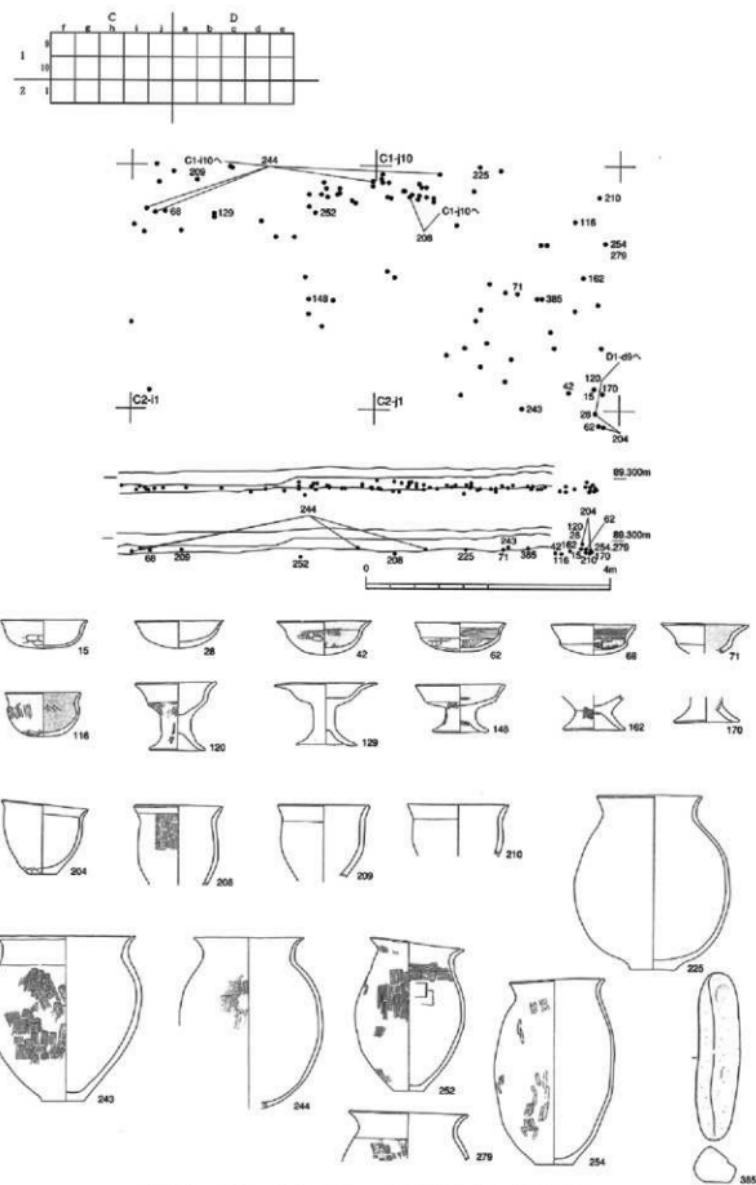
第17図 C 1 - f 9 ~ C 2 - h 1 遺物分布及び出土遺物(2)



第18図 C1-i 9~D1-a 10遺物分布及び出土遺物(1)

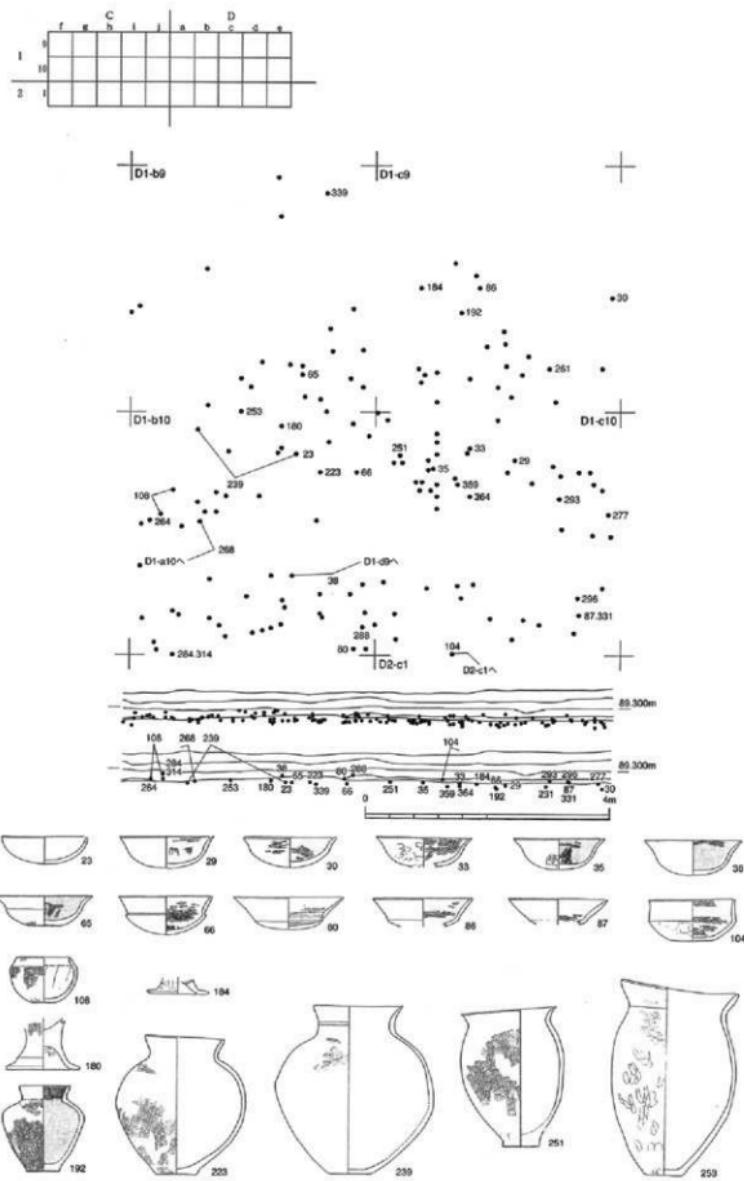


第19図 C 1 - i 9 ~ D 1 - a 10 遺物分布及び出土遺物(2)

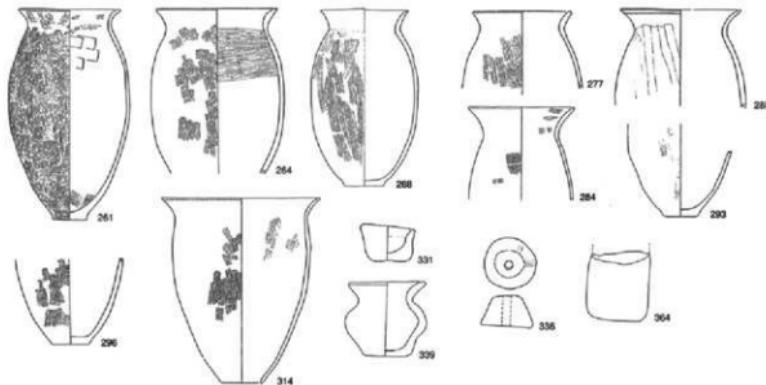


第20図 C2-i 1~C2-j 1遺物分布及び出土遺物

形態であるが、より口縁が外反し、器高も浅い。48は、体部中位外面に稜を有する。口縁部はほぼ直立に立ち上がり、口縁端部が短くつまみだされている。49も体部外面に稜を有するが、稜の位置は高めで、口縁部は外反している。50～53・56～59は、体部外面の中位から若干下位に稜を有し、口縁部は外反している。55・60～65も体部外面の中位から若干下位に稜を有する形態であるが、稜から口縁部までの立ち上がり部分が直立的でその後外傾して直線的に立ち上がる。54は、体部外面の高めの位置に稜を形成しているが、稜から口縁部までの立ち上がり部分が直立的で、その後外傾して直線的に立ち上がる点で55・60～65と同様の形態である。66は、器高が深く球形に近い丸底で口縁部が外傾して直線的に立ち上がる。68～70は、口縁部内面が稜を持つように張り出す。71は、くびれ部分が長く口縁端部が外反する。72・73・75・76は、段から口縁部まで短く直立したあと外反する。75・76は、平底に近い扁平な丸底である。74は、くびれ部分が短く、口縁は外傾して直線的に立ち上がる。77～81は、体部内面に屈曲が見られ、口縁部は外傾して直線的に立ち上がる。77・78は、口縁端部が短く外反する。81は、段の直上が短くくびれる。82～92は、体部内面の屈曲がみられなくなり、底部から緩やかに外傾しながら立ち上がるものである。82・83は、段の直上が短くくびれる。84は外面の段の発達が著しく、口縁端部が若干内湾しながら短くつまみ出されている。85～91は、段の位置がより低くなり、口縁部が大きく外側に開く。92は、段が明瞭でなくなり、外面の体部と口縁部の境に溝をもつ。93～96は、底部が球形に近い丸底で、体部が外側に丸みをもって張り出す。体部と口縁部の境に段を有し、段の位置は高めである。口縁部はほぼ直立し、口縁端部が短く外反している。97・98は、丸底で口縁部が内傾し、体部との境に段を形成して底部に至る。99は、球形に近い丸底で体部と口縁部の境に段を有し、段の位置は低めである。体部から口縁部に至るまで緩やかに湾曲しながら立ち上がり、口縁端部は短くつまみ出されている。100～102は丸底で、底部中央がわずかにくぼむ。体部と口縁部の境の段が低めに位置している点で、99と同様の形態であるが、口縁部はより直線的に立ち上がる。103は、体部と口縁部の境に段を有し、段はほぼ中位に位置している。口縁部はゆるやかに外傾しながら立ち上がる。104・105は扁平で体部と口縁部の境に形成された段は低めに位置している。口縁部は外反しながら立ち上がり口縁端部でさらに短く外反する。106は、丸底で体部と口縁部の境に段を有し、位置は低めである。口縁部は緩やかに湾曲しながら外傾してそのまま立ち上がっており。107～109は、底部が扁平な丸底で中央がわずかにくぼむ。体部が丸く張り出し体部と口縁部の境に段を有している。位置は高めである。107は口縁部が外傾して直線的に立ち上がる。108・109は口縁部が内傾しているが、108が直線的であるのに対し、109は口縁端部で短く外反する。110は口縁部が短く外反する点で109と同様である。111は、体部と口縁部の境に有する段が明瞭でなくなり、体部の湾曲が強い。112・113は丸底で、体部の丸みがより強調されている。体部と口縁部の境に稜を有し、位置は高めである。112は、



第21図 D1-b 9~D1-c 10遺物分布及び出土遺物(1)

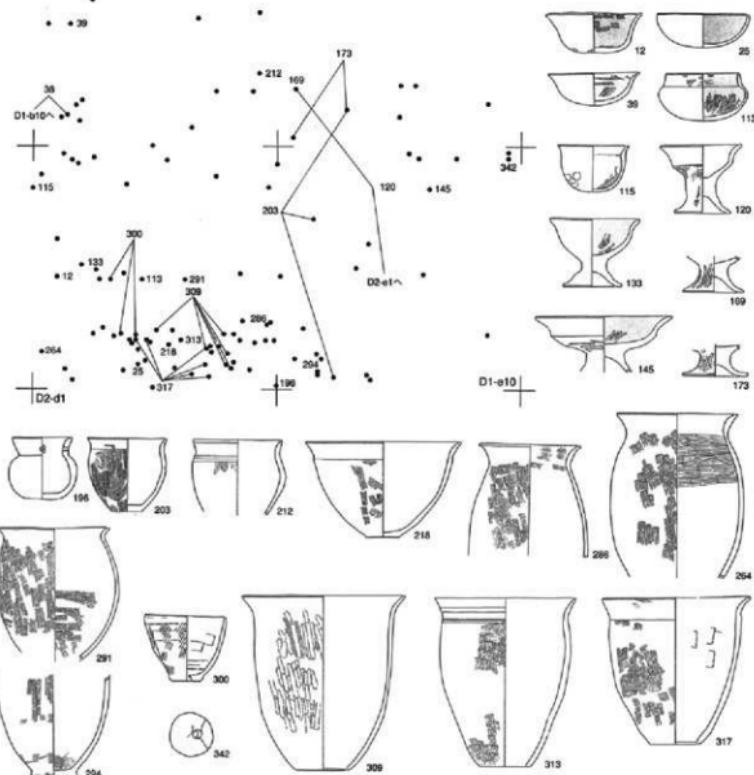
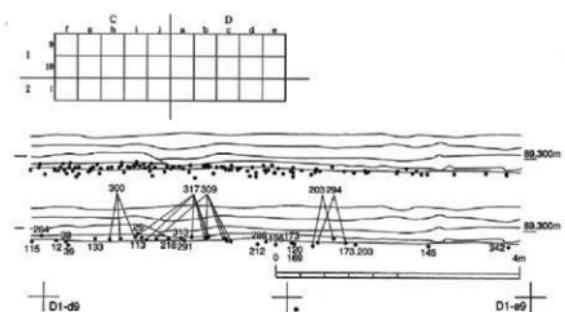


第22図 D 1 - b 9～D 1 - c 10遺物分布及び出土遺物(2)

口縁部が外傾しながら直線的に立ち上がり器高が深い。113は口縁部が内傾しながら立ち上がり口縁端部で短く外反する。器高は112に比べて浅い。12・19・24～26・29～31・33～51・53・54・56～59・61～92・96～104・106～108・111～113は内面に黒色処理が施されている。

114～119は碗である。114は丸底で底部から緩やかに湾曲しながら立ち上がり口縁端部が短くつまみ出されている。115・116は丸底で、体部が湾曲しながら立ち上がり、内面に稜を有する。口縁部は外反して短く立ち上がる。116は内面に黒色処理が施されている。117は平底で、体部が外傾しながら立ち上がり口縁部が短く外反する。118は、体部が丸く張り出し、口縁端部が短くつまみ出されている。底部は平底である。119は、平底で体部が緩やかに湾曲して立ち上がり、口縁部は内傾気味に湾曲して立ち上がる。口縁端部は短くつまみ出されている。

120～189は高環である。120～129は、脚部が直立に近く、裾部で外側に開く一群である。120は坏部の器高が深く段を有する。口縁部が外反する。121は体部が湾曲して立ち上がりそのまま口縁部に至る。口縁端部が短くつまみ出されている。122は脚部と坏部の境に稜を有する。坏部は、体部が湾曲して立ち上がり、口縁端部が短く外反する。123～128は坏部外面に稜を有する。123～125は、口縁部が外反する。126は坏部の体部内面に屈曲がみられ、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。129は器高が浅く、口縁部が外傾しながら外側に大きく開く。130～151は、直立した脚上部を持たず脚部から裾部にかけて八字状に大きく広がる一群である。130～132は、体部が湾曲しながら外傾し、口縁部が短く外反している。130・132は器高が深い。133・134は体部の内湾の度合いが強く、内面の体部と口縁部の境に稜を有する。135は、口縁部が外側に大きく開く。137～149は、坏部外面に段を有する。137は、器高が深く底部から体部にかけて緩やかに内湾して立ち上がり内面に緩やかな稜



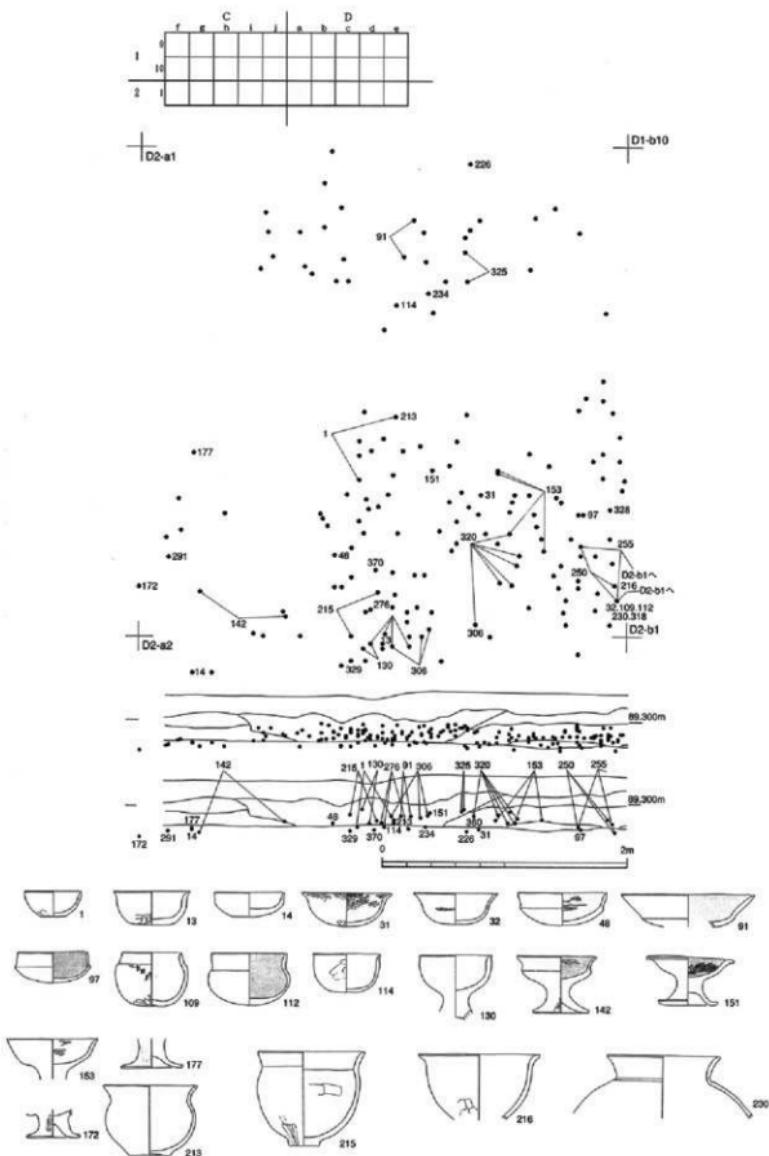
第23図 D 1-d 9~D 1-e 10遺物分布及び出土遺物

を有する。口縁部は外反しながら立ち上がる。138・139は、段から口縁部までの立ち上がり部分が直立的で、その後口縁部は外傾して直線的に立ち上がる。140は、段の直上が短くくびれ、口縁部は外反する。141・142は口縁部のくびれが強い。143は外面の段の発達が著しい。体部から口縁部へ緩やかに外傾しながら立ち上がる。144～149は、外側の段が明瞭でなくなる。144～147は、体部が大きく外側に開きながら立ち上がる。148は口縁部が外傾しながら直線的に立ち上がる。149は口縁部が外傾しながら直線的に立ち上がり、口縁端部で短くつまみ出されている。150は、脚部と坏部の境、坏部外面に段を有する。内面は底部から緩やかに湾曲しながら立ち上がり口縁部に至る。151の坏部は、体部が大きく外側に開きながら立ち上がり、口縁端部が極端に外反する。裾部の外反が著しい。121～124・126～128・133・134・136～142・144～149・151は坏部内面に黒色処理が施されている。

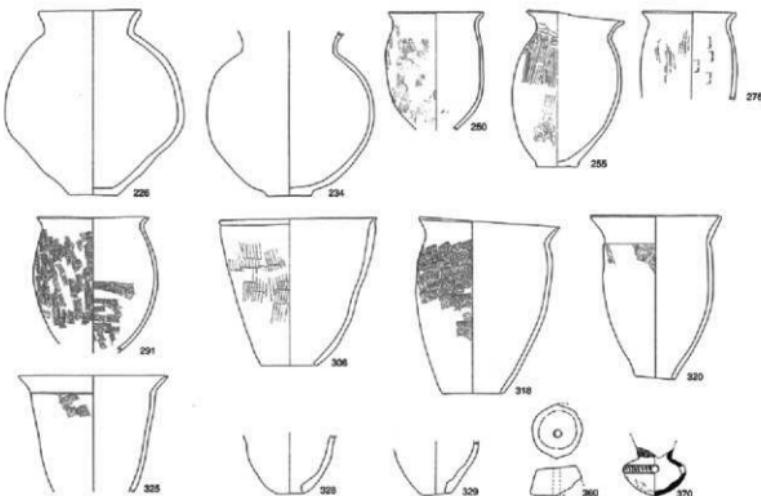
152～157は、高坏の坏部である。152・153は底部から内湾しながら立ち上がり、口縁端部が短くつまみ出されている。154・155は外面に段を有する。154は、段から口縁部までの立ち上がりが直立的で口縁部は外反する。155は、坏部が大型で口縁部の外傾が強い。156は、体部から大きく外側に開きながら立ち上がる。157は外面の体部と口縁部の境に稜を有する。口縁部が外反しながら外側に大きく開く。152・154～156は、内面に黒色処理が施されている。

158～189は、高坏の脚部である。158～161は、脚部が直立し、裾部が外側に大きく広がる。162～189は直立した脚上部を持たず脚部から裾部にかけて八字状に大きく広がる。158・166・168・169・174・180・185・186は坏部内面に黒色処理を施している。

190～215・217・220～297は甕である。190は平底で、底部には直径40mmのくぼみが認められる。胴部は内湾気味に立ち上がり、口縁部が外傾しながら直線的に短く立ち上がる。191は平底で、底部から滑らかに立ち上がり口縁部に至る。192は胴部が球形に膨らみ、胴部のやや上位に最大径をもつ。頸部のしまりが強く、口縁部は外反し、口縁端部が短くつまみ出されている。193は平底で、器高が深く、胴部の膨らみはあまりきつたくない。胴部のほぼ中位に最大径を有する。頸部に浅いくびれを有し、口縁部はゆるく外反しながら垂直に近く立ち上がる。194・197は、平底で胴部が扁平につぶれている。194は、頸部が外反しながら垂直に近く立ち上がる。195・196は平底に近い扁平な底部を有し、胴部が球形に膨らむ。胴部のやや上位に最大径を有する。頸部のしまりは若干強く、口縁部は外反する。196は、口縁部に直径6mmの穴が二箇所開けられている。198は、平底に近い扁平な底部を有し、胴部が緩やかな丸みを持つ。胴部のほぼ中位に最大径を有する。頸部内面がわずかにくぼみ、しまりはほとんどない。口縁部は短く外反する。199は、平底で胴部が緩やかな丸みをもつ。胴部のやや上位に最大径をもつ。頸部のしまりは若干強く、口縁部は外反し、口縁端部が短くつまみ出される。200は、平底に近い扁平な底部を有し、胴部は丸みを帯びている。口縁部が大きく外反している。202～204・206・210は胴部が緩やかな



第24図 D 2 - a 1 遺物分布及び出土遺物(1)

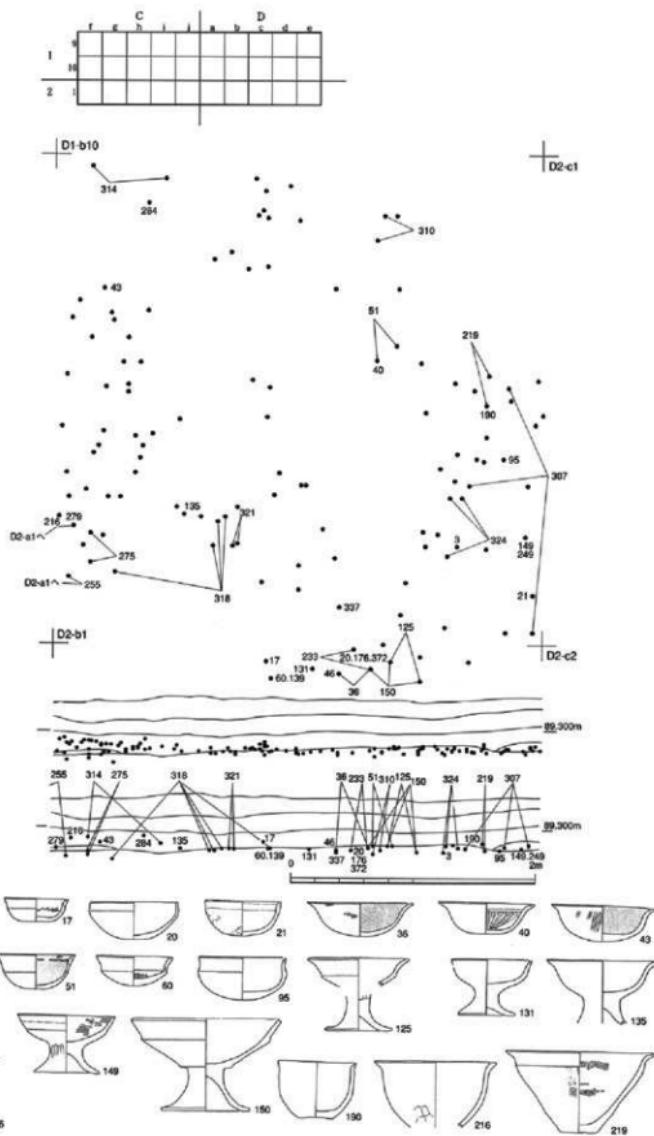


第25図 D 2 - a 1 遺物分布及び出土遺物(2)

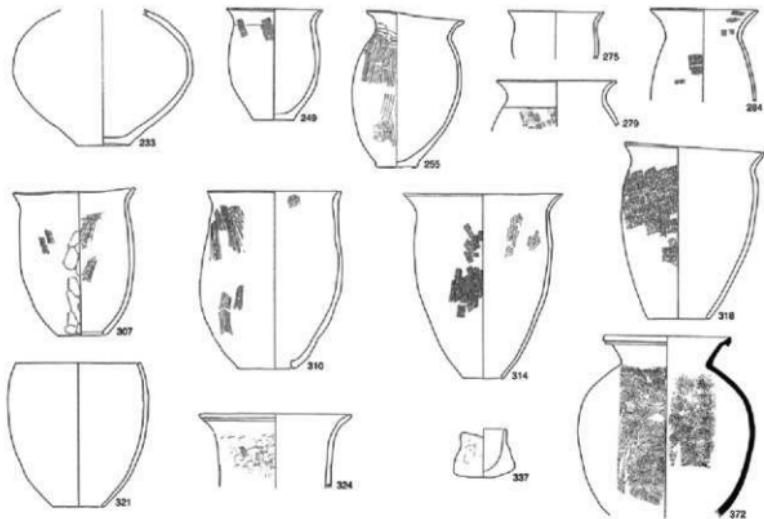
丸みを持ち、ほぼ中位に最大径を有する。頸部のしまりはほとんどなく、口縁部が外反しながら短く立ち上がる。202~204は平底である。205・207・208は、胴部が緩やかな丸みを持ち内面は若干内湾しているため、口縁部との境に緩やかな稜を有する。口縁部は外傾しながら直線的に立ち上がる。205は平底である。209・211は胴部の膨らみはあまり大きくない。胴部のやや下位に最大径を有する。頸部のしまりはほとんどなく、浅い段を有する。口縁部は外反する。212は、胴部に緩やかな丸みを持ち、最大径は胴部のやや上位にある。頸部のくびれが弱く、浅い沈線条の境界が形成されている。213は、平底で底部には直径46mmのくぼみが認められる。胴部が球形状に膨らみほぼ中位に最大径を有する。口縁部は外反している。214は平底で体部が垂直に近く立ち上がり口縁部が大きく外反する。215・217は平底で胴部が球形状に膨らむ。胴部のやや上位に最大径を有する。内面は若干内湾しているため口縁部との境に緩やかな稜を有する。口縁部は外反している。215はより器高が深く、底部に厚みがある。

216・218・219は鉢である。216・218は体部に緩やかな丸みを持ちながら、底部から口縁部にかけて立ち上がる。口縁部は大きく外側に外反する。218は平底で口縁部との境に段を有する。体部に丸みは見られず、底部から外傾しながらほぼ直線的に立ち上がり口縁部に至る。219は平底で直径30mmのくぼみが認められる。体部に緩やかな段を有し、段から口縁部までの立ち上がり部分が直立的で、口縁部は外側に大きく外反し、口縁端部が短くつまみ出されている。

201・220~245は球胴の甕である。201・220~239は、胴部が大きく張り出し、口縁部径

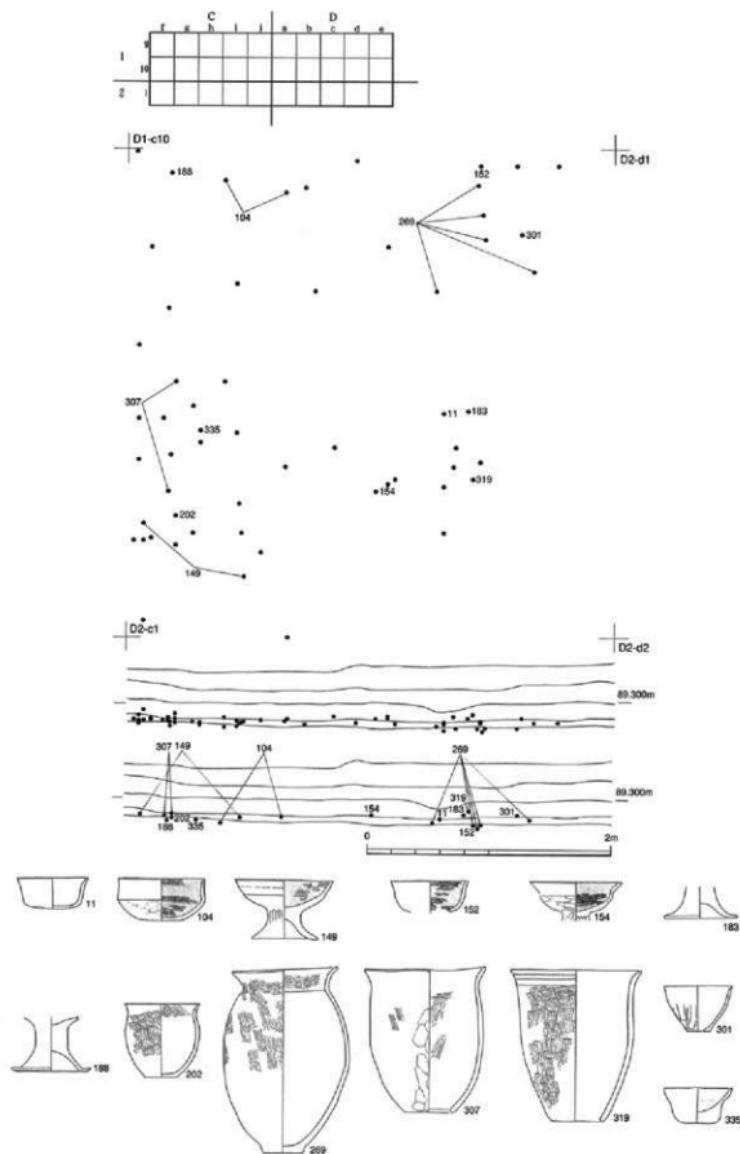


第26図 D 2-b 1 遺物分布及び出土遺物(1)

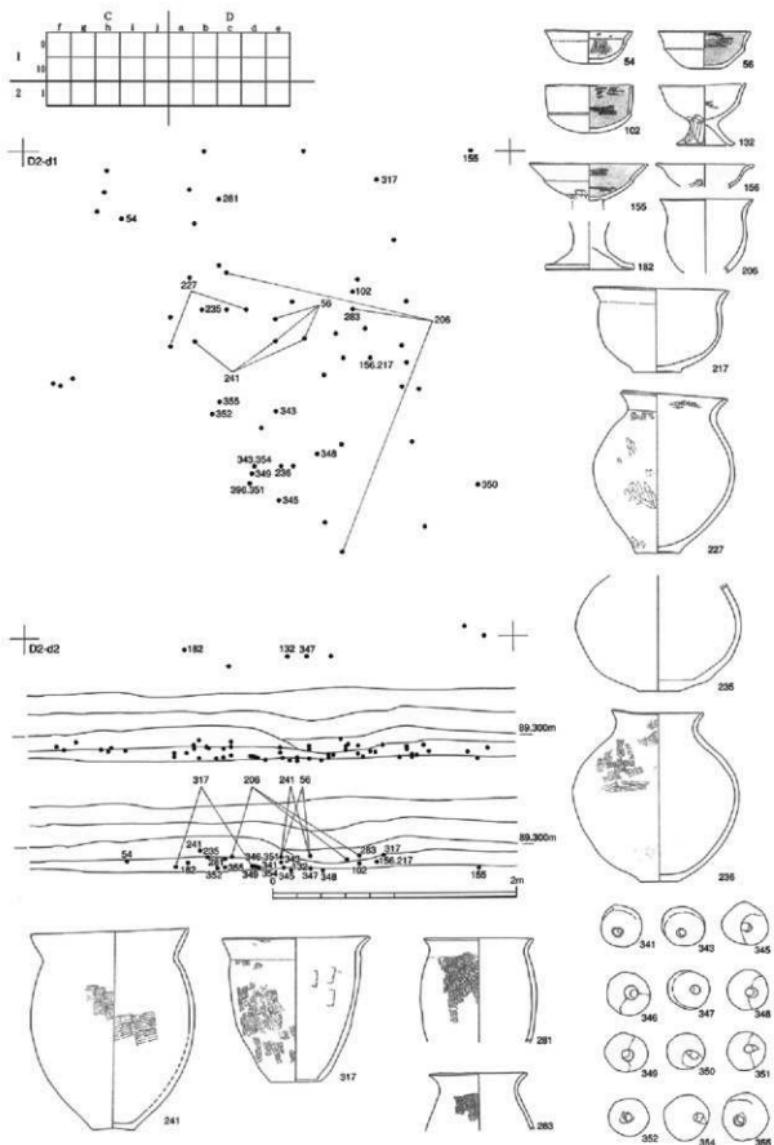


第27図 D 2 - b 1 遺物分布及び出土遺物(2)

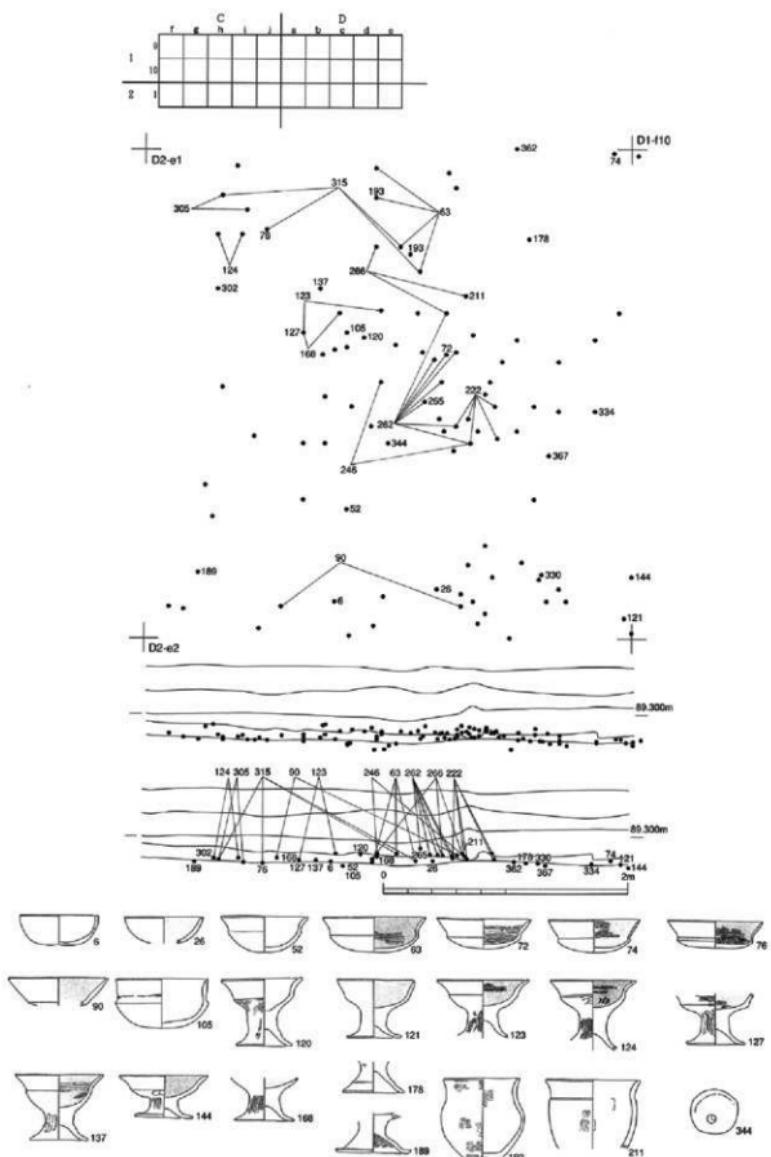
に対し胴部径が大きい一群である。底部は平底である。201・221は頸部のやや上位に最大径を有する。頸部のしまりがやや強く、胴部との境に稜を有する。頸部は直立に近く立ち上がり、口縁部は外反する。口縁端部は内傾気味に垂直につまみ出されている。222・223・226・227・231～236・239は、胴部のほぼ中位に最大径を有する。222は、口縁部径と胴部径にほとんど差が認められない。頸部が緩やかにくびれ、口縁部が大きく外反する。223・226・236は頸部のしまりが強く、口縁部が外反しながら立ち上がる。227・231・239は、頸部のしまりが強く胴部との境に稜を有する。頸部は直立に近く立ち上がり、口縁部は外反する。220・229・238は、胴部のほぼ中位に最大径を有する。底部から胴部中位にかけてあまり丸みが見られず直線的に立ち上がる。肩部が大きく張り出している。頸部が直立に近く立ち上がり、口縁部は短く外反している。220は、口縁端部に明瞭な段を有する。229は、頸部がほかの2点に比べて長く、直立して立ち上がる。230は、肩部に明瞭な段を有し、口縁部は外反する。224・228・237は、胴部のやや上位に最大径を有する。224・237は口縁部が外反する。228は肩部に明瞭な段を有する。頸部は直立に近く立ち上がり、口縁部は外傾して直線的に立ち上がる。225は、胴部下位に最大径を有する。口縁部は外反する。240～245は、口縁部径と胴部径にほとんど差が認められない一群である。240は平底で胴部のやや上位に最大径を有する。口縁部は外反する。241は平底で底部にくぼみを有する。胴部のほぼ中央に最大径を有し、口縁部は外傾しながら直線的に立ち上がる。242は平底で胴部の下位に最大径を有する。口縁部が緩やかに外傾している。243は平底で胴部のやや上位に最大径を有する。胴部と頸部の境に緩やかな段を有し、口縁部は外反する。



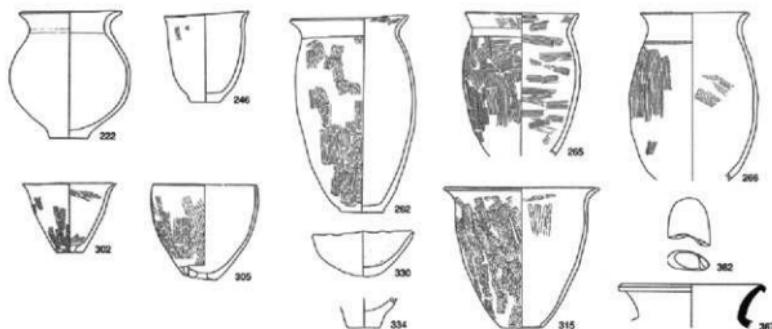
第28図 D 2 - c 1 遺物分布及び出土遺物



第29図 D 2-d 1 遺物分布及び出土遺物



第30図 D 2 - e 1 遺物分布及び出土遺物(1)

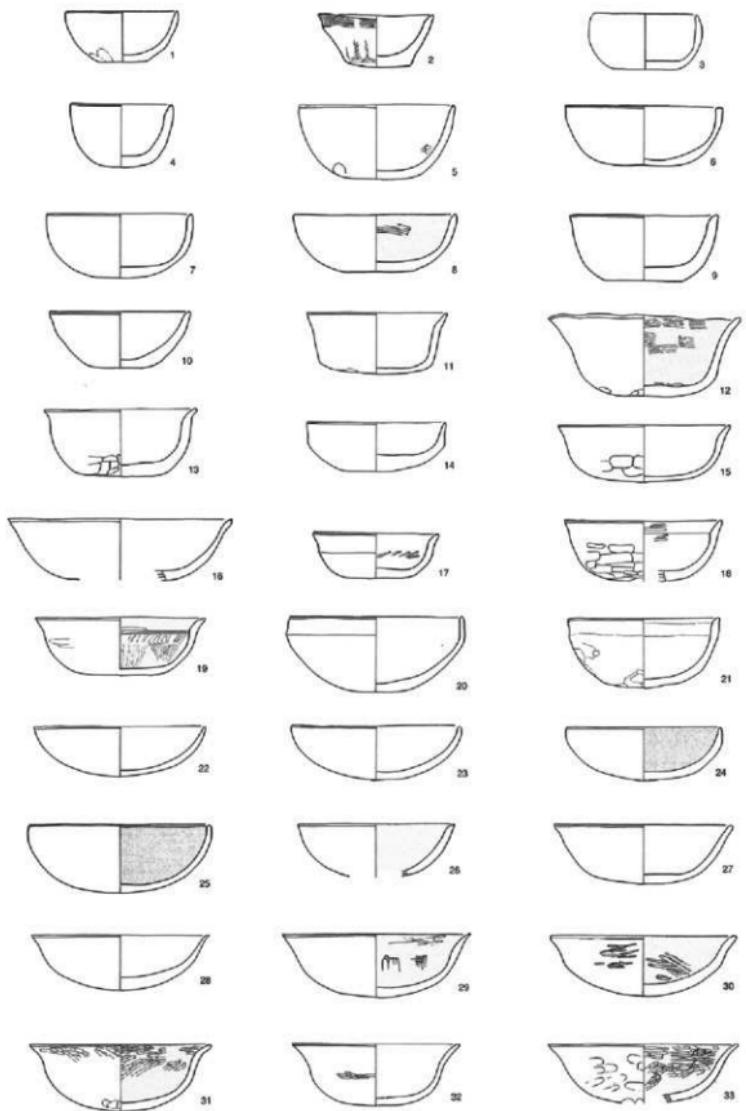


第31図 D 2 - e 1 遺物分布及び出土遺物(2)

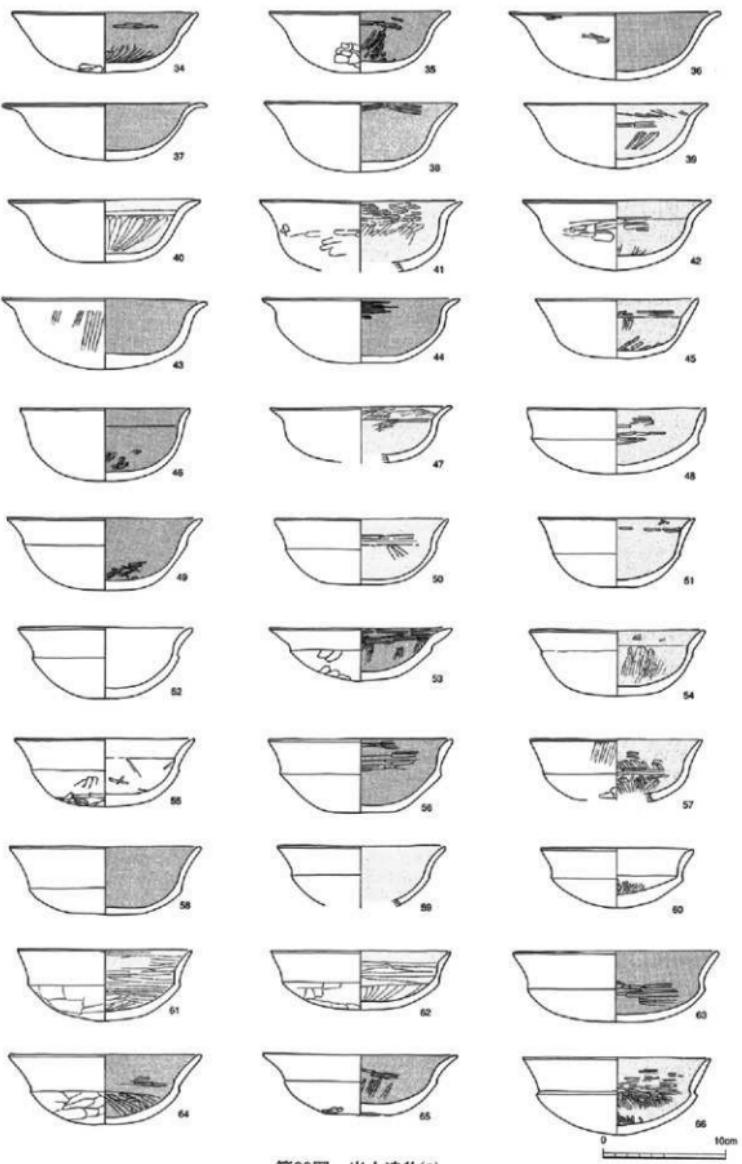
244・245は口縁部が外反しながら大きく外側に開く。245は肩部に明瞭な段を有する。246～297は、長胴の甕である。246～252は、その中でも小型のものである。246は、口縁部径が胴部径より大きく、底部から口縁部にかけほぼ垂直に立ち上がる。口縁部は緩やかに外反している。底部が厚手で台状に整形されている。247～252は、口縁部径と胴部径がほぼ同じである。247は頸部がくびれ、胴部のほぼ中位に最大径を有する。口縁部は外傾して直線的に立ち上がる。248は頸部がくびれ底部が厚手で台状に整形されている。胴部のほぼ中位に最大径を有する。口縁部は短く外傾して直線的に立ち上がる。249～252は、胴部のやや下位に最大径を有し、頸部がくびれ口縁部が外反する。251は底部が厚手で台状に整形されている。253・255・260～264は口縁部径が胴部径より若干大きく、頸部がくびれる。253は、口縁部が外傾して直線的に立ち上がる。255～263は口縁部が外反し、底部が厚手で台状に整形されている。263は、特に頸部のくびれが強い。264は、口縁部が外反して立ち上がり、口縁端部が直線的に引き出されている。254・256～258は口縁部径と胴部径がほぼ同じで、頸部が緩やかにくびれる。口縁部は外反している。259は口縁部径が胴部径より大きく、頸部が緩やかにくびれ、口縁部が大きく外反している。底部は厚手で台状に整形されている。265～274は肩部に段を有する一群である。265は胴部のやや上位に最大径を有し、胴部と頸部の境と、頸部と口縁部の境に明瞭な稜を有する。くびれはあるが強くない。口縁部は外傾して直線的に立ち上がる。266は、頸部が緩やかにくびれ、短く直立して立ち上がる。口縁部は外傾して直線的に立ち上がる。267～269・271・272は胴部のほぼ中位に最大径を有し、口縁部は外反する。268は、口縁端部が短く外側につまみ出されている。底部は厚手で台状に整形されている。270は緩やかなくびれを有し、口縁部は外傾して直線的に立ち上がる。273・274は胴部のやや下位に最大径を有し、口縁部は外傾している。274の底部は厚手で台状に整形されている。275は、頸部が短く直立して立ち上がり、口縁部が直線的に外傾している。276～281・288・289・291は口縁部が外反している一群である。279～281・289は胴部と頸部の境に緩やかな稜を持つ。283・284・286・

288は口縁部が長く立ち上がる。286は口縁端部が短くつまみ出され、288は口縁端部に明瞭な段を有する。282・287は、頸部が直立して胴部との境にわずかな段を有する。282は口縁端部が短く外側につまみ出され、287は外傾して直線的に立ち上がる。290は頸部がほとんどみられず、口縁部が外傾して直線的に立ち上がる。295は、底部からそのまま胴部が立ち上がる。292～297は甕の底部である。292～294・296・297は底部が台状に整形されている。

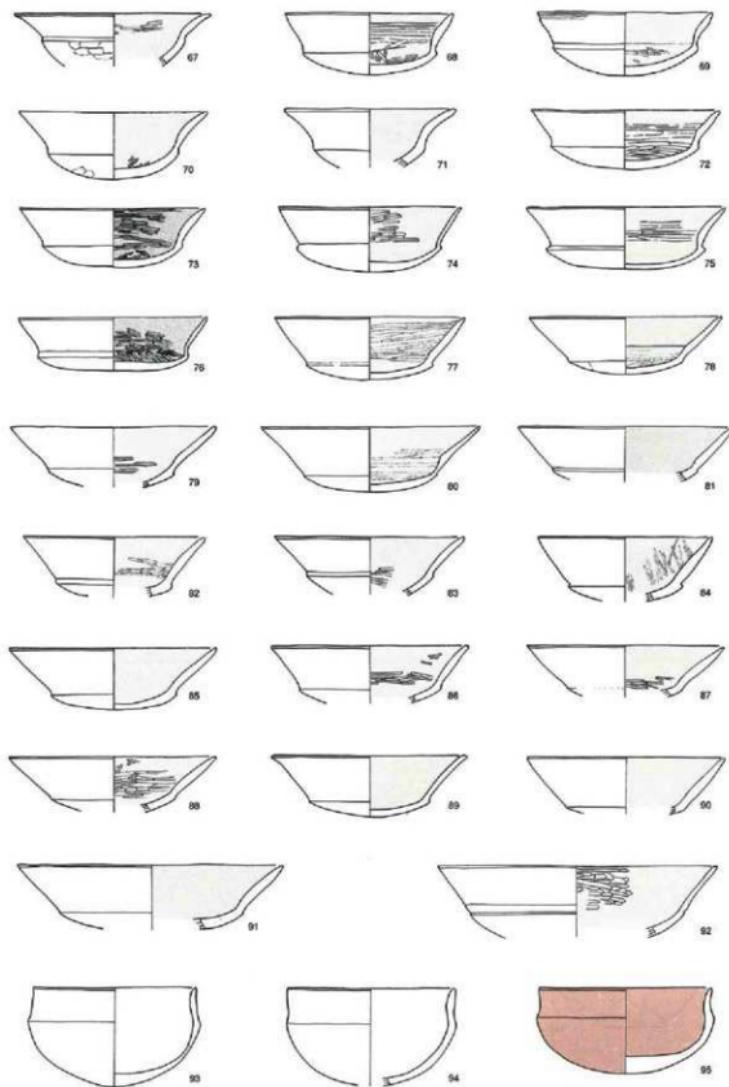
298～329は甕である。298は多孔式のもので、胴部は緩やかに湾曲しながら垂直に近く立ち上がる。口縁部は短く、直線的に外傾する。299～305は単孔式のものである。299・300・303は体部と口縁部との境に稜を有する。299・300は胴部が緩やかに湾曲しながら外傾する。底部は台状に整形されている。299は、口縁端部がつまみ出されている。303は、体部が外傾して直線的に短く立ち上がる。301・302・304は鉢型である。胴部が外傾し、胴部上位はやや垂直に近く立ち上がる。302・304は口縁部が外側に大きく開きながら直線的に立ち上がる。304は口唇部が平滑に整形されている。301は、胴部上位からそのまま垂直に近く立ち上がり口縁端部は短くつまみ出されている。301・304は底部が台形状に整形されている。305は、底部から内湾気味に立ち上がる。306～321は無底式のものである。306は底部から滑らかに立ち上がり、口縁端部に明瞭な段を有し、外傾している。307～311は胴部が内湾気味に立ち上がり、頸部のしまりがゆるい。307・308は胴部の最大径がやや下位に位置する。口縁部が外反する。310は口縁部が短く、直線的に外傾する。311は口縁部が短く、直線的に立ち上がり、口縁端部はやや内湾気味につまみ出されている。312は体部が内湾しながら立ち上がり、頸部のしまりが強い。胴部の最大径はやや上位に位置する。口縁部が長く外反する。315・318は胴部が内湾気味に立ち上がり、最大径がやや上位に位置する。頸部径に比べて底部径が小さく、頸部のしまりがやや強い。口縁部は外反する。315は口縁端部に明瞭な稜を有する。318は口唇部が平滑に整形されている。313・316・317・319・320・323は胴部と口縁部の境に稜を有する一群である。313・319は口縁部が外傾しながら直線的に立ち上がり、口縁部中位に明瞭な稜を有する。316は口縁部が外反し、口唇部が平滑に整形されている。317・320は胴部と口縁部の境に段を有し、口縁部は外反する。320は、口縁端部が短くつまみ出されている。321は胴部が内湾気味に立ち上がる。322は胴部が丸みを持って立ち上がり、胴部上位が短く直立する。口縁部は外傾して直線的に立ち上がる。323は口縁部と胴部の境に明瞭な稜を有する。口縁部は大きく外傾して直線的に立ちあがる。口唇部が平滑に整形されている。324は、頸部のくびれがほとんど認められず、口縁端部に段を有する。325は、口縁部と体部の境に段を有する。口縁部は大きく外傾して直線的に立ち上がる。326は欠損しているが、口縁部と胴部の境に稜を有し、口縁部が外傾して大きく開いている。327～329は甕の底部である。全て単孔式である。330～339はミニチュア土器である。333・335は器面に輪積み痕を残している。339は、平底に近い扁平な底部を有する。頸部のくびれが強く、胴部は球形に張り出している。口



第32図 出土遺物(1)

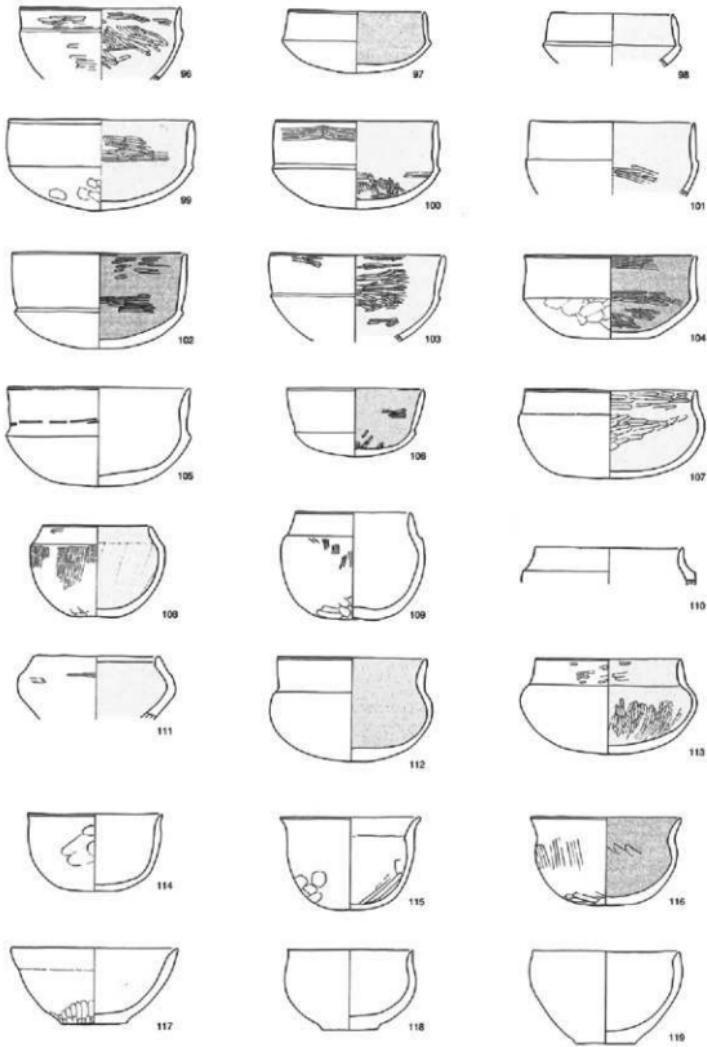


第33図 出土遺物(2)



0 10cm

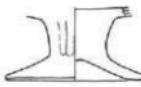
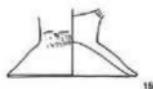
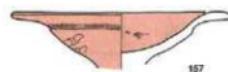
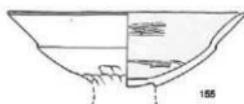
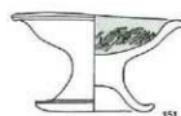
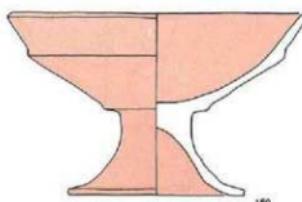
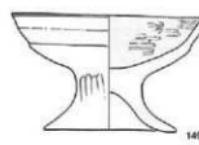
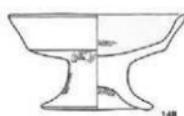
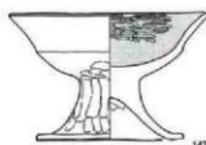
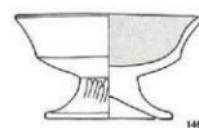
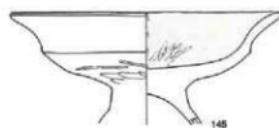
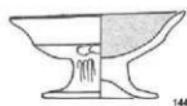
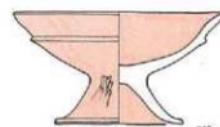
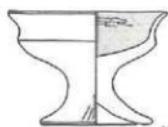
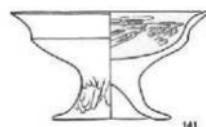
第34図 出土遺物(3)



第35図 出土遺物(4)

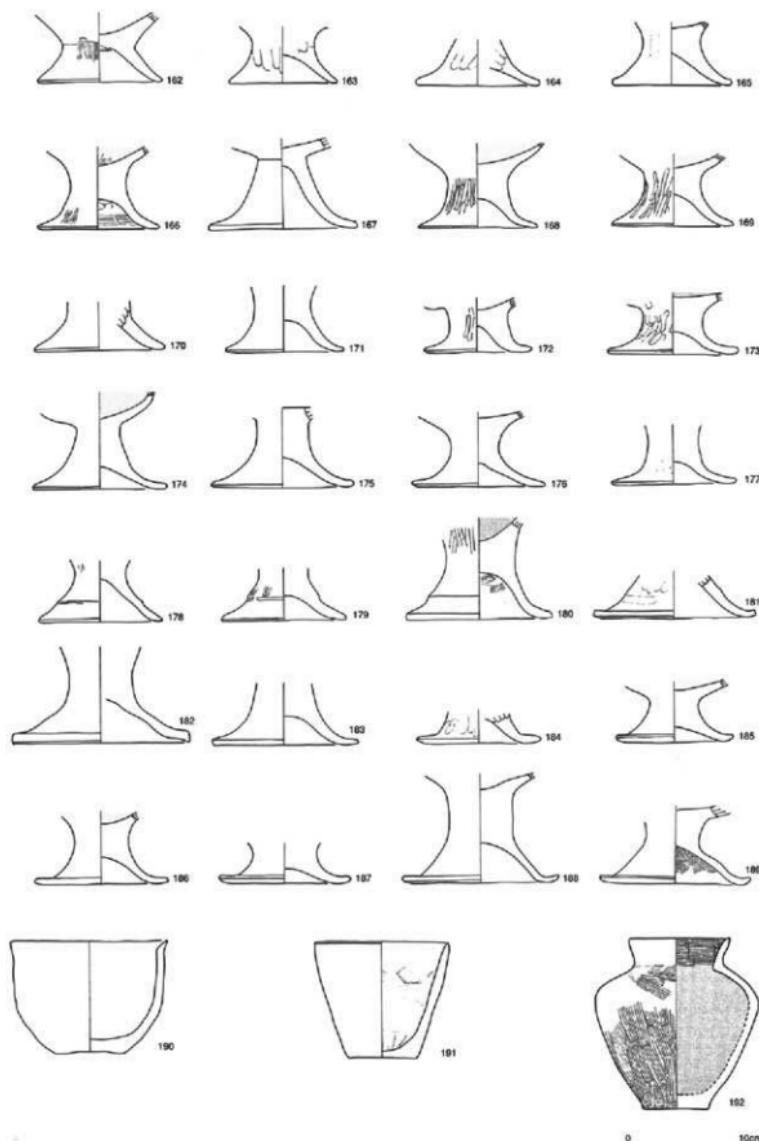


第36図 出土遺物(5)

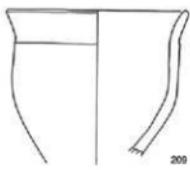
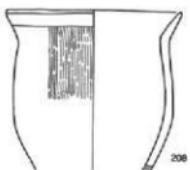
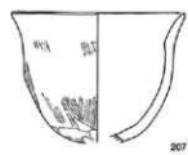
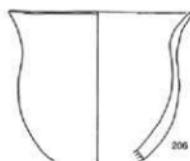
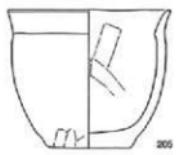
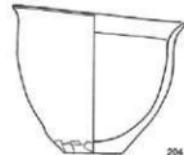
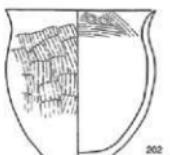
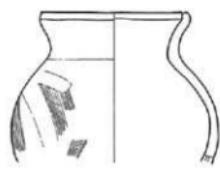
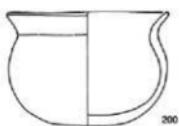
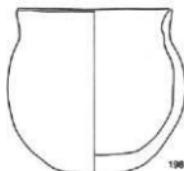
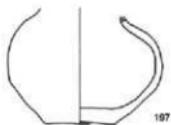
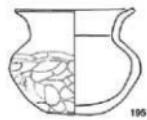
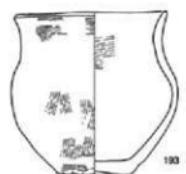


0 10cm

第37図 出土遺物(6)

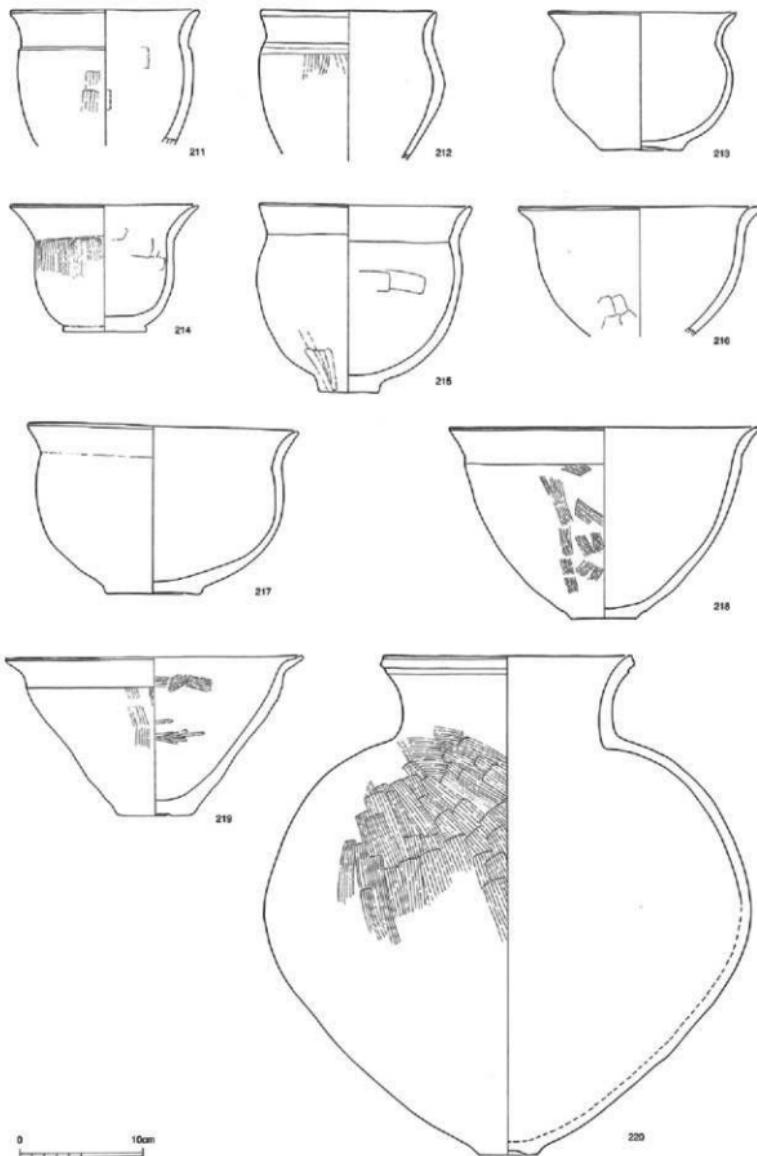


第38図 出土遺物(7)

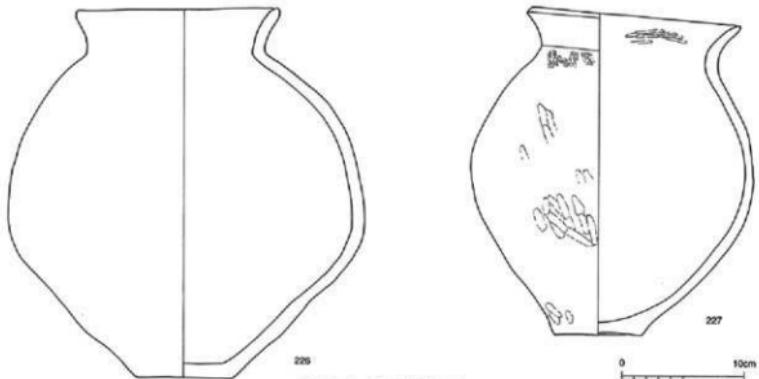
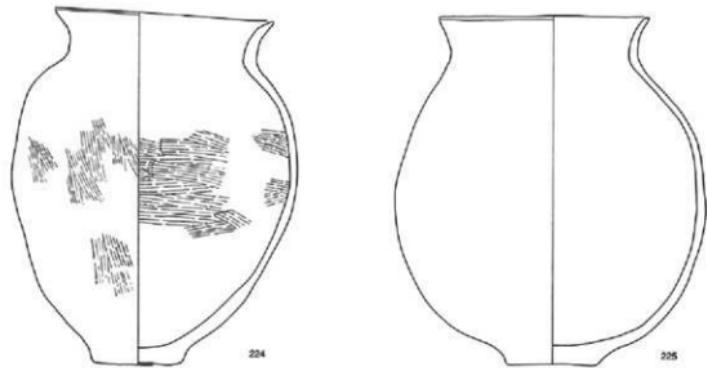
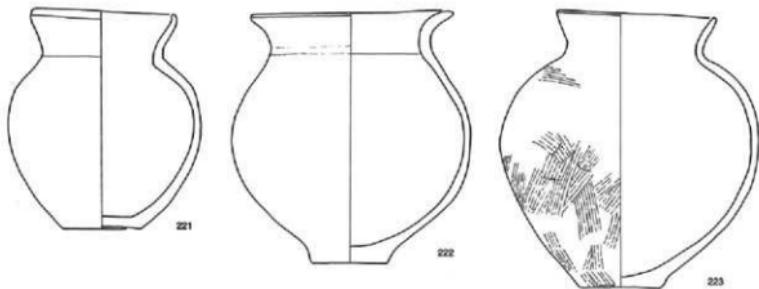


0 10cm

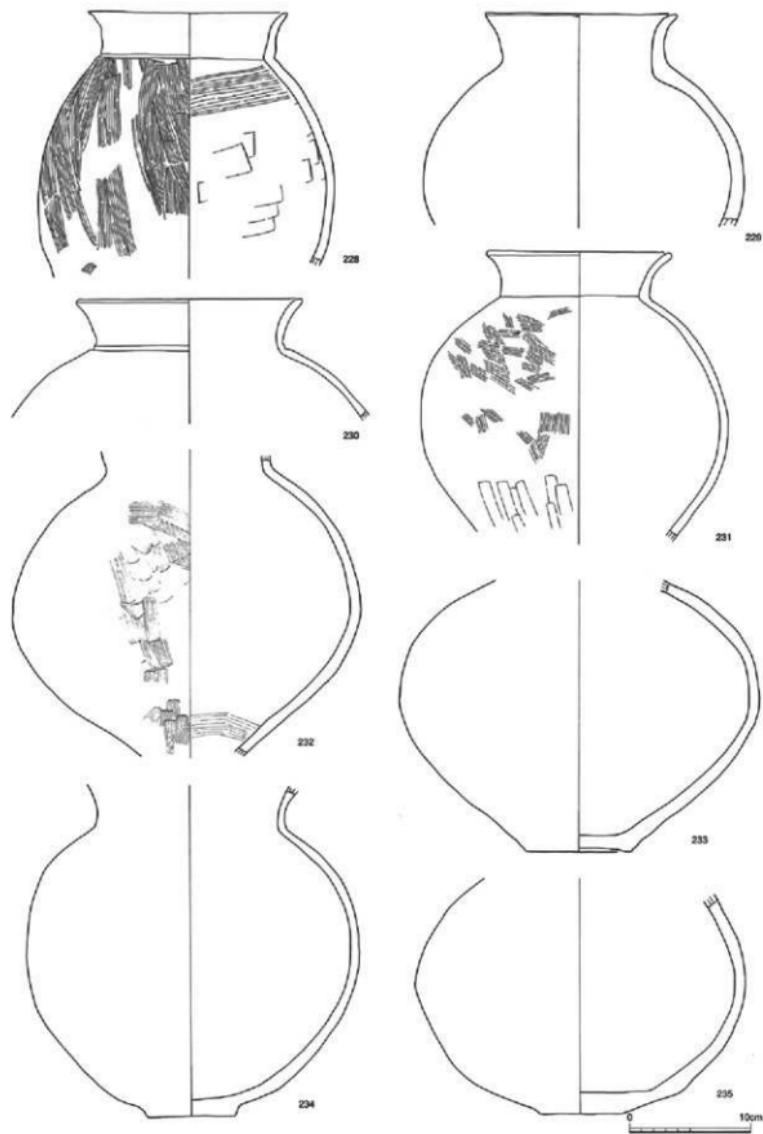
第39図 出土遺物(8)



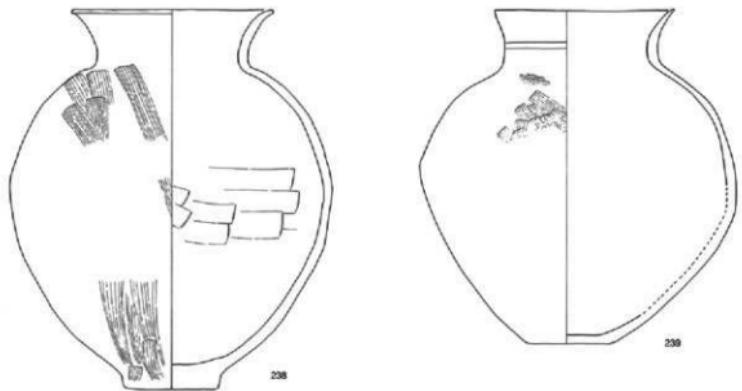
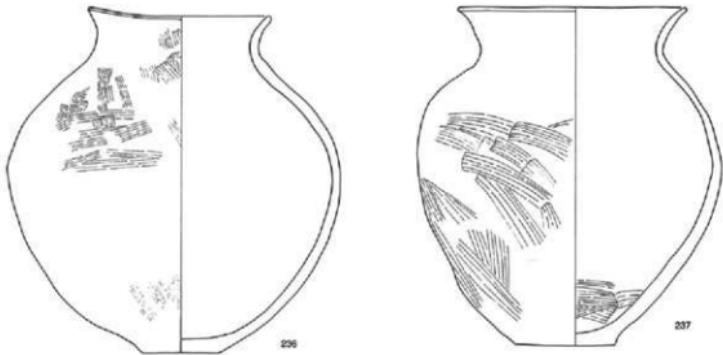
第40図 出土遺物(9)



第41図 出土遺物(10)

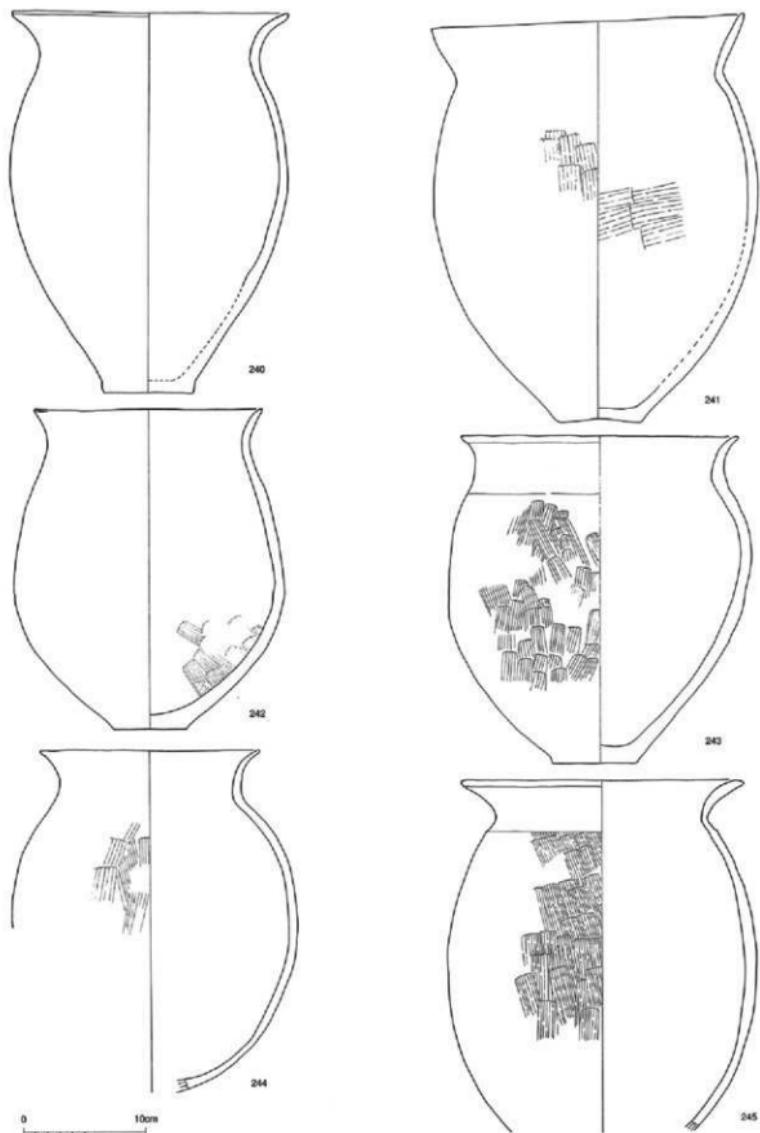


第42図 出土遺物(1)

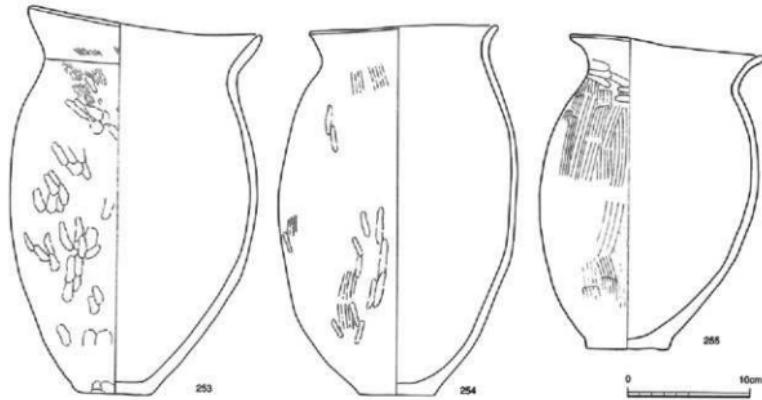
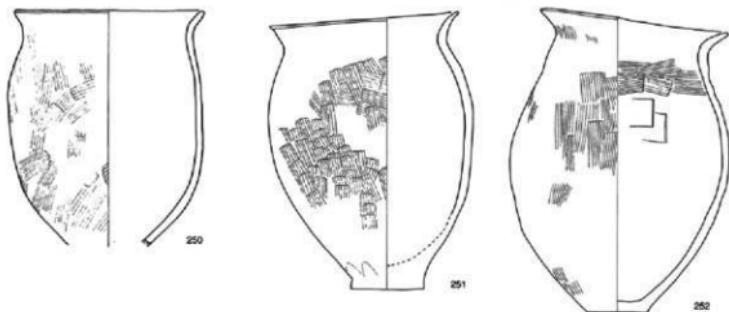
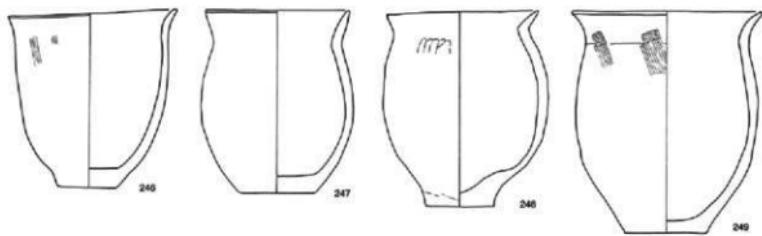


0 10cm

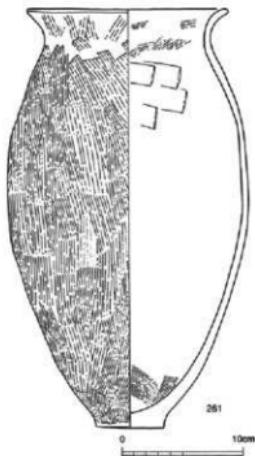
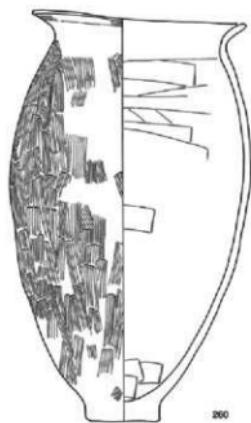
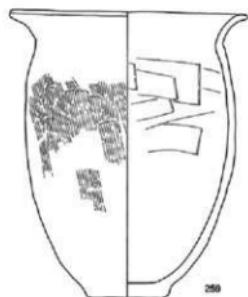
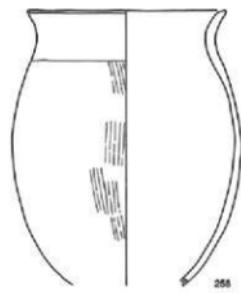
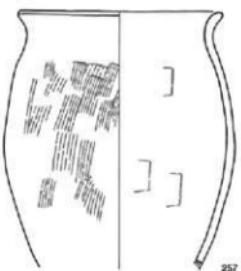
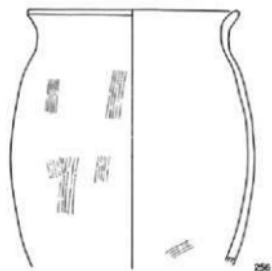
第43図 出土遺物12



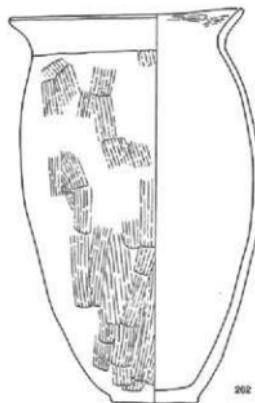
第44図 出土遺物(13)



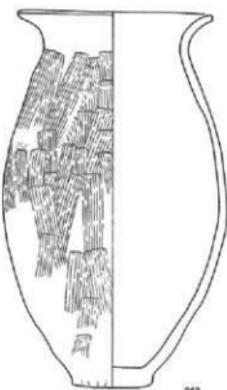
第45図 出土遺物(14)



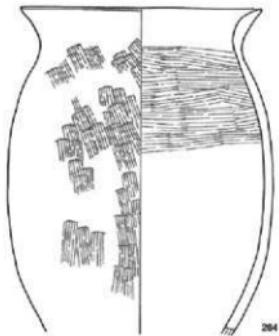
第46図 出土遺物(15)



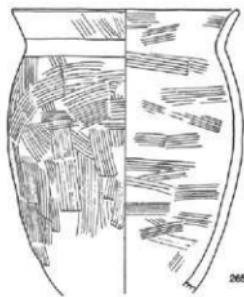
262



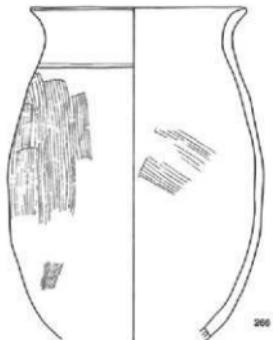
263



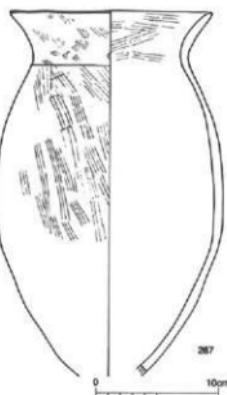
264



265

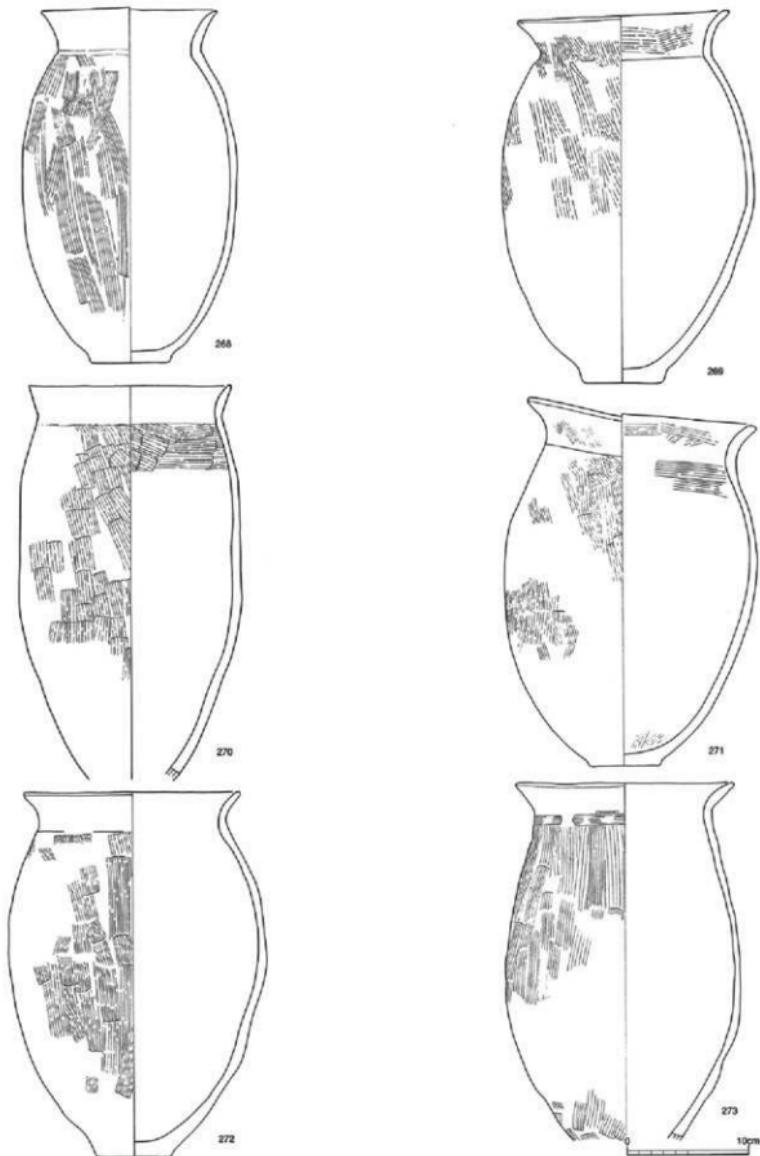


266

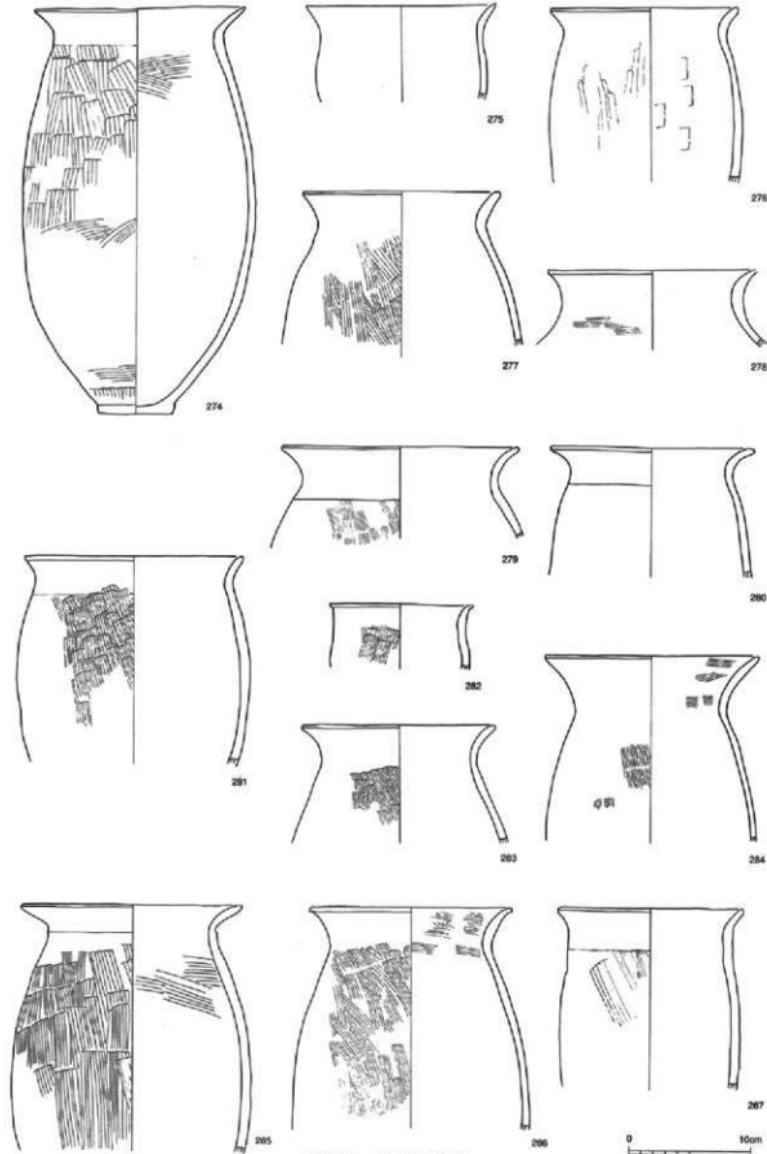


267

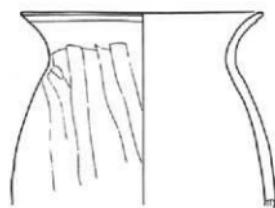
第47図 出土遺物(16)



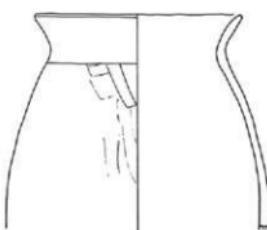
第48図 出土遺物(1)



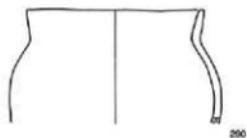
第49図 出土遺物18



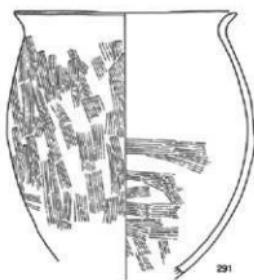
299



299



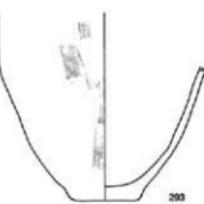
299



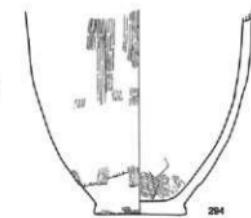
291



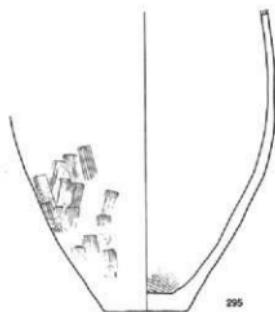
292



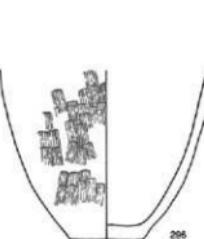
293



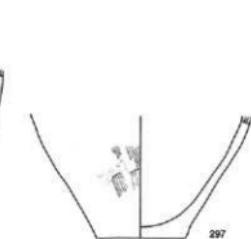
294



295



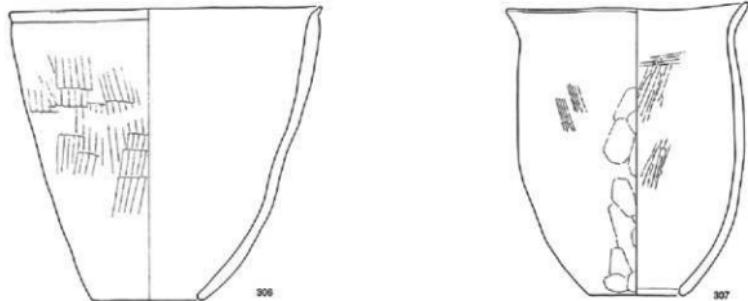
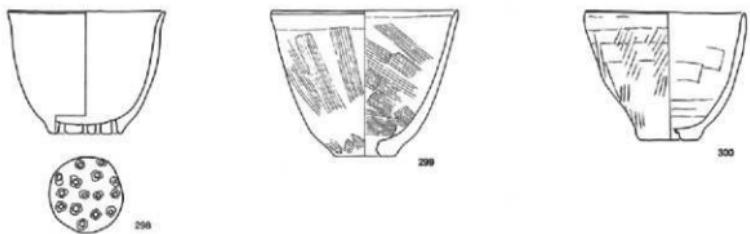
296



297

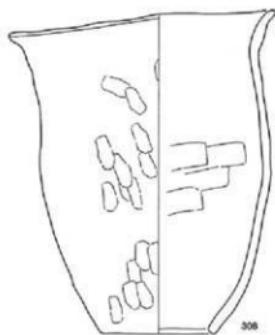


第50図 出土遺物(19)

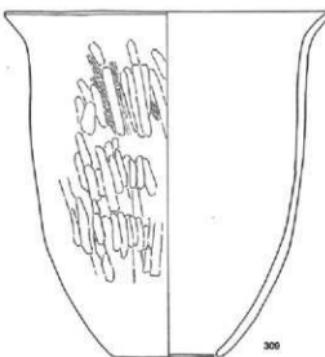


第51図 出土遺物(2)

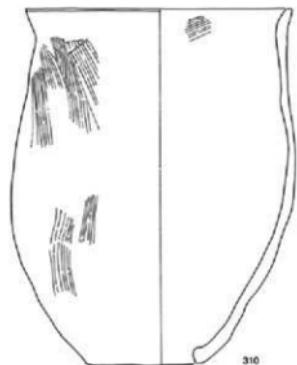
0 10cm



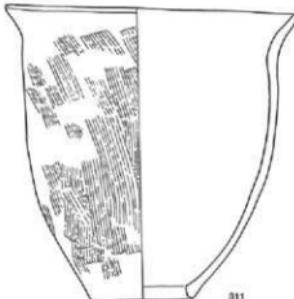
308



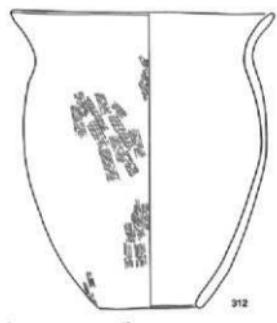
309



310

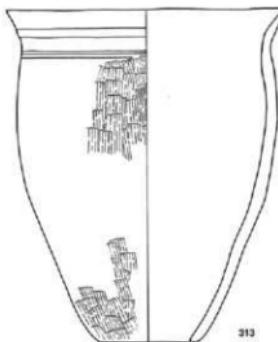


311



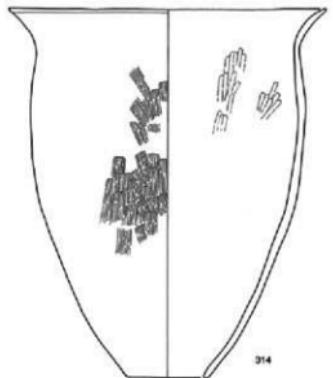
312

0 10cm

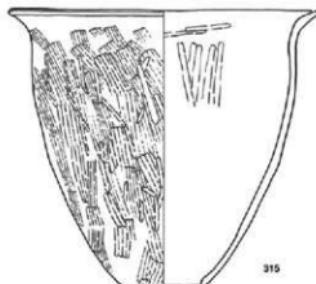


313

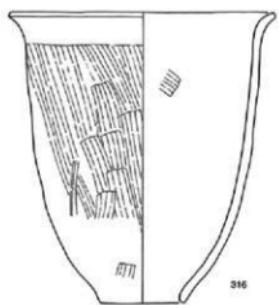
第52図 出土遺物(2)



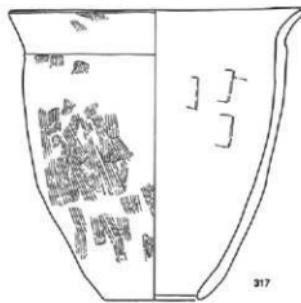
314



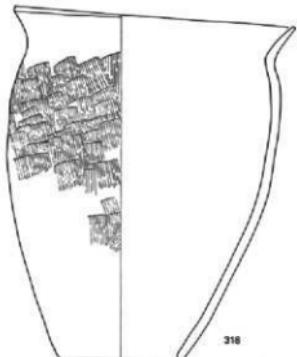
315



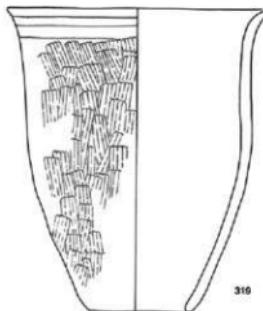
316



317



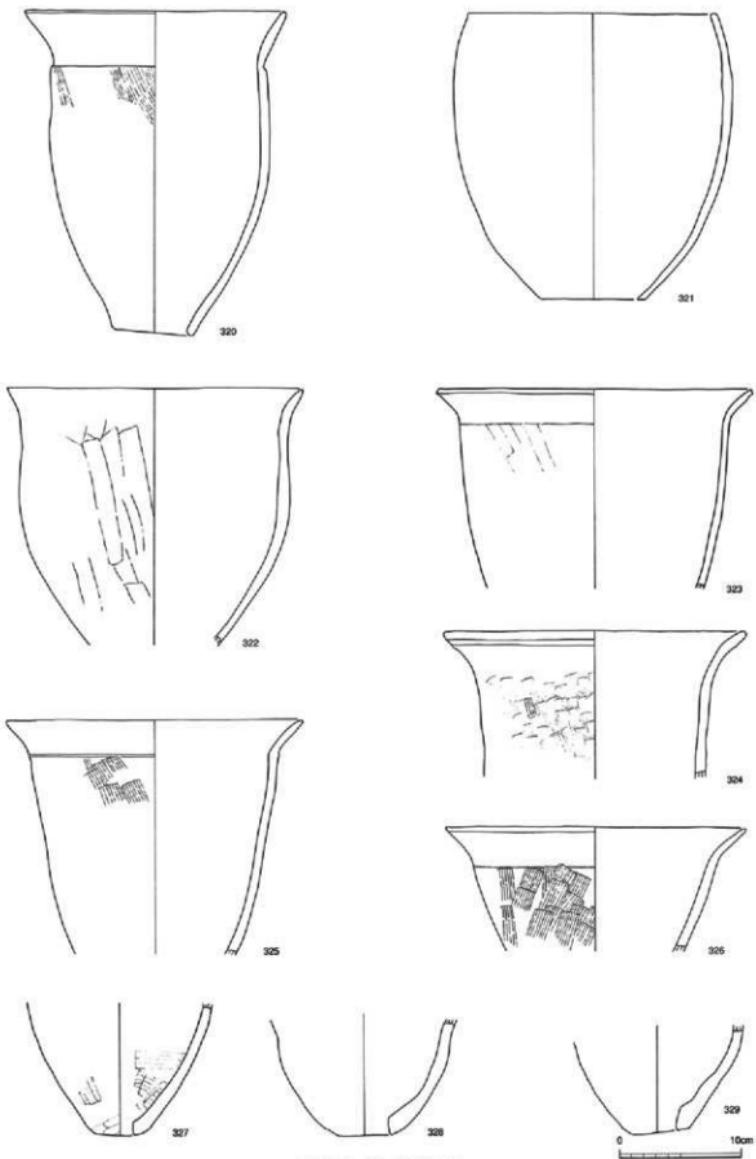
318



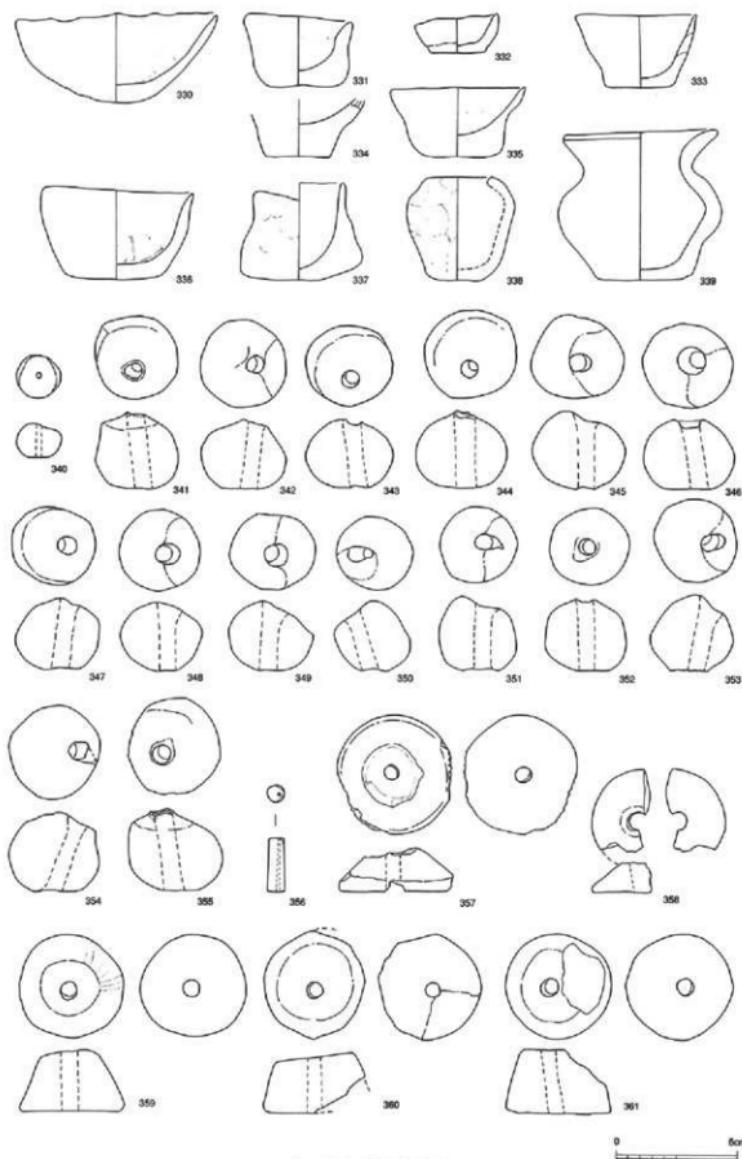
319

0 10cm

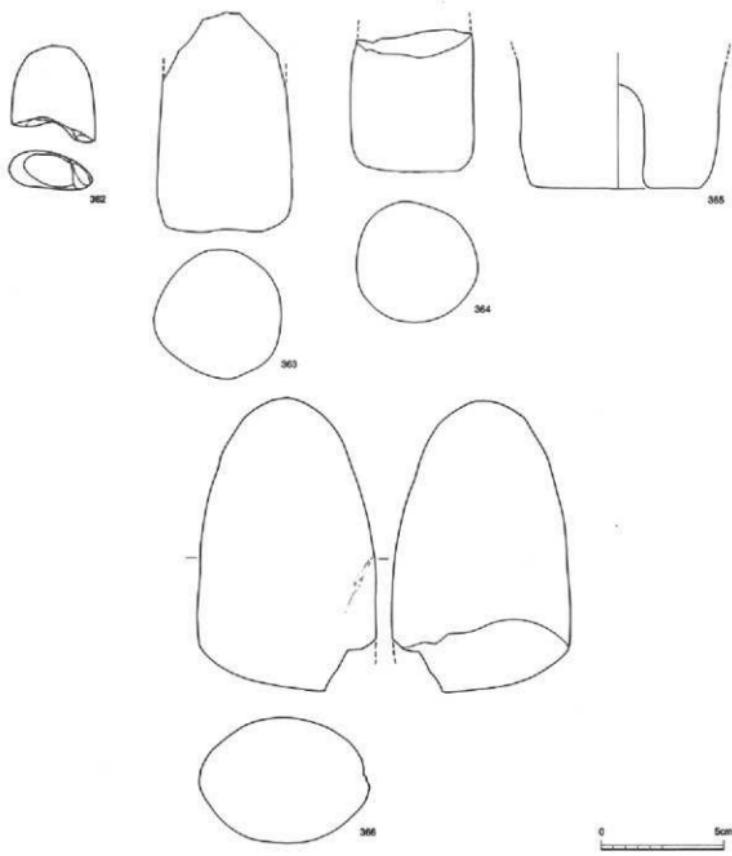
第53図 出土遺物22



第54図 出土遺物(23)



第55図 出土遺物24



第56図 出土遺物29

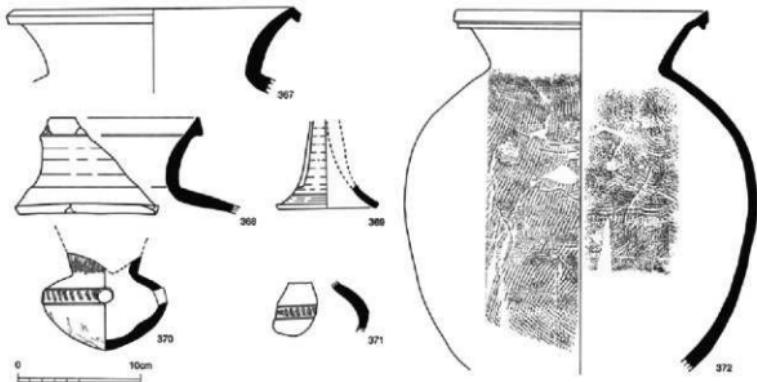
縁部は外反している。

340～355は土玉である。16点出土している。340は径2cmと小型である。341～355は径が3.5cm前後の大きさであり、焼成はいずれも良好である。

356は管玉である。細身で長く、入念に研磨され光沢を有する。碧玉製。

357～361は紡錘車である。5点出土している。357・358は石製で、359～361は土製である。いずれも円錐台形である。

362～366は土製品である。362は用途不明である。363～365はカマドの支柱であろうか。365は底部中央に径2cm、深さ4.5cmほどのくぼみを有する。366は円錐状である。

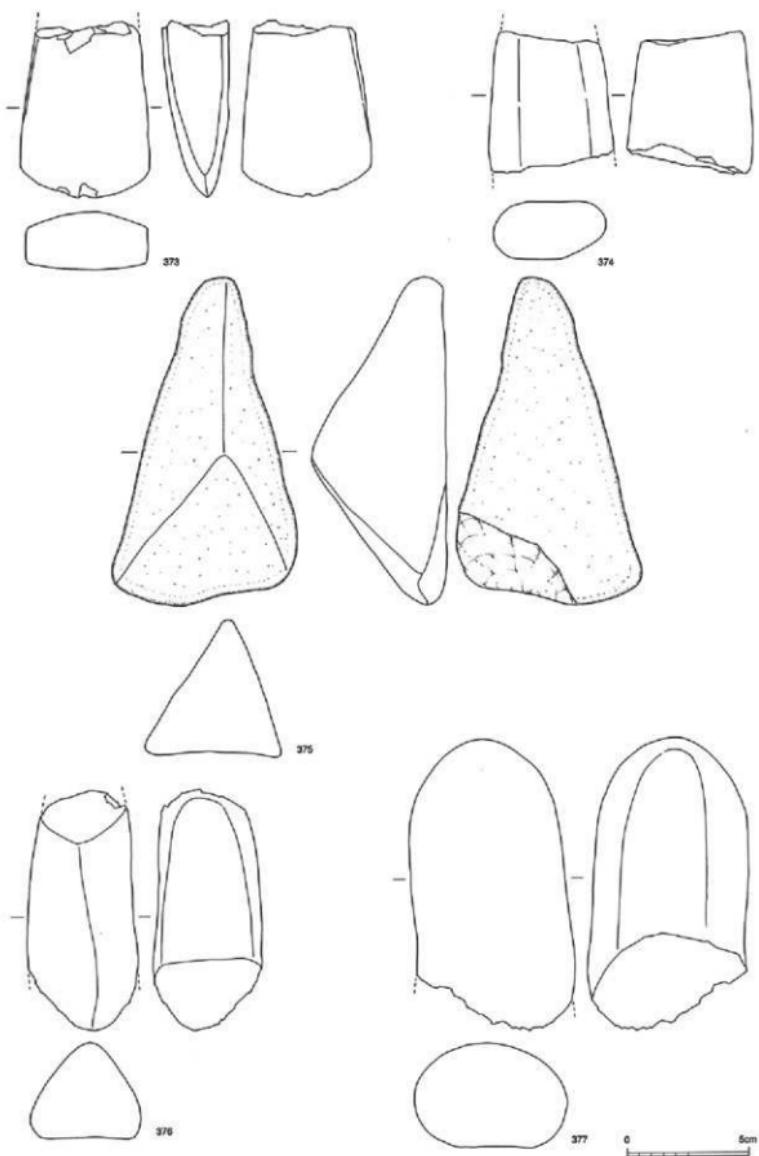


第57図 出土遺物<sup>29</sup>

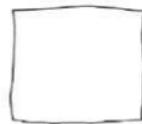
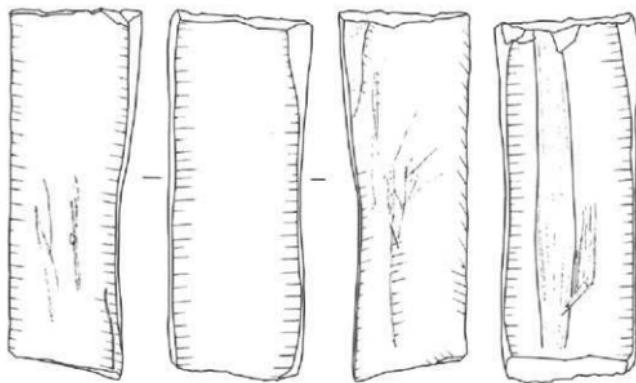
367～372は須恵器である。367・368・372は須恵器甕である。口縁部は外反して折り返されている。372は、体部叩き調整後、胴部上位から中位にかけて平行叩き目を施している。369は高坏の脚部である。370は、甕である。胴部のやや上位に最大径を有する。頸部及び体部に押引状の文様を有する。371は、甕の体部破片であろうか。

373～386は石器である。373は磨製石斧である。刃部は両刃で、基部を欠損する。375は石斧の素材である。裏面に端部方向からの剥離がみられる。374・376～384は砥石である。374・376・377は片面に平坦な磨面を有する。378は角柱状の形態である。各面平滑に仕上げられており、また、刃部を研いだ後、棒状のものを研いだ痕跡を有する。379は板状である。端部に細長い研磨痕を残している。380は円盤状のもの、381は板状で、端部方向からの剥離を有する。欠損後、再生を図ったものであろうか。382～384は厚手の台状である。385・386は棒状の礫器である。386は石斧の素材であろうか。

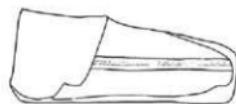
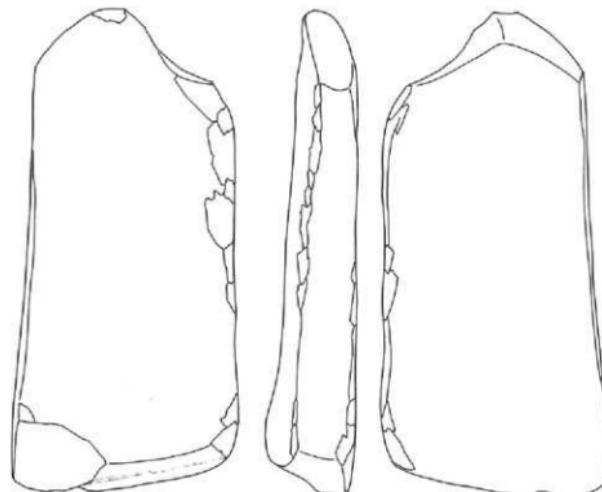
387～395は木製品である。387・388はたたりである。組み合わさった状態で出土している。389は用途不明。中央に径3cmの穴を穿っている。390・391・393～395は堅杵である。391は現存長86cm、392は23cmを測る。遺存状況が悪く、かなり縮んでいる。393～395は炭化している。392は槌である。



第58図 出土遺物(2)



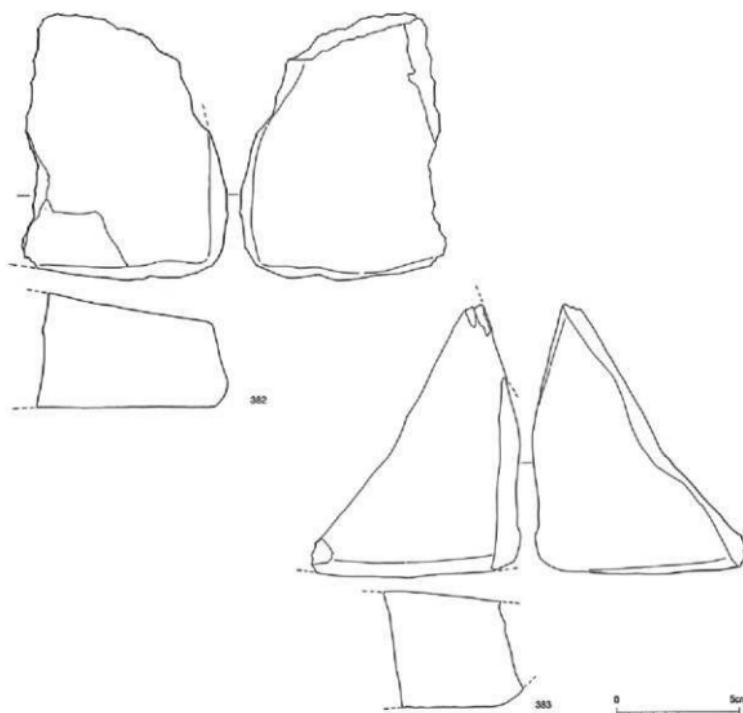
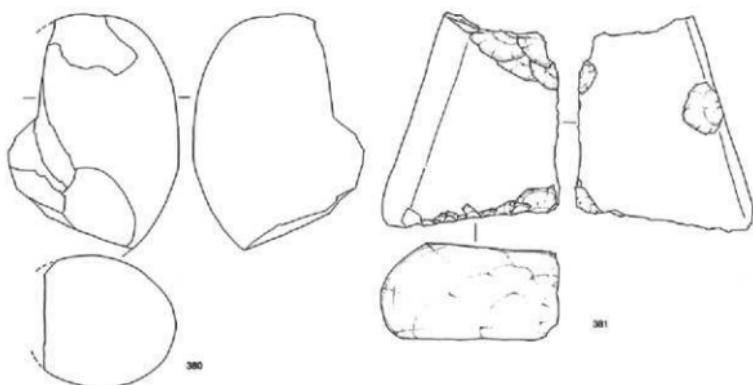
378



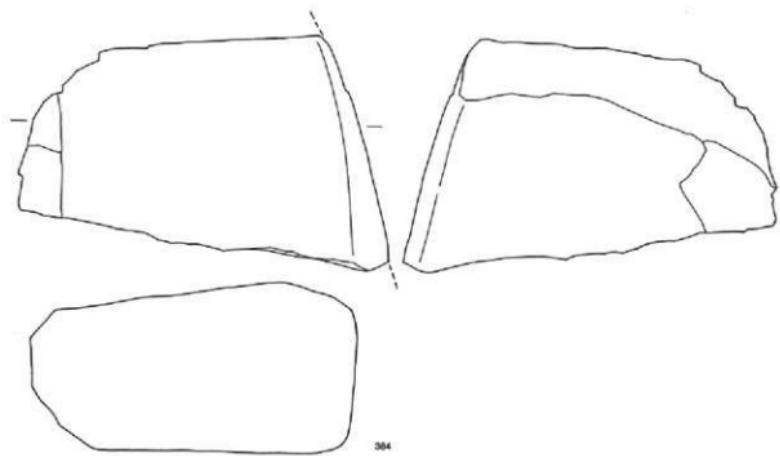
379



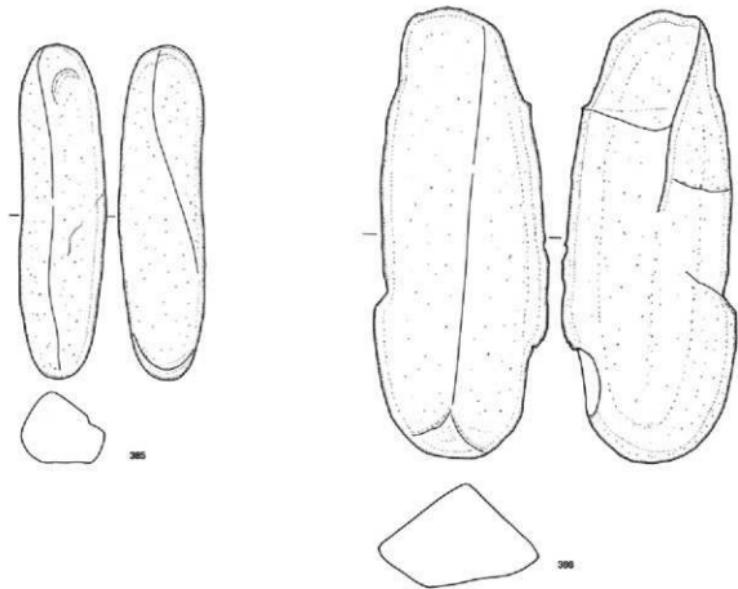
第59図 出土遺物②



第60図 出土遺物②



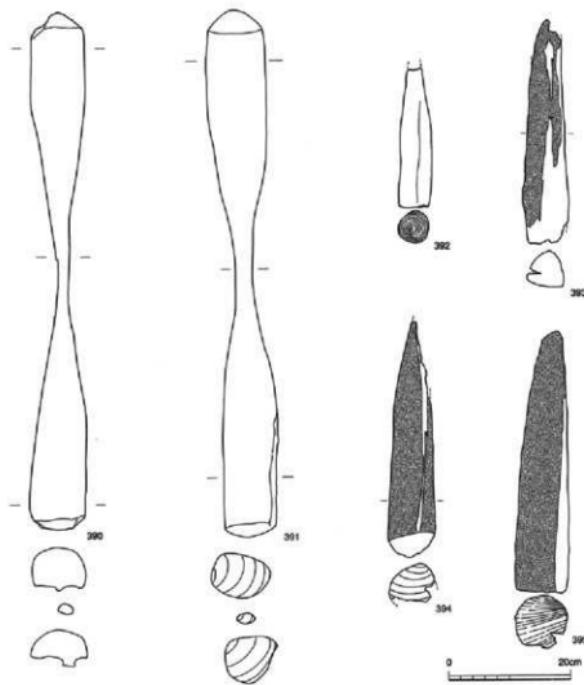
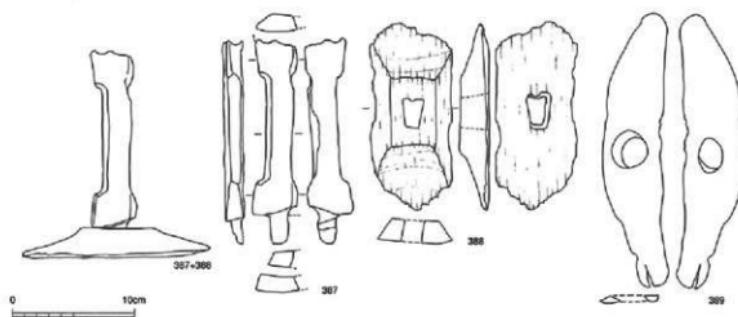
364



365

0 5cm

第61図 出土遺物(3)



第62図 出土遺物(3)

## 第IV章 まとめ

平成10年度に実施した本調査は、昭和62年に指定された範囲のうち北側区域における遺構・遺物の分布状況及び水田等の生産遺構の有無の確認を目的として行われた。

調査の結果、生産遺構は確認されなかったが、河川跡や多くの建築材と遺物が検出され、遺跡の広がりを確認することができた。

このうち、河川跡については、南北に伸びることが想定されたことから、平成11・12年度に流路の確認を目的とした調査を実施し、集落の東側を迂回しながら遺跡を南から北へ向かって流れている河川の一部であることが判明している。

そのほか、下記の成果を得ることができた。

### (1) 遺構について

土層断面の観察によると、D 1-d 10区～F 1-d 10区にかけて砂層が確認されている。ただし、遺構・遺物は直接砂層に覆われておらず、基本的にII b 層上の堆積であることから、遺跡の廃絶後、奈良・平安時代ごろの氾濫に伴うものであることが想定される。

次に、木材の分布状況であるが、杭材が拡張区南側に集中しているのに対して、棒材や板材等は拡張区北側から多く出土するといった特徴が見られた。特に集中して検出されたC 1-h 9区、D 1-a 9区、D 1-c 10区において、棒材、板材等の軸方位を計測したところ、N-26°-EからN-39°-Eに傾くものが多いことが分かった。さらにD 1-c 9区出土の材は、それらとほぼ直行する方位に向いて出土する傾向がみられた。杭材については、遺物の分布と非常によく整合しており、遺構の本来的位置を示すものであろう。したがって、杭の分布とずれる板材や棒材等は、本来の位置より北側に流されたものであると想定される。

### (2) 遺物について

遺構単位での取り上げができなかつたため、明確な一括遺物としてまとめることができず、建物を構成すると思われる棒材や板材、杭材との共伴関係についても厳密に確認することができなかつた。分布状況からは、いくつかのまとまりを想定することができるものの、まとまりごとが連続しているため、はっきりと区切ることができなかつた。全体的な特徴として、比較的器種ごとにまとまり、また、器形的に類似したタイプのものが近接して出土する傾向が見られた。

出土量は、土師器が大半を占め、須恵器も若干出土している。土師器は壺、高壺、甌に分けられ、甌、甌といった貯蔵・煮炊具が全体の40%を占めているのが特徴的である。なお、この数値は復元個体内での割合であるが、全体の様相は概ね反映しているものと考えられる。

それぞれの器種ごとの特徴を見ていくと、いくつかのタイプに分けることができる。坏については、①底部が平底あるいは丸底で、体部が内湾して立ち上がるるもの、直立気味に立ち上がるもの、あるいは口縁部が直立して稜をもつもの。中には口縁端部が短く外反するものも見られる。②底部が丸底で、体部が内湾して立ち上がり、口縁部が外反するもの。これらの中には、内面の体部と口縁部の境に明瞭な稜を形成するものも見られる。③底部が丸底で、外面の体部と口縁部の境に明瞭な稜を形成するもの。口縁部は直立するもの、外反するもの、外傾するものと様々である。④底部が丸底で、外面の体部と口縁部の境に明瞭な段を形成しているもの。段の位置は、比較的下位にあり、口縁部は直線的に外傾しているものが多く見られる。

①は第32図5～28、②は第32図29～第33図47、③は第33図48～65、④は第34図68～92、が典型的な例である。量的には③、④が卓越する。それぞれの土器の特色から、③は住社式、④は栗廻式に相当すると考えられる。①、②はそれ以前の型式に比定されるものであろう。

高坏は、脚部や裾部にバリエーションがあるものの、坏部については住社式、栗廻式の特徴を示すものが多く見られた。

甕については、鉢状、球胴、長胴のものがあり、中でも長胴のものが目出ち、器面調整がハケ目に画一化される。また、264～274は肩部に段を有する。

須恵器については、出土量が少ない。甕2点のほか、甕の破片が若干多く出土している。

土器以外では、木製品が堅杵、槌、たたり、そのほか土玉や筋錘車、磨製石斧や砥石などが出土しており、生産に関わるものが多く出土しているように見受けられる。土器群においても、貯蔵・煮炊具が多いことから、この区域が遺跡内において、生産・貯蔵に係る機能を有していた可能性も想定できるのではないか。

#### 引用・参考文献

氏家和典1957「東北土師器の型式分類とその編年」歴史第14集

名和達朗ほか1985『西沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書第101集

白鳥良一・古川一明1991「2 土師器の編年 8 東北」

『古墳時代の研究6 土師器と須恵器』雄山閣

渡邊康伸1991「3 須恵器の編年 9 東北」

『古墳時代の研究6 土師器と須恵器』雄山閣

大川清ほか1996「古墳時代 東北」

『日本土器辞典』雄山閣

第1表 土器観察表(1)

種類 No.	種別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	調査	地土	焼成	色	調査	測定度 (%)	備考
32-1 21	土師器	杯	92	38	42	外腹 不明 内腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	90	
32-2 29	土師器	杯	93	52	43	外腹 子ノ、押正燒 内腹 子ノ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	90	
32-3 30	土師器	杯	86	54	45	外腹 不明 内腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	80	
32-4 289	土師器	杯	(31)	—	51	外腹 不明 内腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	50	
32-5 45	土師器	杯	128	—	61	外腹 ケノ子ノ 内腹 ニヌキ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒多	90	
32-6 88	土師器	杯	(129)	—	48	外腹 不明 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒多	50	
32-7 149	土師器	杯	(118)	—	51	外腹 不明 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒多	50	
32-8 141	土師器	杯	(132)	—	48	外腹 不明 内腹 ハツノ人	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	70	
32-9 310	土師器	杯	120	54	53	外腹 不明 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒多	70	
32-10 191	土師器	杯	(116)	—	(46)	外腹 不明 内腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	30	
32-11 21	土師器	杯	114	—	50	外腹 ケノリ 内腹 ナホノ、ケノリ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒多	80	
32-12 292	土師器	杯	156	—	66	外腹 ナホノ、ケノリ 内腹 ケノリ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒多	80	
32-13 98	土師器	杯	(125)	—	54	外腹 ケノリ 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒多	50	
32-14 291	土師器	杯	112	—	40	外腹 不明 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒多	80	
32-15 84	土師器	杯	141	—	47	外腹 不明 内腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	60	
32-16 162	土師器	杯	(182)	—	—	外腹 不明 内腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	40	
32-17 197	土師器	杯	103	94	37	外腹 ケノリ 内腹 ニヌキ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒多	90	
32-18 108	土師器	杯	(128)	—	—	外腹 ケノリ 内腹 ニヌキ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	30	
32-19 5	土師器	杯	138	—	46	外腹 ナホノ、ケノリ 内腹 ナホノ、ケノリ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	80	
32-20 55	土師器	杯	142	—	61	外腹 不明 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 ケノリ 内腹 ケノリ	砂粒多	70	
32-21 2	土師器	杯	124	—	57	外腹 ケノリ、ナホ 内腹 ケノリ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒多	100	
32-22 65	土師器	杯	(140)	—	42	外腹 不明 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 ケノリ 内腹 ケノリ	砂粒多	40	
32-23 85	土師器	杯	(132)	—	45	外腹 不明 内腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	50	
32-24 110	土師器	杯	126	—	43	外腹 不明 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	100	
32-25 113	土師器	杯	(147)	—	55	外腹 不明 内腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	砂粒少	40	

第1表 壺器観察表(2)

規格No.	整理番号	形	口径	底	高さ	測定	土	焼成	色	調査	
	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	(mm)	砂粒少	砂粒多	外面 黒褐色	(火炎)	
32-26	199	土師壺	坪	—	—	外面 不明 内面 不明	砂粒少	良好	外面 黒褐色	70	
32-27	94	土師壺	坪	(141)	—	69	砂粒少	良好	外面 黒褐色	30	
32-28	176	土師壺	坪	(140)	—	66	砂粒少	良好	外面 黒褐色	80	
32-29	147	土師壺	坪	(154)	—	51	砂粒少	良好	外面 黒褐色	60	
32-30	131	土師壺	坪	(151)	—	49	砂粒少	良好	外面 黒褐色	30	
32-31	69	土師壺	坪	(148)	—	54	砂粒少	良好	外面 黒褐色	40	
32-32	167	土師壺	坪	(138)	—	—	外面 不明 内面 不明	砂粒少	良好	外面 黒褐色	30
32-33	170	土師壺	坪	(154)	—	—	外面 不明 内面 不明	砂粒少	良好	外面 黒褐色	30
33-34	78	土師壺	坪	(151)	—	45	砂粒少	良好	外面 黒褐色	60	
33-35	62	土師壺	坪	149	—	55	砂粒少	良好	外面 黒褐色	40	
33-36	89	土師壺	坪	173	—	55	砂粒少	良好	外面 黒褐色	60	
33-37	111	土師壺	坪	(157)	—	47	砂粒少	良好	外面 黒褐色	20	
33-38	96	土師壺	坪	(159)	—	55	砂粒少	良好	外面 黒褐色	40	
33-39	34	土師壺	坪	149	—	54	砂粒少	良好	外面 黒褐色	60	
33-40	18	土師壺	坪	156	—	61	砂粒少	良好	外面 黒褐色	10	
33-41	154	土師壺	坪	(186)	—	—	砂粒少	良好	外面 黒褐色	20	
33-42	148	土師壺	坪	(154)	—	56	砂粒少	良好	外面 黒褐色	60	
33-43	102	土師壺	坪	168	—	58	砂粒少	良好	外面 黒褐色	50	
33-44	75	土師壺	坪	(162)	—	53	砂粒少	良好	外面 黒褐色	30	
33-45	125	土師壺	坪	(133)	—	49	砂粒少	良好	外面 黒褐色	70	
33-46	65	土師壺	坪	139	—	58	砂粒少	良好	外面 黒褐色	80	
33-47	155	土師壺	坪	(180)	—	—	砂粒少	良好	外面 黒褐色	20	
33-48	143	土師壺	坪	144	137	54	砂粒少	良好	外面 黒褐色	80	
33-49	61	土師壺	坪	(160)	—	59	砂粒少	良好	外面 黒褐色	70	
33-50	35	土師壺	坪	142	123	54	砂粒少	良好	外面 黒褐色	60	

第1表 土器觀察表(3)

種類名 種類名	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	口径 (cm)	直径 (cm)	高さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	調 整		地 土 構 成	色 調	透 度 (%)
									内面	外面			
33-51	1.98	土壤器	—	—	—	128	194	67	ナガリ	ミガリ	砂粒少	良好	70
33-52	1.16	土壤器	—	—	—	143	120	57	外面 内面	不明	砂粒稍多	良好	70
33-53	0.82	土壤器	—	—	—	149	115	48	外面 内面	ナガリ、ケツリ ナガリ、チテ、ミガリ	砂粒少	良好	100
33-54	0.49	土壤器	—	—	—	143	—	54	内面	ミガリ	砂粒稍多	良好	80
33-55	0.79	土壤器	—	—	—	147	120	56	外面 内面	ナガリ ナガリ、ミガリ	砂粒稍多	良好	50
33-56	0.77	土壤器	—	—	—	152	132	60	内面	ミガリ	砂粒稍多	良好	70
33-57	1.53	土壤器	—	—	—	141	—	—	外面 内面	ナガリ、チテ、ミガリ、ケツリ	砂粒稍多	良好	30
33-58	1.71	土壤器	—	—	—	150	125	55	外面 内面	ナガリ 不明	砂粒少	良好	50
33-59	1.53	土壤器	—	—	—	139	—	—	外面 内面	不明	砂粒稍多	良好	20
33-60	1.20	土壤器	—	—	—	125	108	48	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒稍多	良好	70
33-61	4	土壤器	—	—	—	143	124	68	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	80
33-62	1.17	土壤器	—	—	—	147	126	48	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	70
33-63	0.70	土壤器	—	—	—	169	146	57	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	80
33-64	1.01	土壤器	—	—	—	157	123	58	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	40
33-65	0.86	土壤器	—	—	—	160	125	50	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	30
33-66	1.16	土壤器	—	—	—	153	—	63	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	30
34-67	1.69	土壤器	—	—	—	181	—	—	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	30
34-68	0.38	土壤器	—	—	—	138	109	50	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	60
34-69	1.42	土壤器	—	—	—	143	—	52	外面 内面	ナガリ、ミガリ ナガリ、ミガリ	砂粒少	良好	80
34-70	0.48	土壤器	—	—	—	140	165	55	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	70
34-71	1.45	土壤器	—	—	—	142	—	—	外面 内面	不明	砂粒少	良好	20
34-72	0.31	土壤器	—	—	—	154	121	48	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	70
34-73	0.67	土壤器	—	—	—	152	115	48	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	60
34-74	1.50	土壤器	—	—	—	148	118	52	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	80
34-75	0.32	土壤器	—	—	—	162	120	51	外面 内面	ミガリ ミガリ	砂粒少	良好	70

第1表 器器観察表(4)

持込No.	整理番号	別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	圓	臺	盤	土	成	色	調	調査 (%)	備考
34-76	60	土師器	坪	(154)	124	43	外面 3万キロ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少多	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	70	
34-77	3	土師器	坪	151	104	51	外面 3万キロ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	80	
34-78	9	土師器	坪	157	93	47	外面 3万キロ、ケズリ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	90	
34-79	138	土師器	坪	(160)	—	—	外面 3万キロ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	90	
34-80	10	土師器	坪	179	106	54	外面 3万キロ、ケズリ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	60	
34-81	117	土師器	坪	(176)	(118)	—	外面 不明 内面 不明	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	30	
34-82	1	土師器	坪	148	90	48	外面 3万キロ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	80	
34-83	144	土師器	坪	(155)	—	—	外面 3万キロ 内面 不明	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黑色 内面 黑色	黑色	黑色	20	
34-84	196	土師器	坪	(143)	(94)	—	外面 3万キロ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	20	
34-85	130	土師器	坪	(169)	—	20	外面 不明 内面 不明	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	30	
34-86	165	土師器	坪	162	—	—	外面 3万キロ 内面 不明	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	20	
34-87	166	土師器	坪	(161)	—	—	外面 不明 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	20	
34-88	161	土師器	坪	(169)	—	—	外面 3万キロ 内面 不明	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	20	
34-89	140	土師器	坪	(161)	—	10	外面 不明 内面 不明	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	40	内面に水穴有
34-90	158	土師器	坪	(162)	—	—	外面 不明 内面 不明	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	30	
34-91	137	土師器	坪	(217)	—	—	外面 2万キロ 内面 2万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	30	
34-92	172	土師器	坪	(230)	—	—	外面 3万キロ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	30	
34-93	66	土師器	坪	133	141	81	外面 2万キロ 内面 2万キロ	砂粒少多	砂粒少多	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	50	
34-94	288	土師器	坪	135	—	—	外面 2万キロ 内面 2万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	60	
34-95	92	土師器	坪	(142)	(145)	70	外面 2万キロ 内面 2万キロ	砂粒少多	砂粒少多	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	40	内外面水影
35-96	168	土師器	坪	(130)	—	—	外面 3万キロ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	20	
35-97	91	土師器	坪	(112)	50	外面 不明 内面 不明	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	70		
35-98	151	土師器	坪	(100)	—	—	外面 不明 内面 不明	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	30	火八半壁
35-99	51	土師器	坪	151	151	73	外面 3万キロ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黄褐色 内面 黄褐色	黄褐色	黄褐色	70	
35-100	58	土師器	坪	(133)	—	71	外面 3万キロ 内面 3万キロ	砂粒少	砂粒少	良好	外面 黑色 内面 黑色	黑色	黑色	70	

第1表 土器觀察表(5)

標題No.	監理	施	明	圓	口徑 (mm)	底径 (mm)	高 (mm)	圓		胎土	燒成	色	圓	直徑度 (%)	圖	考
								外	内							
35-101	135	土師器	坏	(133)	—	—	外 外 外	少	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	30		
35-102	133	土師器	坏	(141)	138	78	不明	三 三 三	方 方 方	砂粒多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	40		
35-103	175	土師器	坏	(143)	—	—	外 外 外	少	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	40		
35-104	164	土師器	坏	141	143	68	外 外 外	少	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	50		
35-105	47	土師器	坏	150	149	90	外 外 外	少	少	砂粒多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	60		
35-106	90	土師器	坏	(112)	(100)	55	外 外 外	不明	三 三 三	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	40		
35-107	154	土師器	坏	142	—	72	外 外 外	少	少	砂粒多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	60		
35-108	57	土師器	坏	(89)	38	75	外 外 外	少	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	50		
35-109	99	土師器	坏	(95)	—	88	外 外 外	不明	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	60		
35-110	273	土師器	坏	(119)	—	—	外 外 外	少	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	10		
35-111	136	土師器	坏	103	—	—	外 外 外	少	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	40		
35-112	93	土師器	坏	123	—	95	外 外 外	不明	少	砂粒稍多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	60	底部内面に黒斑	
35-113	54	土師器	坏	(120)	—	78	外 外 外	少	少	砂粒稍多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	60		
35-114	176	土師器	陶	(105)	—	64	外 外 外	不明	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	50		
35-115	19	土師器	陶	114	—	76	外 外 外	少	少	砂粒稍多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	80		
35-116	60	土師器	陶	124	—	72	外 外 外	少	少	砂粒稍多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	70		
35-117	15	土師器	陶	136	63	63	外 外 外	少	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	90		
35-118	26	土師器	陶	102	46	66	外 外 外	不明	少	砂粒稍多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	80		
35-119	301	土師器	陶	(121)	50	76	外 外 外	不明	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	80		
36-120	73	土師器	高坏	134	92	111	外 外 外	少	少	砂粒稍多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	70		
36-121	103	土師器	高坏	127	90	95	外 外 外	不明	少	砂粒稍多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	70		
36-122	139	土師器	高坏	(140)	—	—	外 外 外	不明	少	砂粒稍多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	60		
36-123	40	土師器	高坏	150	—	—	外 外 外	少	少	砂粒少	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	60		
36-124	97	土師器	高坏	(140)	—	—	外 外 外	少	少	砂粒稍多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	70		
36-125	109	土師器	高坏	165	109	—	外 外 外	不明	少	砂粒稍多	良好	外 外 外	黑色 黑色 黑色	80		

第1表 土器觀察表(6)

種名	形態	質	質	口徑 (mm)	高さ (mm)	圓盤 (mm)	壁	底	土	灰	色	國	產地 (%)	備考	
36-126 8 土師器 高环	外圓 内圓 子口 三方半 脚部ケヌリ	158	102	10	外圓 内圓 子口 三方半 脚部ケヌリ	99	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	70	70		
36-127 159 土師器 高环	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	—	99	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	98	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	70	70	
36-128 95 土師器 高环	(144)	91	86	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	50	50		
36-129 106 土師器 高环	168	—	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	70	70		
36-130 128 土師器 高环	(118)	—	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒多	良好	外油 内油	黃褐色	70	70		
36-131 72 土師器 高环	131	94	91	外圓 内圓 子口 三方半 ケヌリ	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	70	70		
36-132 118 土師器 高环	142	94	99	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	90	90		
36-133 52 土師器 高环	147	96	111	外圓 内圓 子口 三方半 ハゲヌ	—	外圓 内圓 子口 三方半 ハゲヌ	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	70	70		
36-134 76 土師器 高环	(138)	(92)	94	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	40	40		
36-135 129 土師器 高环	(161)	—	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	40	40		
36-136 123 土師器 高环	—	(102)	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	30	30		
36-137 37 土師器 高环	145	93	108	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	50	50		
36-138 24 土師器 高环	157	90	95	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	70	70		
36-139 29 土師器 高环	147	96	82	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	50	50		
36-140 56 土師器 高环	144	102	86	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	50	50		
37-141 157 土師器 高环	(162)	(88)	88	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	60	60		
37-142 112 土師器 高环	(131)	93	96	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	70	70		
37-143 87 土師器 高环	172	104	92	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	70	70	内外圓失彩	
37-144 81 土師器 高环	143	95	68	外圓 内圓 子口 三方半 ケヌリ 脚部ケヌリ	—	外圓 内圓 子口 三方半 ケヌリ 脚部ケヌリ	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	50	50		
37-145 200 土師器 高环	(224)	—	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	40	40		
37-146 100 土師器 高环	151	(104)	84	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	70	70		
37-147 68 土師器 高环	(163)	(120)	103	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	50	50		
37-148 173 土師器 高环	(144)	91	73	外圓 内圓 子口 三方半 脚部ハゲヌ	—	外圓 内圓 子口 三方半 脚部ハゲヌ	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	70	70		
37-149 160 土師器 高环	(162)	108	92	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒稍多 少	良好	外油 内油	黃褐色	60	60		
37-150 299 土師器 高环	235	144	150	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	外圓 内圓 子口 三方半 不明	—	砂粒少	良好	外油 内油	黃褐色	90	90		

第1表 土器観察表(7)

神社No.	器種	別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	調	盤	施土	焼成	色	調	焼成度 (%)	備考
37-151	115	土師器	高杯	143	98	外腹 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	100				
37-152	159	土師器	高杯	157	—	外腹 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	20				
37-153	89	土師器	高杯	148	—	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	40				
37-154	107	土師器	高杯	151	—	外腹 十三 ミガキ ケズリ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30				
37-155	201	土師器	高杯	133	—	外腹 十三 ミガキ ケズリ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30				
37-156	121	土師器	高杯	152	—	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	50				
37-157	53	土師器	高杯	181	—	外腹 ハゲ 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	25	内外面光			
37-158	17	土師器	高杯	—	(106)	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30				
37-159	165	土師器	高杯	—	83	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	40				
37-160	190	土師器	高杯	—	(116)	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	40				
37-161	177	土師器	高杯	—	(96)	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30	内外面光			
38-162	180	土師器	高杯	—	102	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30				
38-163	188	土師器	高杯	—	(90)	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	20				
38-164	187	土師器	高杯	—	(102)	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	10				
38-165	186	土師器	高杯	—	(98)	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	10				
38-166	59	土師器	高杯	—	100	外腹 不明 十三 ミガキ ケズリ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	40				
38-167	105	土師器	高杯	—	121	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	40				
38-168	146	土師器	高杯	—	98	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30				
38-169	127	土師器	高杯	—	100	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30				
38-170	192	土師器	高杯	—	106	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30				
38-171	119	土師器	高杯	—	98	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	20				
38-172	176	土師器	高杯	—	88	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30				
38-173	114	土師器	高杯	—	105	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30				
38-174	126	土師器	高杯	—	109	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	50	内外面光			
38-175	132	土師器	高杯	—	(171)	外腹 不明 十三 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黒褐色	30				

第1表 土器観察表(8)

種類	形	質	口径	底	高さ	測定	型	施土	焼成	色	調査(%)	備考
38-176 185 土師器	高杯	—	188	—	外腹 不明	外腹 色	外腹 黄褐色	外腹 水褐色	外腹 黄褐色	40		
38-177 181 土師器	高杯	—	(183)	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黑色	10		
38-178 152 土師器	高杯	—	101	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	20		
38-179 134 土師器	高杯	—	(101)	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	20		
38-180 104 土師器	高杯	—	120	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黑色	40		
38-181 184 土師器	高杯	—	133	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	20		
38-182 183 土師器	高杯	—	140	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	40		
38-183 171 土師器	高杯	—	150	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黑色	30		
38-184 182 土師器	高杯	—	162	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黑色	20		
38-185 194 土師器	高杯	—	96	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黑色	40		
38-186 122 土師器	高杯	—	169	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黑色	30	腹面内面に擦痕	
38-187 193 土師器	高杯	—	168	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黑色	20		
38-188 124 土師器	高杯	—	(129)	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黑色	40		
38-189 133 土師器	高杯	—	122	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黑色	外腹 黄褐色	外腹 黑色	40		
38-190 254 土師器	裏	裏	(128)	54	(90)	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	70	
38-191f 300 土師器	裏	裏	(109)	95	(51)	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	40	
38-192 342 土師器	裏	裏	82	54	140	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	90	
38-193 27 土師器	裏	裏	125	52	155	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	80	
38-194 44 土師器	裏	裏	160	74	103	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	80	
38-195 11 土師器	裏	裏	99	—	86	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	100	
38-196 211 土師器	裏	裏	97	—	100	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	100	口縁部と体部の間に穿孔
38-197 212 土師器	裏	裏	—	56	—	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	80	
38-198 207 土師器	裏	裏	126	—	34	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	80	
38-199 226 土師器	裏	裏	(124)	64	141	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	40	
38-200 210 土師器	裏	裏	133	—	94	外腹 不明	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	外腹 黄褐色	60	

第1表 土器観察表(9)

地図No.	整理No.	種類	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	断面	形状	胎土	焼成	色	調査 (有)	備考
39-201	318	土師器	黄	(123)	—	外腹 十字、ハケメ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	—	40
39-202	340	土師器	黄	122	54	内腹 ハケメ、ハラナデ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	90	
39-203	325	土師器	黄	129	50	外腹 ハケメ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	80	
39-204	217	土師器	要	141	46	114 外腹 ハラナデ 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	70	
39-205	39	土師器	要	131	68	112 外腹 ハラナデ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	70	
39-206	302	土師器	要	(149)	—	— 外腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	70	
39-207	268	土師器	要	142	—	(106) 外腹 ハラナデ、ケズリ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	70	
39-208	231	土師器	要	144	—	— 外腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	40	
39-209	216	土師器	要	149	—	— 外腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	60	
39-210	269	土師器	要	184	—	— 外腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	20	
40-211	268	土師器	要	(153)	—	— 外腹 ハラナデ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	30	
40-212	243	土師器	要	145	—	— 外腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	40	
40-213	206	土師器	要	154	53	113 外腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	80	
40-214	25	土師器	要	153	65	103 外腹 ハラナデ、ケズリ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色小かった青褐色	青褐色	60	
40-215	202	土師器	要	174	49	152 外腹 ハラナデ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	青褐色	60	
40-216	274	土師器	鉢	(197)	—	— 外腹 不明、ケズリ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	青褐色	50	
40-217	223	土師器	鉢	221	78	136 外腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	青褐色	70	
40-218	323	土師器	鉢	(253)	54	157 内腹 ハラナデ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	青褐色	60	
40-219	42	土師器	鉢	248	64	124 内腹 ハラナデ、ミガキ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	青褐色	60	
40-220	218	土師器	要	102	48	405 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	青褐色	40	
41-221	214	土師器	要	114	53	177 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	青褐色	60	
41-222	215	土師器	要	165	62	205 内腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	青褐色	60	
41-223	219	土師器	要	129	64	225 内腹 不明	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	青褐色	80	底部に水漬痕
41-224	204	土師器	要	173	70	286 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	青褐色	60	
41-225	235	土師器	要	171	74	284 内腹 不明	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	青褐色	60	

第1表 土器觀察表(0)

種別No.	監視 地點	性 別	年 齢	口 徑 (mm)	底 (mm)	高 (mm)	形 狀	胎 土	施 工	色 調	鑑定 (%)	備 考
41-226	369 土師器	要	161	78	303	外圓 不明 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 赤褐色 内圓 黄褐色	良好	90		
41-227	237 土師器	要	174	70	251	外圓 テーラー 内圓 テーラー	砂粒少 多	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	80		
42-228	294 土師器	要	162	—	—	外圓 テーラー 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	50		
42-229	321 土師器	要	157	—	—	外圓 不明 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	50		
42-230	284 土師器	要	184	—	—	外圓 テーラー 内圓 不明	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	10		
42-231	240 土師器	要	150	—	—	外圓 テーラー 内圓 テーラー	砂粒少 多	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	60		
42-232	368 土師器	要	—	—	—	外圓 テーラー 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	70		
42-233	326 土師器	要	—	87	—	外圓 テーラー 内圓 不明	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	60		
42-234	236 土師器	要	—	70	—	外圓 不明 内圓 不明	砂粒少 多	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	50		
42-235	315 上海器	要	—	65	—	外圓 不明 内圓 不明	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	60		
43-236	262 土師器	要	(150) (62)	274	外圓 不明 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	70			
43-237	22 土師器	要	185	79	276	外圓 テーラー 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	50		
43-238	16 土師器	要	106	78	310	外圓 テーラー 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	50		
43-239	266 土師器	要	(146) 64	271	外圓 不明 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	60			
44-240	327 土師器	要	(226) 73	209	外圓 不明 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	60			
44-241	259 土師器	要	(257) 65	238	外圓 テーラー 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	70			
44-242	365 土師器	要	(196) (60)	261	外圓 テーラー 内圓 テーラー	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	60			
44-243	249 土師器	要	(228) (70)	(258)	外圓 テーラー 内圓 テーラー	砂粒少 多	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	70			
44-244	253 土師器	要	(178) —	—	外圓 テーラー 内圓 不明	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	50			
44-245	324 土師器	要	(230) —	—	外圓 テーラー 内圓 不明	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	40			
45-245	285 土師器	要	137	48	142	外圓 テーラー 内圓 不明	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	60		
45-247	265 土師器	要	(118) 58	149	外圓 不明 内圓 不明	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	50			
45-248	244 土師器	要	124	56	158	外圓 テーラー 内圓 不明	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	60		
45-249	295 土師器	要	150	67	180	外圓 テーラー 内圓 不明	砂粒少 多	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	50		
45-250	341 土師器	要	154	—	—	外圓 テーラー 内圓 不明	砂粒多 少	外圓 黄褐色 内圓 黄褐色	良好	70		

第1表 土器觀察表(1)

第1表 土器觀察表(12)

種別No. 丸	整理 種 別	器 種	口 徑 (mm)	底 (mm)	高 (mm)	圖 形	性 質	胎 土	燒 成 色	燒 成 (%)	備 考
49-275 267	土師器	要	(153)	—	—	外面 ハラリテ 内面 ナチ、ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	40	
49-277 260	土師器	要	161	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	20	
49-278 271	土師器	要	(170)	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	15	
49-279 236	土師器	要	(194)	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	10	
49-280 319	土師器	要	(166)	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	20	
49-281 309	土師器	要	178	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	50	
49-282 314	土師器	要	118	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	20	
49-283 272	土師器	要	159	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	30	
49-284 287	土師器	要	174	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒多	良好	外腹 灰褐色 内腹 灰褐色	25	
49-285 247	土師器	要	180	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	40	
49-286 276	土師器	要	163	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	40	
49-287 303	土師器	要	(151)	—	—	外面 ナチ、ハケヌ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	20	
50-285 317	土師器	要	(197)	—	—	外面 ナチ、ケヅリ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	30	
50-289 307	土師器	要	169	—	—	外面 ナチ、ケヅリ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	30	
50-290 311	土師器	要	(140)	—	—	外面 ナチ 内腹 ナチ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	20	
50-291 242	土師器	要	181	—	—	外面 ナチ 内腹 ナチ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	70	
50-292 365	土師器	要	—	55	—	外面 ナチ 内腹 ナチ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	50	
50-293 387	土師器	要	—	50	—	外面 ナチ 内腹 ナチ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	20	
50-294 279	土師器	要	—	75	—	外面 ナチ 内腹 ナチ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	20	
50-295 303	土師器	要	—	66	—	外面 ナチ 内腹 ナチ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	50	
50-296 312	土師器	要	—	60	—	外面 ナチ 内腹 ナチ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	40	
50-297 347	土師器	要	—	72	—	外面 ナチ 内腹 ナチ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	30	
51-298 213	土師器	瓶	(123)	60	101	外面 ナチ 内腹 ナチ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	60	
51-299 36	土師器	瓶	154	49	119	外面 ナチ、ハケヌ 内腹 ナチ、ハケヌ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	50	
51-300 205	土師器	瓶	130	63	105	外面 ハナチデ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色 内腹 黄褐色	80	

第1表 土器観察表(3)

標記No.	型番	縦 (mm)	横 (mm)	口径 (mm)	高さ (mm)	底 (mm)	断面	輪 土	焼 成	色	調 色	透 度 (%)	備 考
51-301	26	土師器	瓶	110	40	73	外腹 ケツリ ナゲ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	90	
51-302	218	土師器	瓶	132	62	111	外腹 ナゲ、ハケメ、ケツリ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	70	
51-303	6	土師器	瓶	137	47	96	外腹 ナゲ、ケツリ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	80	
51-304	33	土師器	瓶	230	74	146	外腹 ナゲ、ハケメ、ケツリ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	60	
51-305	222	土師器	瓶	165	57	161	外腹 ナゲ、ケツリ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	60	
51-306	255	土師器	瓶	(235)	90	238	内腹 不規	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	50	
51-307	229	土師器	瓶	198	76	233	内腹 ミガキ、ケツリ	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	70	
52-308	230	土師器	瓶	117	92	260	外腹 ハラナデ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	70	
52-309	232	土師器	瓶	266	84	283	外腹 ミガキ、ミガキ、ナゲ、ナゲ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	70	
52-310	293	土師器	瓶	218	35	289	ナゲ、ナゲ	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	70	
52-311	43	土師器	瓶	229	89	237	ナゲ	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	80	
52-312	231	土師器	瓶	213	82	242	外腹 ナゲ	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	70	
52-313	261	土師器	瓶	(230)	—	273	外腹 ナゲ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	50	
53-314	320	土師器	瓶	(280)	(65)	—	外腹 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	40	
53-315	220	土師器	瓶	253	65	226	外腹 ミガキ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	60	
53-316	30	土師器	瓶	217	65	241	外腹 ナゲ	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	黄褐色	80	
53-317	239	土師器	瓶	240	80	237	内腹 ハラナデ	砂粒少	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	80	
53-318	260	土師器	瓶	(235)	—	281	外腹 ナゲ	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	60	
53-319	257	土師器	瓶	212	82	247	外腹 ナゲ	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	80	
54-320	226	土師器	瓶	212	62	262	外腹 ナゲ	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	60	
54-321	298	土師器	瓶	(234)	(65)	234	内腹 不明	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	45	
54-322	23	土師器	瓶	241	—	—	内腹 ケツリ、ナゲ	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	70	
54-323	313	土師器	瓶	(238)	—	—	内腹 ナゲ	砂粒少	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	20	
54-324	305	土師器	瓶	248	—	—	内腹 ナゲ	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	20	
54-325	275	土師器	瓶	(242)	—	—	内腹 不明	砂粒多	良好	内腹 黄褐色	黄褐色	40	

第1表 土器観察表(4)

種別	範囲	種類	別	形状	口径	底径	腹高	脚	茎	胎土	焼成	色	調査	(%)
54-328	315	土師器	瓶	—	—	—	—	外腹 半明 ノゾム、ケズリ	—	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	30	
54-327	267	土師器	瓶	—	—	23	—	外腹 半明 ノゾム	—	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	20	
54-328	358	土師器	瓶	—	—	44	—	外腹 半明 ノゾム	—	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	20	
54-329	306	土師器	瓶	—	—	46	—	外腹 半明 ノゾム	—	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	30	
55-330	344	土師器	ミニチュア	—	37	—	—	外腹 ノゾム	83	砂粒多	良好	外腹 黄褐色	100	
55-331	345	土師器	ミニチュア	—	45	27	28	外腹 半生窓	—	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	100	
55-332	393	土師器	ミニチュア	—	34	22	14	外腹 半明 ノゾム	—	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	100	
55-333	349	土師器	ミニチュア	(58)	27	30	—	外腹 半生窓	—	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	50	
55-334	392	土師器	ミニチュア	—	—	25	—	外腹 ノゾム	—	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	60	
55-335	348	土師器	ミニチュア	—	55	32	29	外腹 半生窓	—	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	50	
55-336	346	土師器	ミニチュア	—	62	40	36	外腹 ノゾム	—	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	50	
55-337	379	土師器	ミニチュア	—	39	50	41	外腹 半生窓	—	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	100	
55-338	341	土師器	ミニチュア	—	27	20	42	外腹 半生窓	—	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	100	
55-339	335	土師器	ミニチュア	—	63	34	61	外腹 半生窓	—	砂粒少	良好	外腹 黄褐色	100	

第2表 土・石製品観察表(1)

標題No. No.	整理 別	器 種	口 徑 (mm)	底 径 (mm)	高 (mm)	調 整	動 土	燒 成	色 調	透 明 (%)	備 考
55-340	24	土製品	土玉	17	19			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-341	46	土製品	土玉	34	31			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-342	74	土製品	土玉	36	35			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-343	350	土製品	土玉	33	36			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-344	351	土製品	土玉	36	38			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-345	370	土製品	土玉	34	39			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-346	372	土製品	土玉	34	37			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-347	375	土製品	土玉	32	34			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-348	378	土製品	土玉	39	33			砂粒稍多	黃褐色	100	
65-349	379	土製品	土玉	31	35			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-350	381	土製品	土玉	30	32			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-351	382	土製品	土玉	32	32			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-352	385	土製品	土玉	32	35			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-353	386	土製品	土玉	34	34			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-354	383	土製品	土玉	38	37			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-355	384	土製品	土玉	39	38			砂粒稍多	黃褐色	100	
55-356	396	石製品	青玉	22	7					100	
55-357	332	石製品	綠翡翠	25	49	18				90	
55-358	338	石製品	綠翡翠	—	—	12				30	
55-359	336	土製品	綠翡翠	24	43	26		砂粒少	黃褐色	100	
55-360	337	土製品	綠翡翠	32	—	24		砂粒多	黃褐色	80	
55-361	340	土製品	綠翡翠	29	43	26		砂粒少	黃褐色	90	
55-362	209	土製品	不明	—	34	14		砂粒少	黃褐色		
55-363	229	土製品	支柱	—	53	53		砂粒稍多	黃褐色		
55-364	331	土製品	支柱	—	49	50		砂粒少	黃褐色		

第2表 土・石製品觀察表(2)

種別No.	基準No.	基準	別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	圓	鑿	土	焼成	色	圓	鑿	(%)	備考
66-365	330	土製品	支柱	—	(72)	—	—	—	砂輪少	良好	黃褐色	—	—	—	—	—
56-366	343	土製品	支柱	—	73	51	—	—	砂輪少	良好	黃褐色	—	—	—	—	—

第3表 刑具器觀察表

種別No.	基準No.	基準	別	器種	口径 (mm)	底径 (mm)	高さ (mm)	圓	鑿	土	燒成	色	圓	鑿	(%)	備考
57-367	238	須磨器	要	(240)	—	—	—	外圓 口クロ目、タタキ目、力牛目、力牛目 (傳御文)	砂輪少	良好	外圓 黄色	—	—	—	10	—
57-368	394	須磨器	要	—	—	—	—	外圓 口クロ目、力牛目、力牛目 (傳御文)	砂輪少	良好	外圓 酸灰色	—	—	—	10	—
57-369	393	須磨器	高坏	—	(62)	—	—	外圓 腹部口クロ目	砂輪少	良好	外圓 黄色	—	—	—	10	—
57-370	13	須磨器	壺	—	—	—	—	外圓 鋼鉛捺文、鶴文	砂輪少	良好	外圓 黄色	—	—	—	70	外圓外側に削られた痕が多数
57-371	395	須磨器	壺	—	—	—	—	外圓 鋼鉛捺文	砂輪少	良好	外圓 黄色	—	—	—	10	—
57-372	364	須磨器	要	204	—	—	—	外圓 口クロ目、力牛目、タタキ目 (傳御文)	砂輪少	良好	外圓 白灰色	—	—	—	70	—
								内圓 口クロ目、力牛目 (傳御文)			内圓 白灰色					

第4表 石器観察表

件 No.	目 次 No.	種 別	器 種	石 材	長 さ (mm)	幅 (mm)	厚 さ (mm)	遺存度 (%)	備 考
58-323	333	石器	石斧	ホルンフェルス	79	53	27		
58-324	352	石器	石斧	砂岩	58	52	23		
58-375	361	石器	石斧頭材	ホルンフェルス	136	76	53		
58-376	354	石器	石斧	不明	97	45	39		
58-377	353	石器	石斧	不明	115	66	42		
59-378	388	石器	砥石	不明	148	59	48		
59-379	334	石器	砥石	砂岩	196	92	38		
69-380	363	石器	砥石	不明	96	69	53		
69-381	357	石器	砥石	不明	85	72	40		
69-382	362	石器	砥石	不明	117	87	47		
69-383	359	石器	砥石	砂岩	110	85	47		
61-384	366	石器	砥石	砂岩	92	147	70		
61-385		石器	礫	不明	138	34	29		
61-386		石器	礫	不明	175	72	43		

第5表 木製品観察表

件 No.	目 次 No.	種 別	器 種	石 材	長 さ (mm)	幅 (mm)	厚 さ (mm)	遺存度 (%)	備 考
62-387	369	木製品	タタリ	スギ科スギ属又ギ	—	36	17		388とセット
62-388	367	木製品	タタリ	スギ科スギ属スギ	150	67	25		387とセット
62-389	373	木製品	不明	広葉樹	223	48	5		
62-390	14	木製品	堅杵	ミズキ科ミズキ属	421	45	36		
62-391	371	木製品	堅杵	ブナ科コナラ属コナラ亜 属クヌギ属	858	98	80		
62-392	374	木製品	翪	マツ科マツ属(ニホン松 類)	—	52	50		
62-393	376	木製品	堅杵	ブナ科コナラ属コナラ亜 属クヌギ属	—	76	57		表面一部炭化
62-394	377	木製品	堅杵	ブナ科コナラ属コナラ亜 属クヌギ属	—	78	—		表面一部炭化
62-395	380	木製品	堅杵	ブナ科コナラ属コナラ亜 属クヌギ属	—	88	86		表面一部炭化

# 写 真 図 版



拡張区全景



拡張区 (C1-f9~C2-j1区)



拡張区 (D1-a9 ~ D2-e1 区)



作業風景



C 2-f1 区出土状況



D 1-a 9 区出土状況



环出土状况



环出土状况



环出土状况



高环出土状况(1)



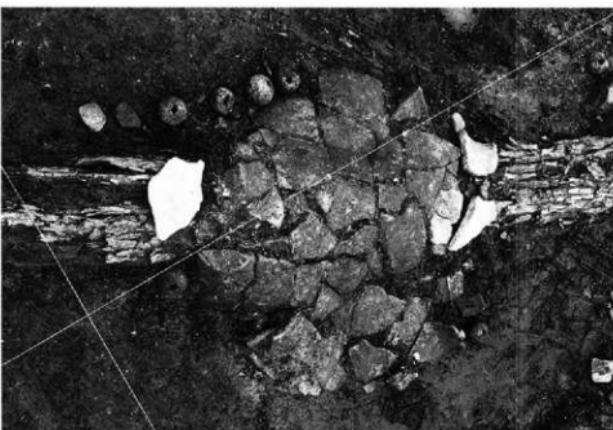
高环出土状况(2)



高环出土状况



D2-d1区出土状況



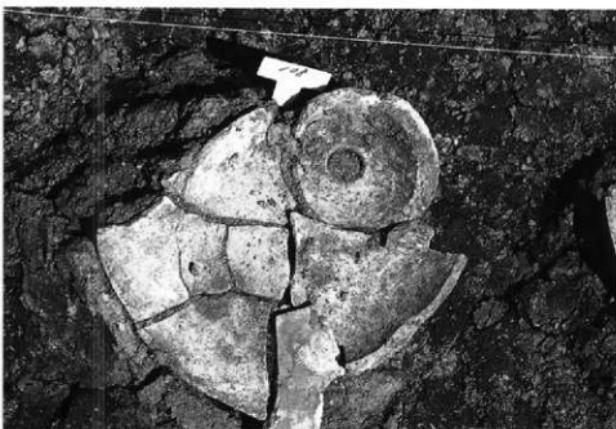
甕・土玉出土状況



甕出土状況



斐出土状况



甑出土状况



须惠器出土状况



甕出土状況



甕出土状況



甕出土状況



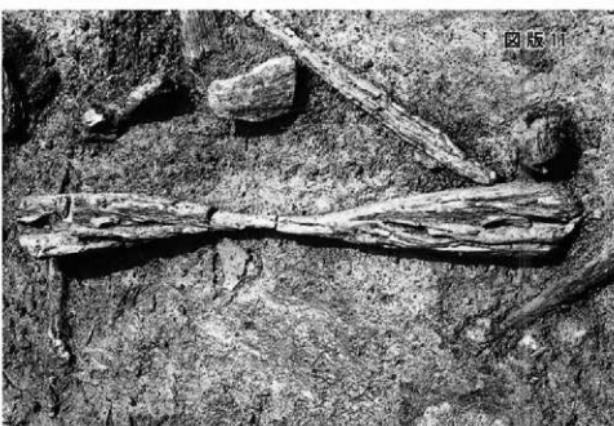
杭材檢出土狀況



杭材檢出土狀況



堅杆 (390) 出土狀況(1)



堅杵 (390) 出土狀況(2)



堅杵 (391) 出土狀況(1)



堅杵 (391) 出土狀況(2)



堅杵 (393~395) 出土状況



堅杵 (393) 出土状況



堅杵 (395) 出土状況



堅杵（394）出土状況



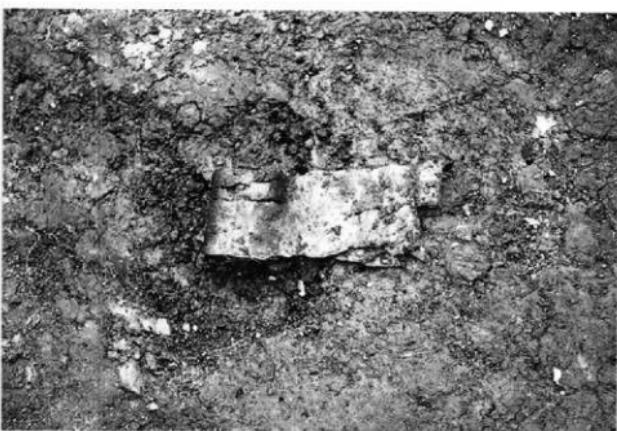
木製品出土状況



たたり出土状況



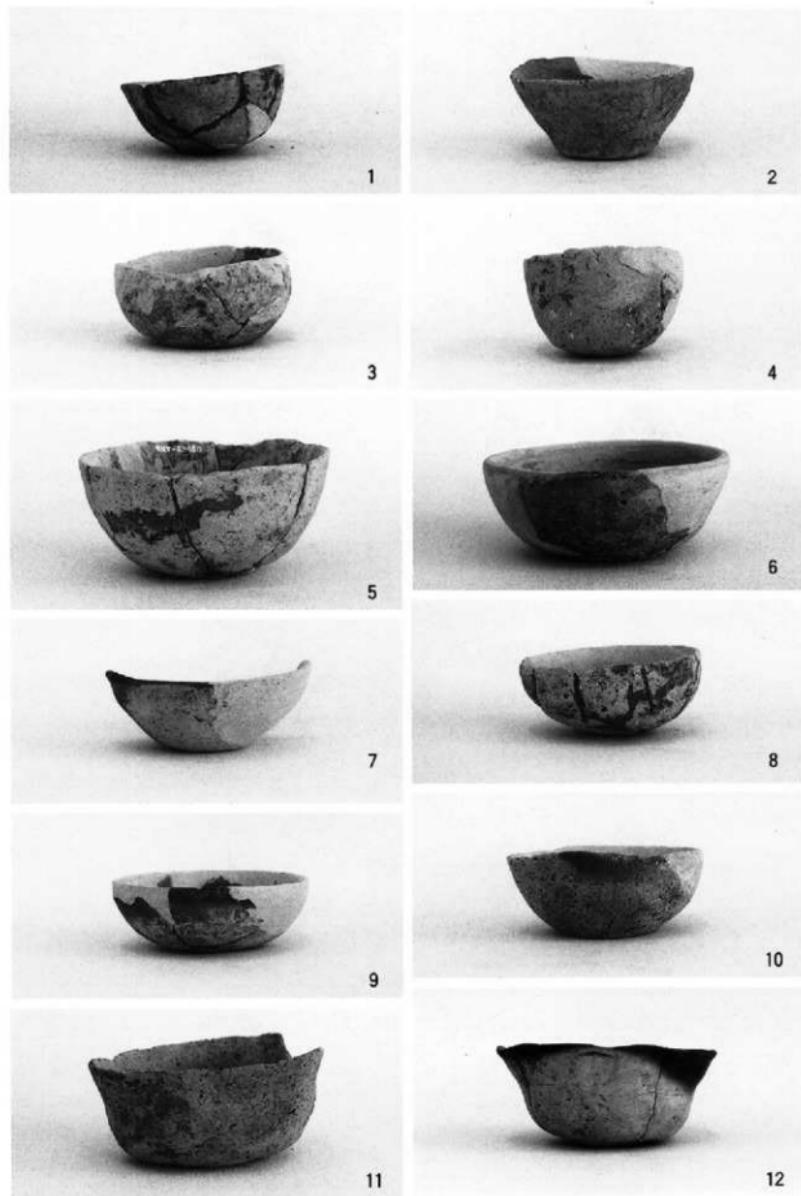
土器出土狀況



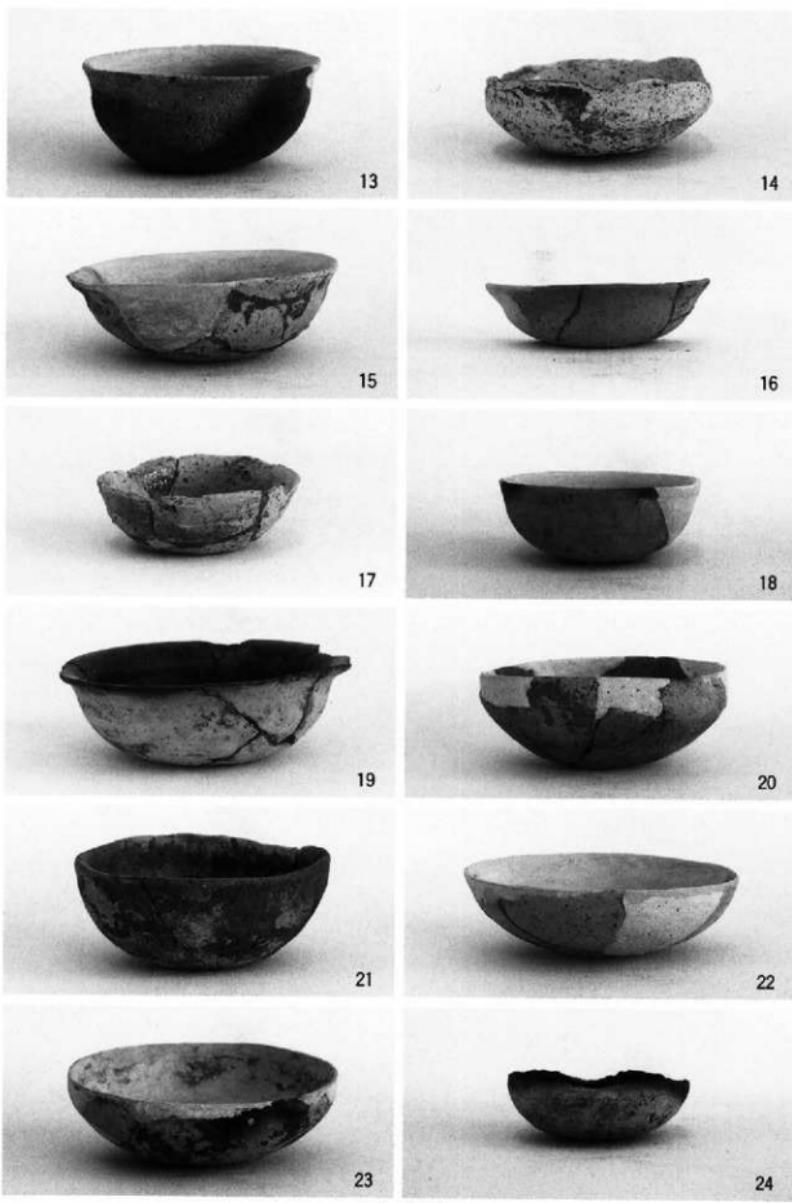
皮狀製品出土狀況

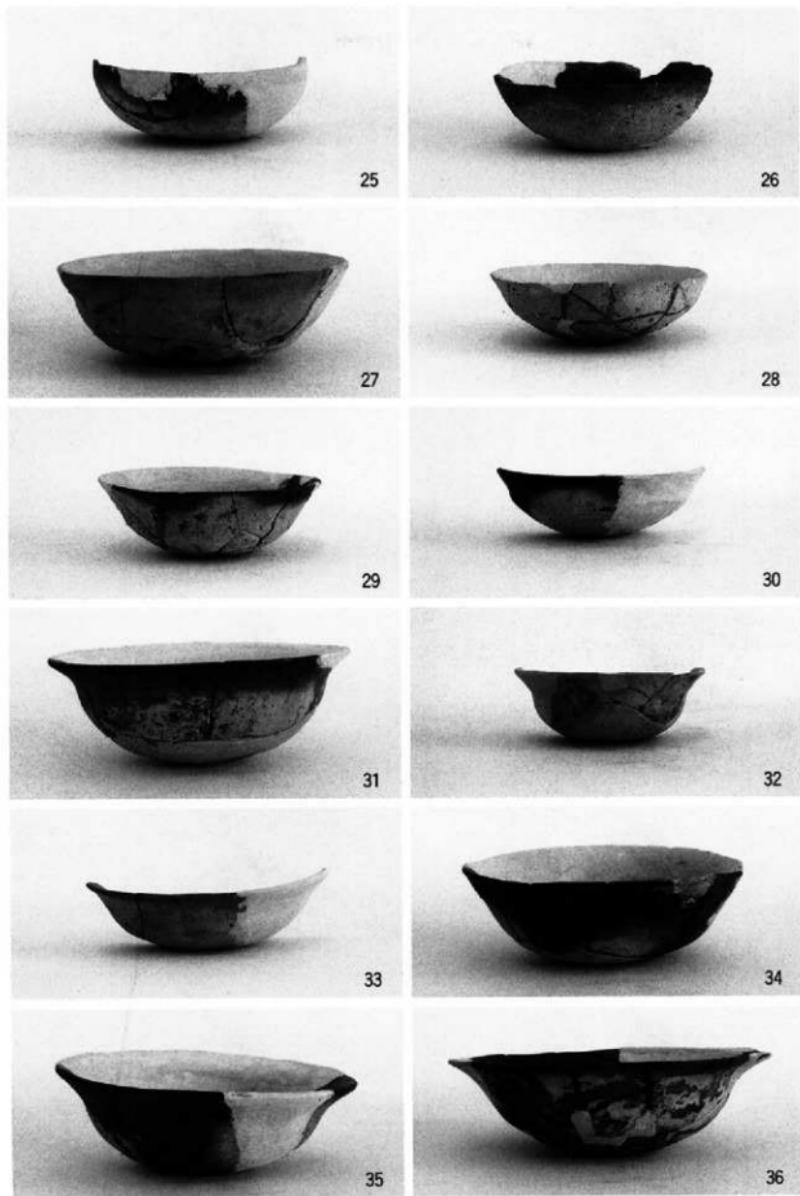


皮狀製品出土狀況

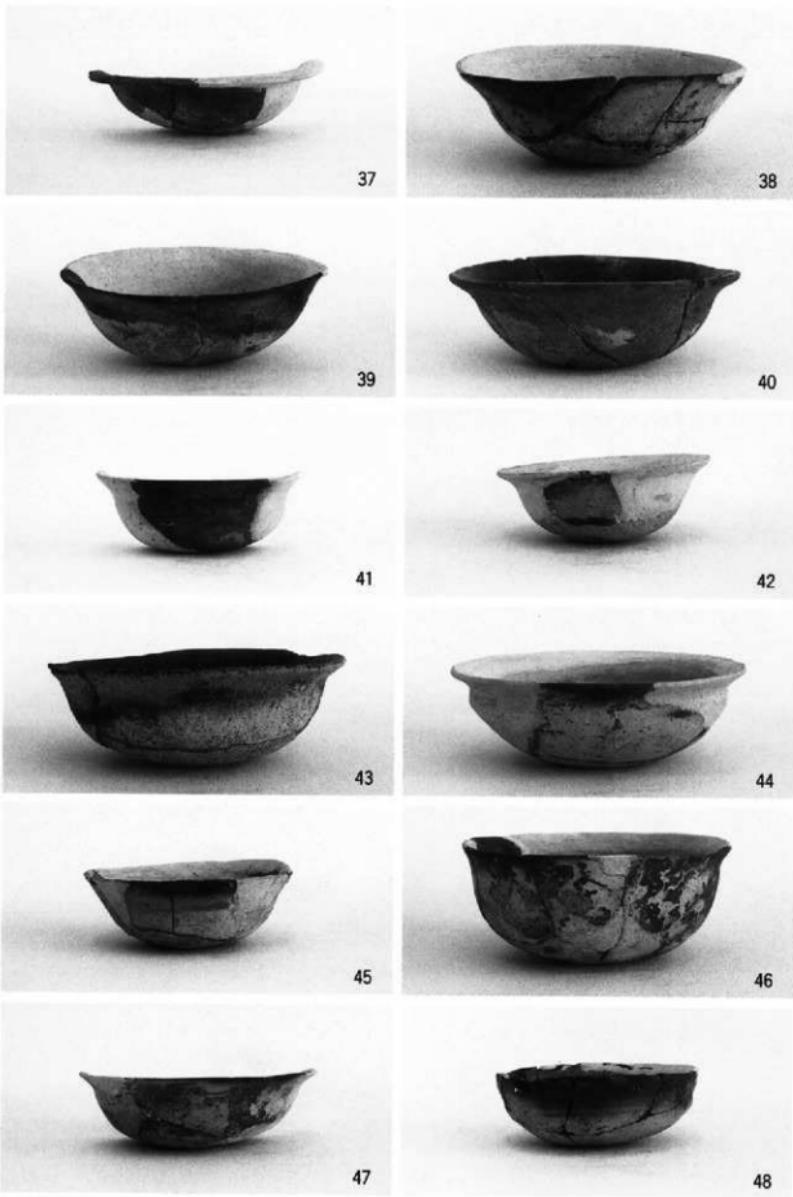


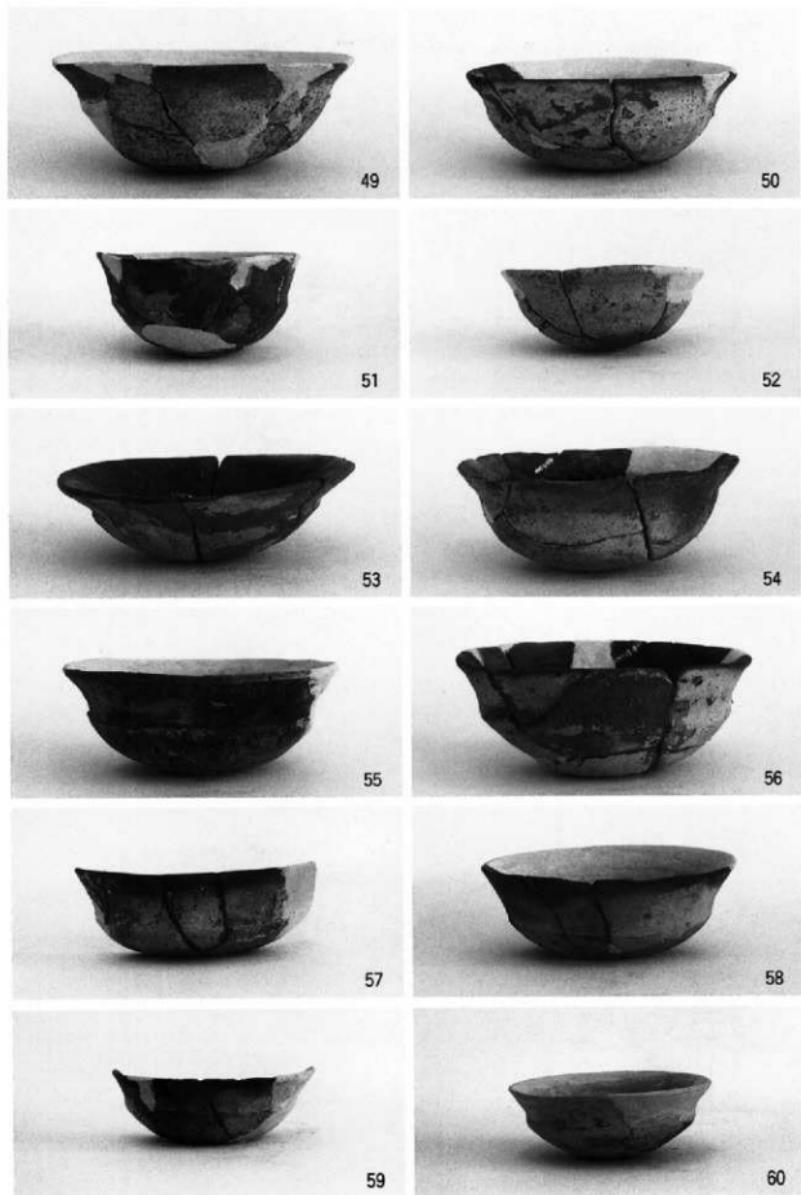
出土遺物(1)



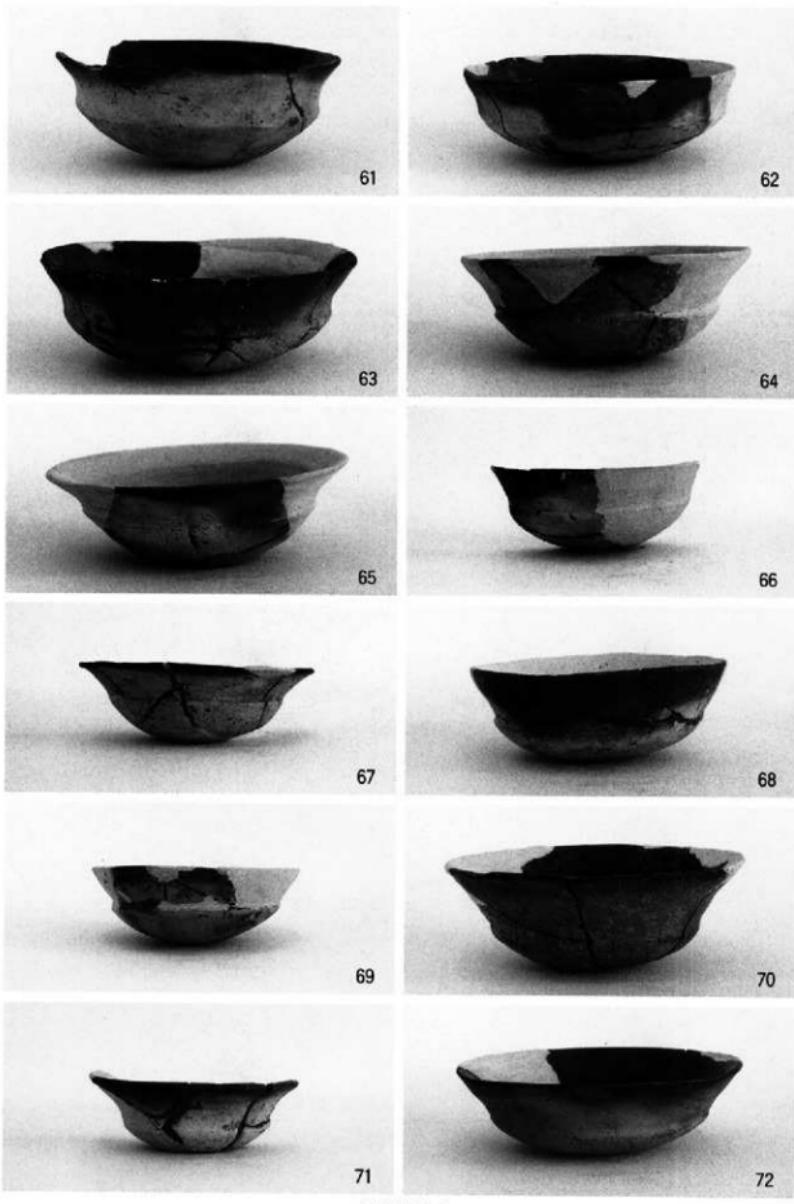


出土遺物(3)





出土遺物(5)



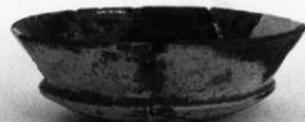
出土遺物(6)



73



74



75



76



77



78



79



80



81



82

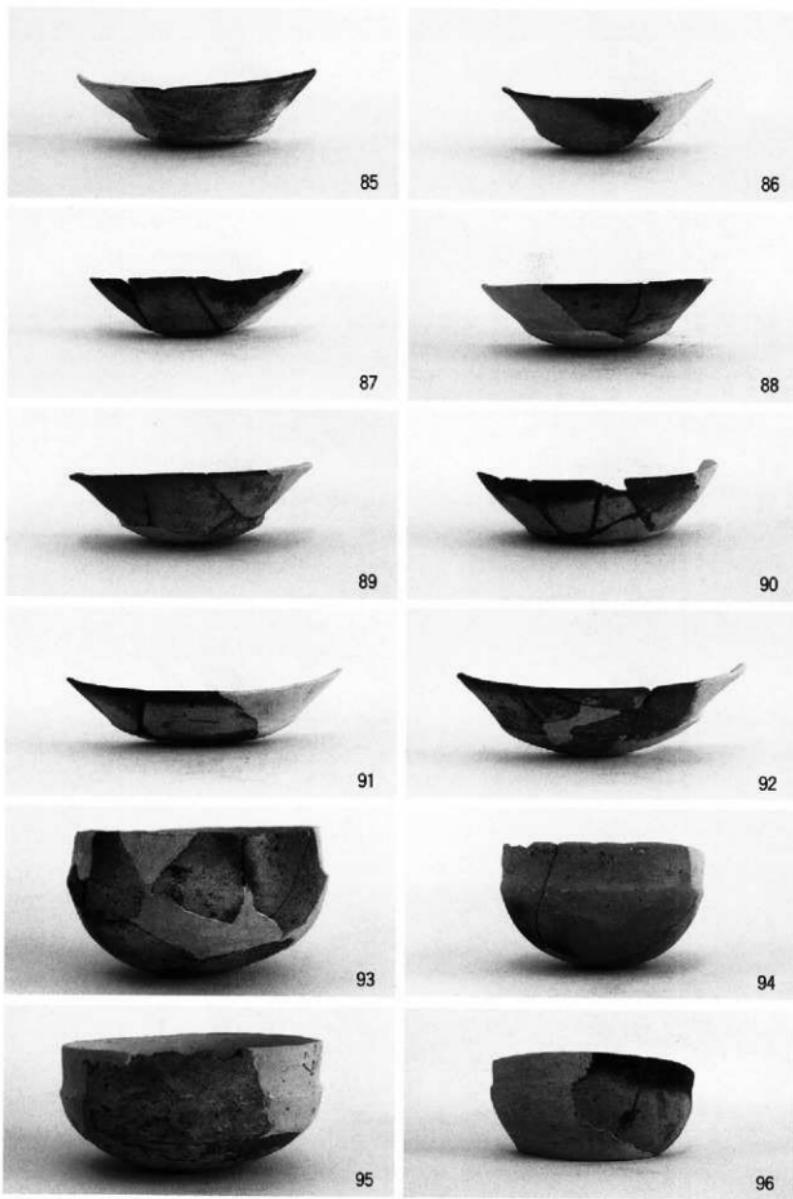


83

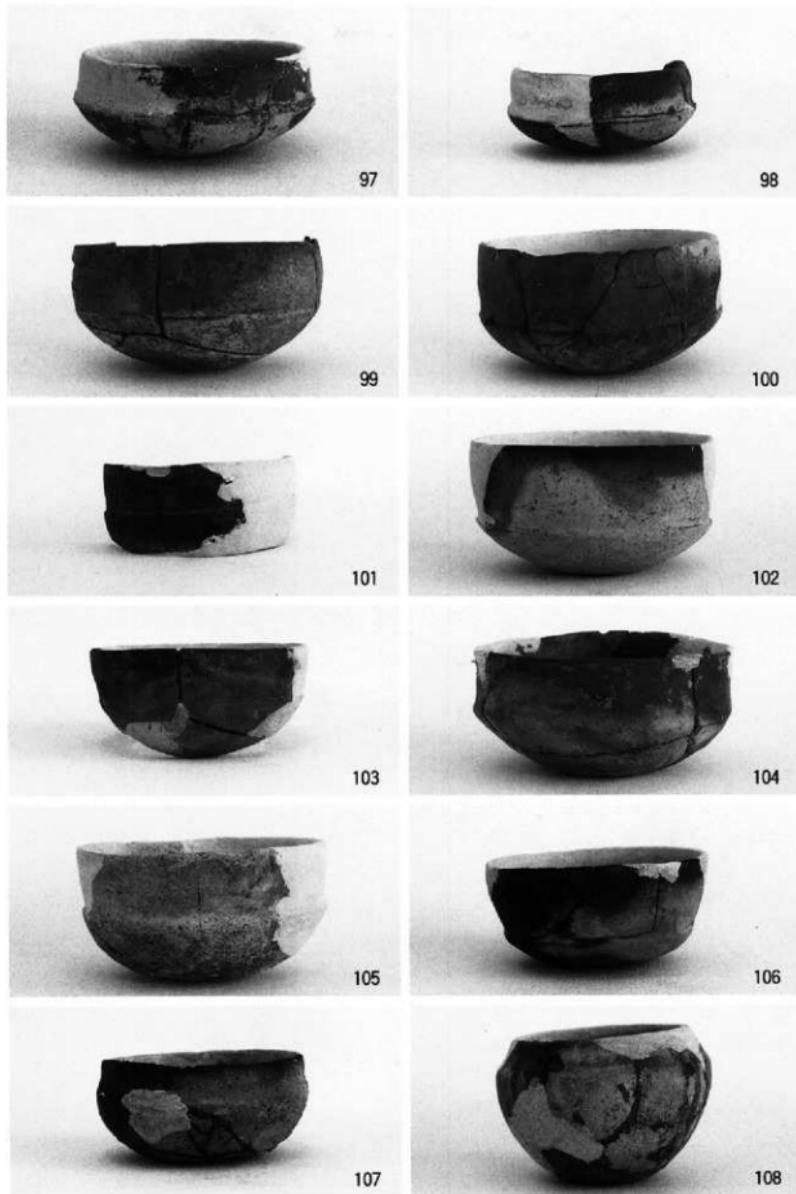


84

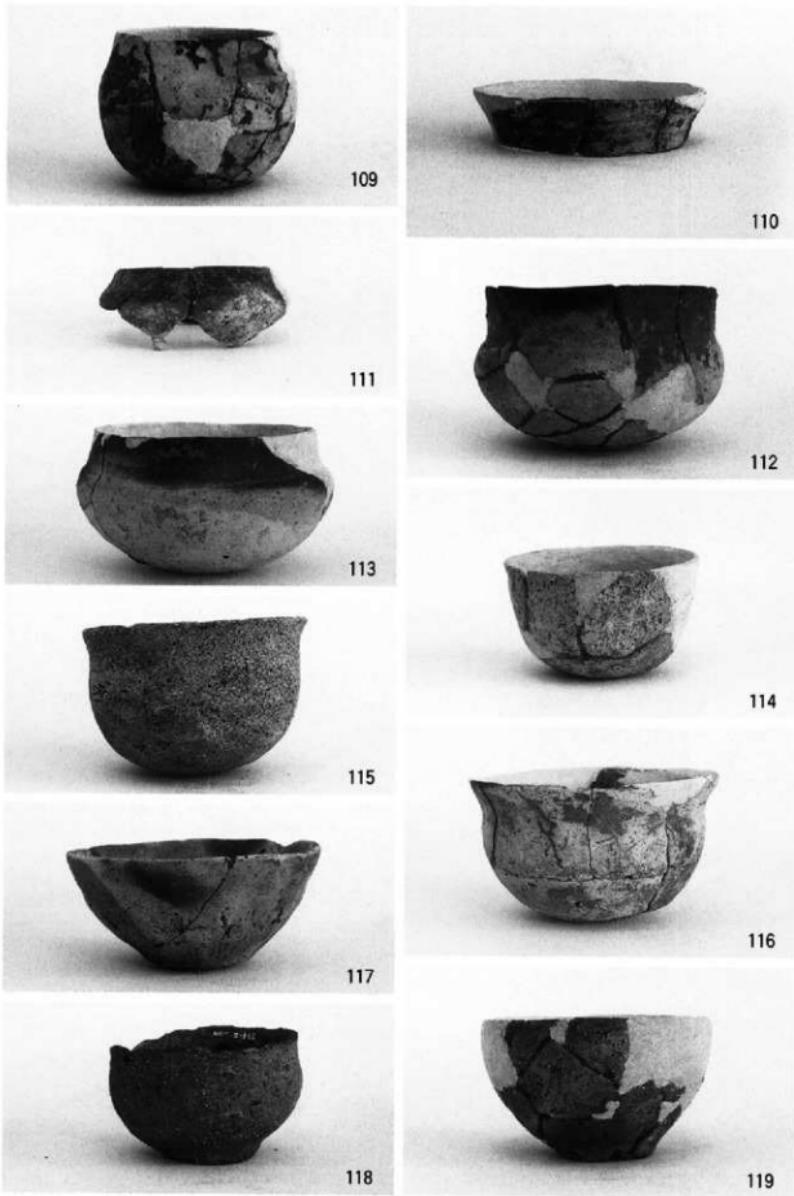
出土遺物(?)



出土遺物(8)



出土遺物(9)



出土遺物(10)



120



121



122



123



124



125



126



127

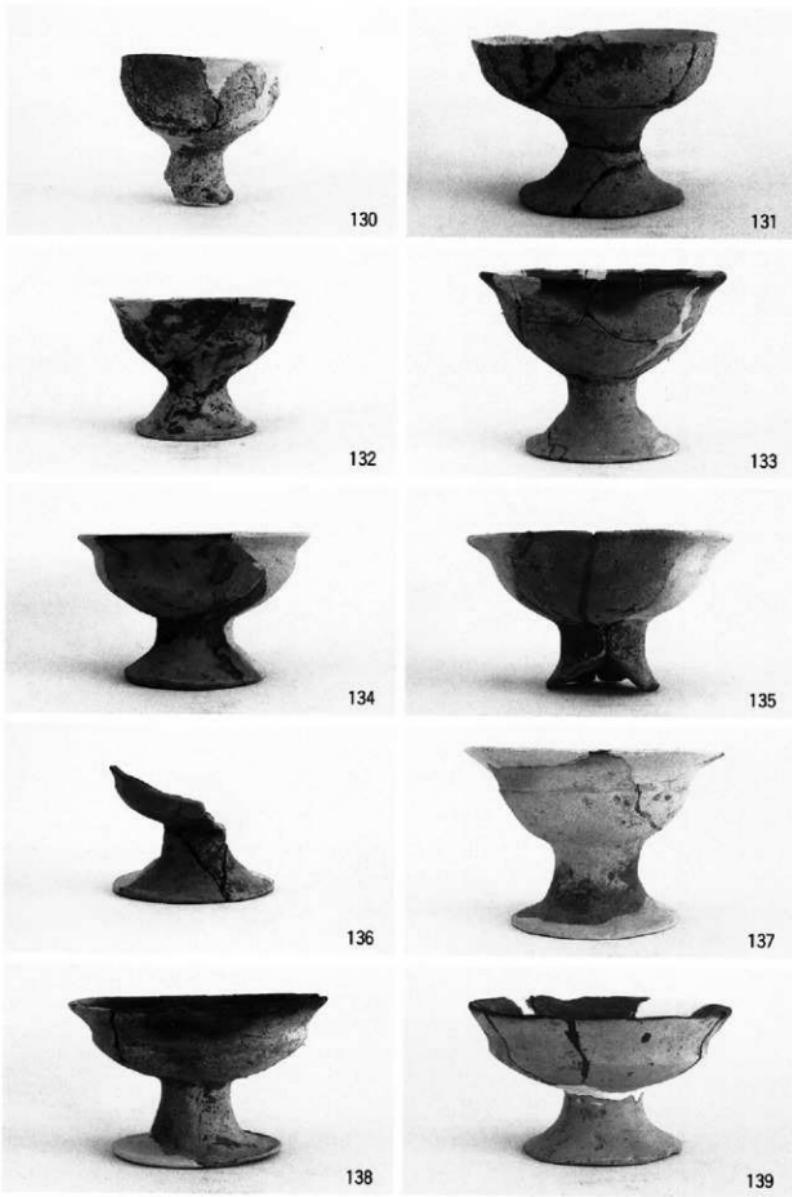


128



129

出土遺物(1)



出土遺物(12)



140



141



142



143



144



145



146



147



148



149

出土遺物(3)



150



151



152



153



154



155



156



157



158



159

出土遺物(4)



160



161



162



163



164



165



166



167



168



169



170



171



172



173



174



175



176



177



178



179

出土遺物(16)



180



181



182



183



184



185



186



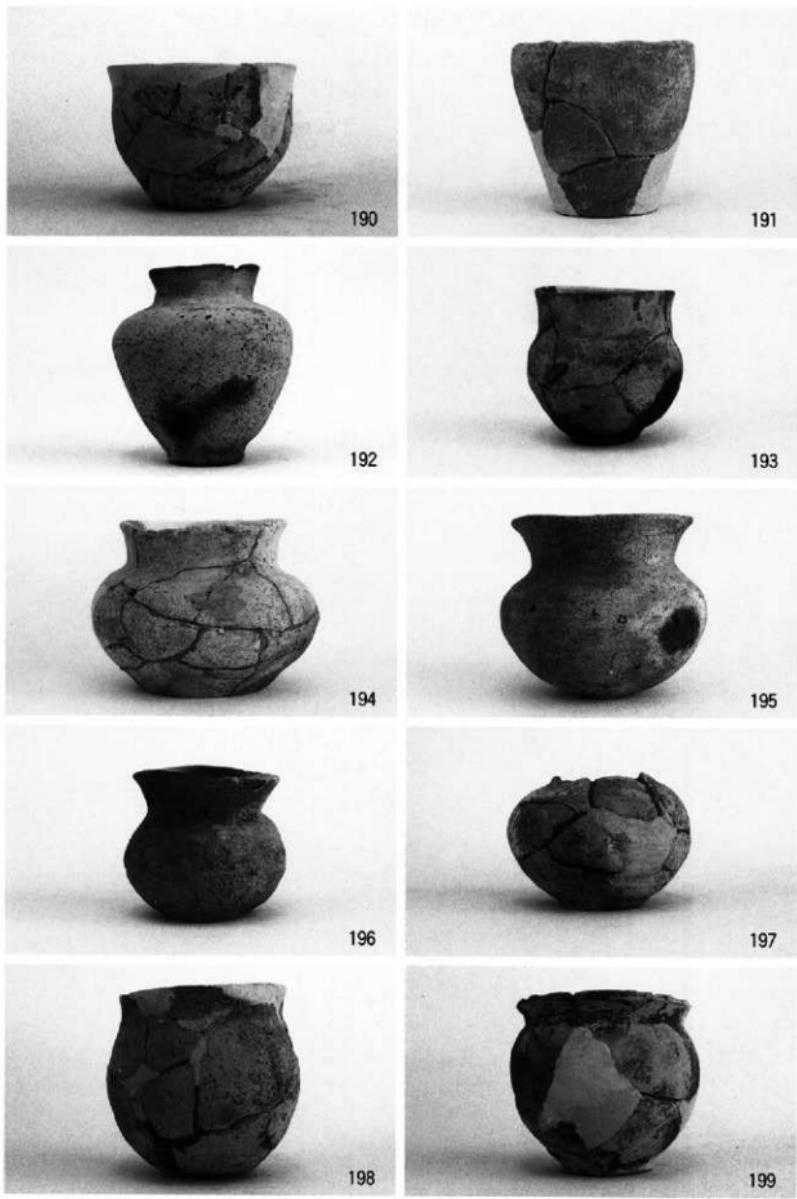
187



188



189



出土遺物(18)



200



201



202



203



204



205



206



207



208



209

出土遺物(19)



210



211



212



213



214



215



216



217



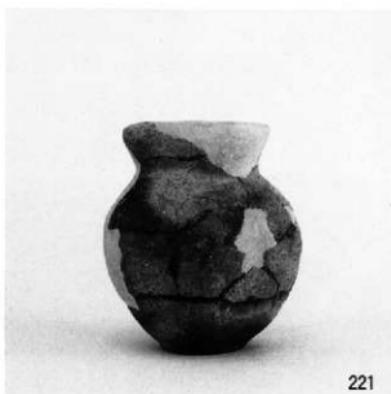
218



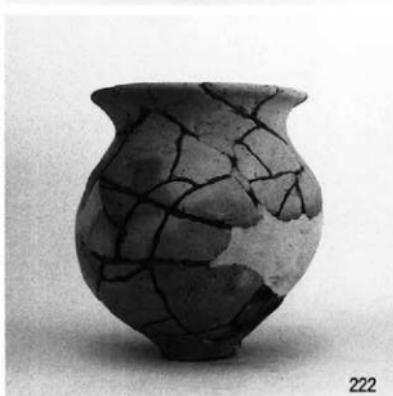
219



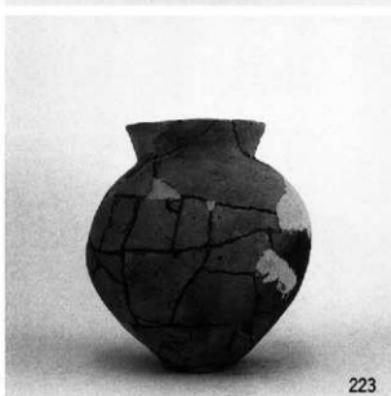
220



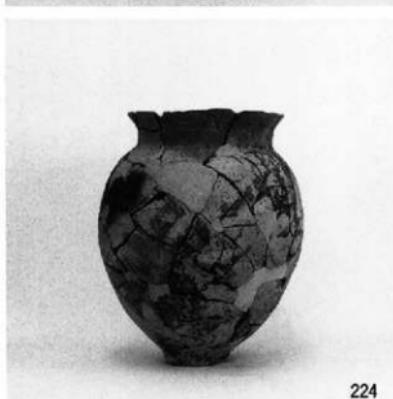
221



222



223



224



225

出土遺物(2)



226



227



228



229



230



231

出土遺物[2]



232



233



234



235



236

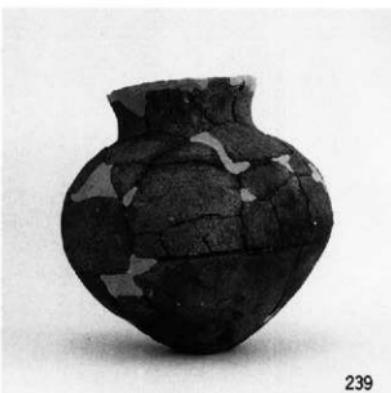


237

出土遺物<sup>[23]</sup>



238



239



240



241



242



243

出土遺物[24]



244



245



246



247



248



249

出土遺物(25)



250



251



252



253



254

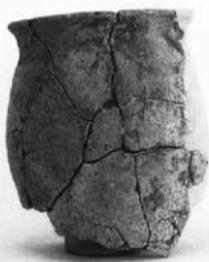


255

出土遺物(26)



256



257



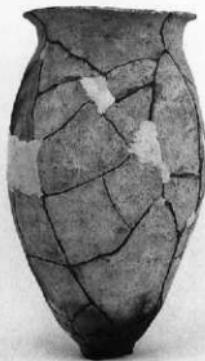
258



259

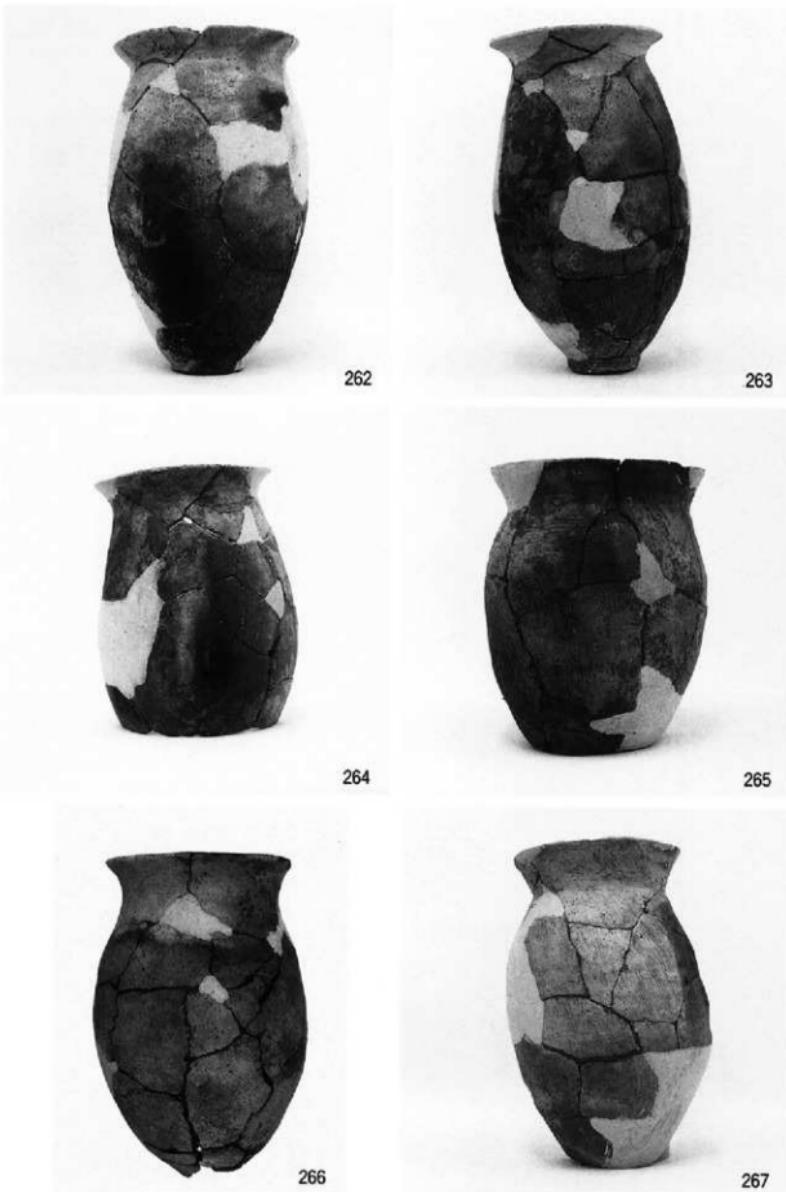


260



261

出土遺物<sup>27</sup>



出土遺物<sup>(28)</sup>



268



269



270



271



272



273

出土遺物④



274



276



275



277



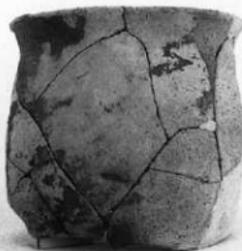
278



279



280



281



282



283



284



285



286



287



288



289

出土遺物(31)



290



291



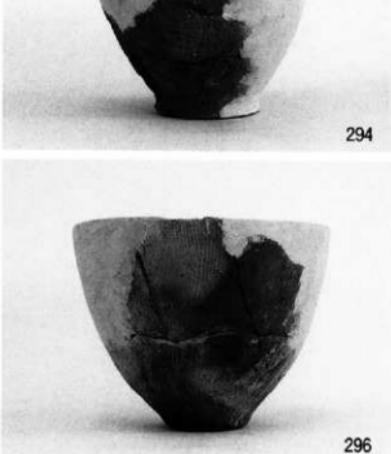
292



293



294



295

出土遺物(3)



297



298



299



300



301



302



303



304

出土遺物(3)



出土遺物<sup>[34]</sup>



311



312



313



314



315



316

出土遺物<sup>(35)</sup>



317



318



319



320



321



322

出土遺物[36]



323



324



325



326



327



328

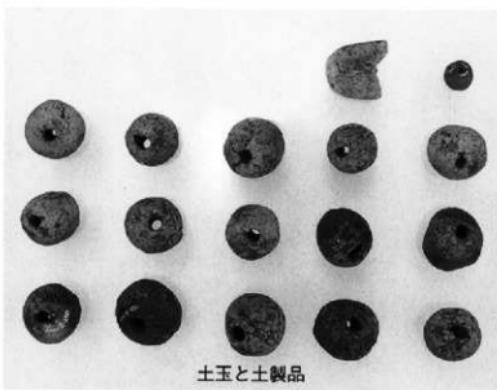


329

出土遺物(3)



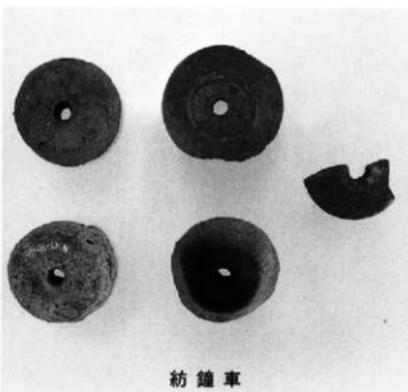
ミニチュア土器



土玉と土製品



366



紡錘車



支柱

出土遺物(38)



368



369



370



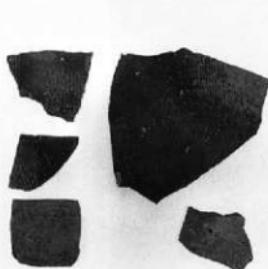
371



372



出土須恵器(1)



出土須恵器(2)



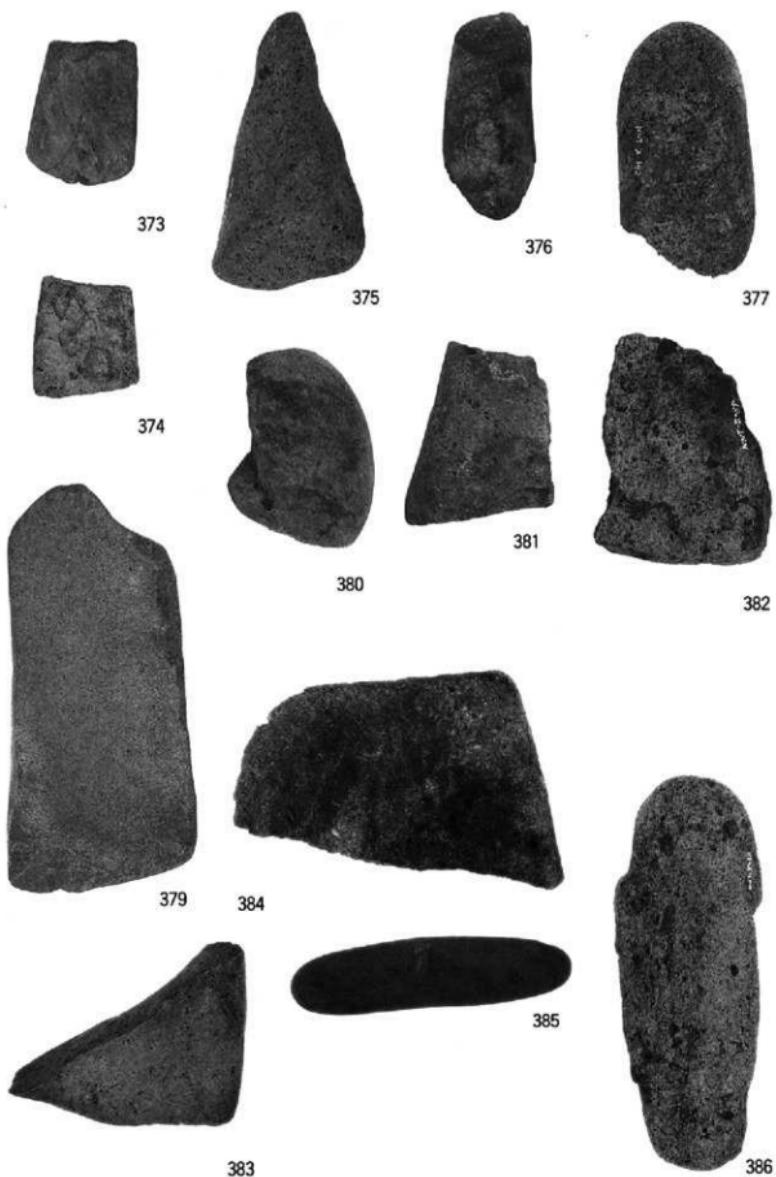
出土須恵器(3)

出土遺物39



367及び同一個体

出土遺物(40)



出土遺物(4)





炭化米



桃の核



クルミ



トチの実

クリ

## 報告書抄録

ふりがな	てんどうしにしぬまたいせき						
書名	天童市西沼田遺跡						
副書名	第Ⅱ次発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名	天童市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第32集						
編著者名	押野一貴・岡崎友美						
編集機関	天童市教育委員会						
所在地	〒994-8510 天童市老野森一丁目1番1号						
発行年月日	平成18年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
西沼田遺跡	天童市大字 矢野目字沼 田地内	6210	344	38° 21' 24"	140° 20' 44"	1998.6.15~ 1998.8.12	2240m <sup>2</sup> 史跡の保 存・整備 計画に伴 う発掘調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
西沼田遺跡	集落跡	古墳時代	河川、建築部材等	土師器、須恵器、石器、木製品	特になし		

天童市埋蔵文化財調査報告書第32集

## 天童市西沼田遺跡

－第Ⅱ次発掘調査報告書－

平成18年3月31日

---

編 集 天童市教育委員会

發 行 天童市教育委員会  
天童市老野森一丁目1番1号  
TEL 023-654-1111㈹

印 刷 中央印刷株式会社  
TEL 023-631-5533㈹

---